

第157図 第31号住居址覆土出土土器（土）

これらの土器は曾利Ⅲ式期に比定でき得るであろう。

石器はすべて床面よりの出土で14点である。その内訳は打製石斧11点、磨製定角石斧・特殊敲打器・横刃形石器各1点ずつである。外に硬砂岩の剥片28片、砂岩質のもの2片、緑泥片岩質のもの1点が出土している。

1～6は打製石斧である。6は楔形、他は短冊形である。1はa類、2～4はb類、5はc類、6はd類である。石質は1・4は緑泥岩、2・3・6は硬砂岩、5は緑泥片岩である。図示したほかに5点の打製石斧があり、すべて破損しており短冊形である。



15



17



18



19



21



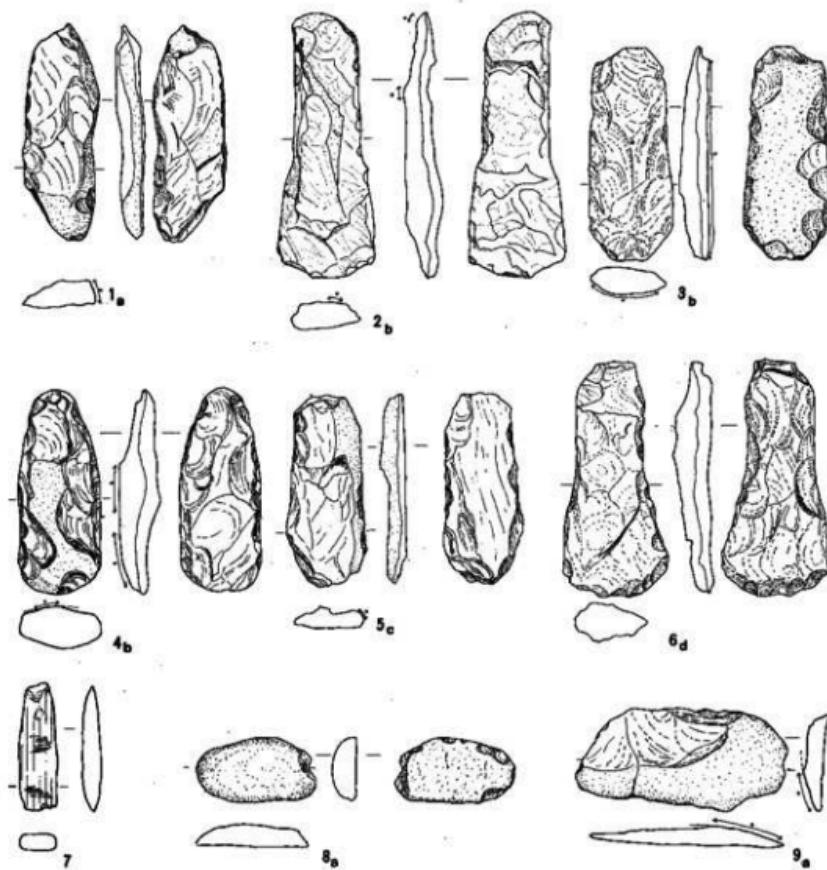
22

第158図 第31号住居址床面出土土器（上）

7は縁泥岩製の磨製の定角石斧である。刃部にわずか破損部がみられる。

8は特殊敲打器でまったくの自然石を利用したa類に属する。硬砂岩製である。

9は硬砂岩製の横刃形石器でa類である。



第159図 第31号住居址床面出土石器 (上)

30 第32号住居址（第100～163図）

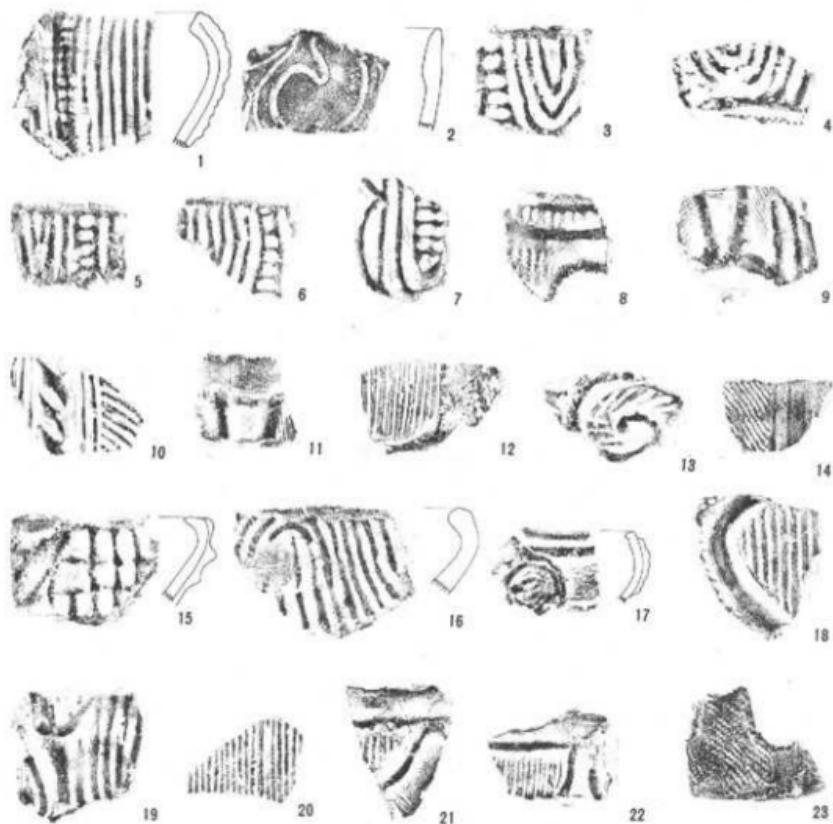
遺構（第160図）

当住居址に第30号住居址の北に接するものである。第30号住居址との間には多くの土塁がありその複合関係はプランからでははっきりしない。第30号住居址との床面差は20cm前後を測ることができる。

プラン・大きさはまったく不明である。床面はあまりタタキがされてない。



第160図 第32号住居址実測図 ($S = \frac{1}{50}$)



第161図 第32号住居址出土土器 (1~14は覆土、15~23は床面出土)

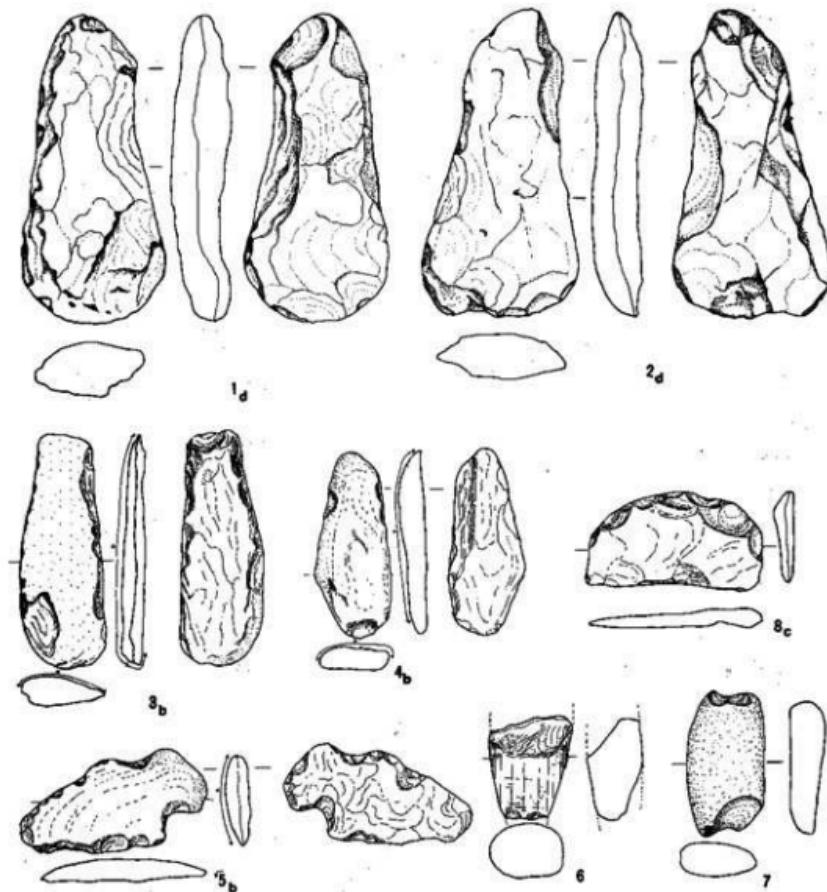
炉は石組みで、75×50cmを測る。西側は抜かれたものか炉石はない。内部は舟底形に掘られ焼土が充満している。

炉の南東床面に石皿（第163図-17）が発見されている。

遺物（第161~163図）

土器は比較的少ない。覆土出土のもの（1~4）と床面出土のもの（15~23）との間には時間差はみられない。

曾利I式に統じて類似するものである。14はやや後出するものである。21・22は櫛形文を持



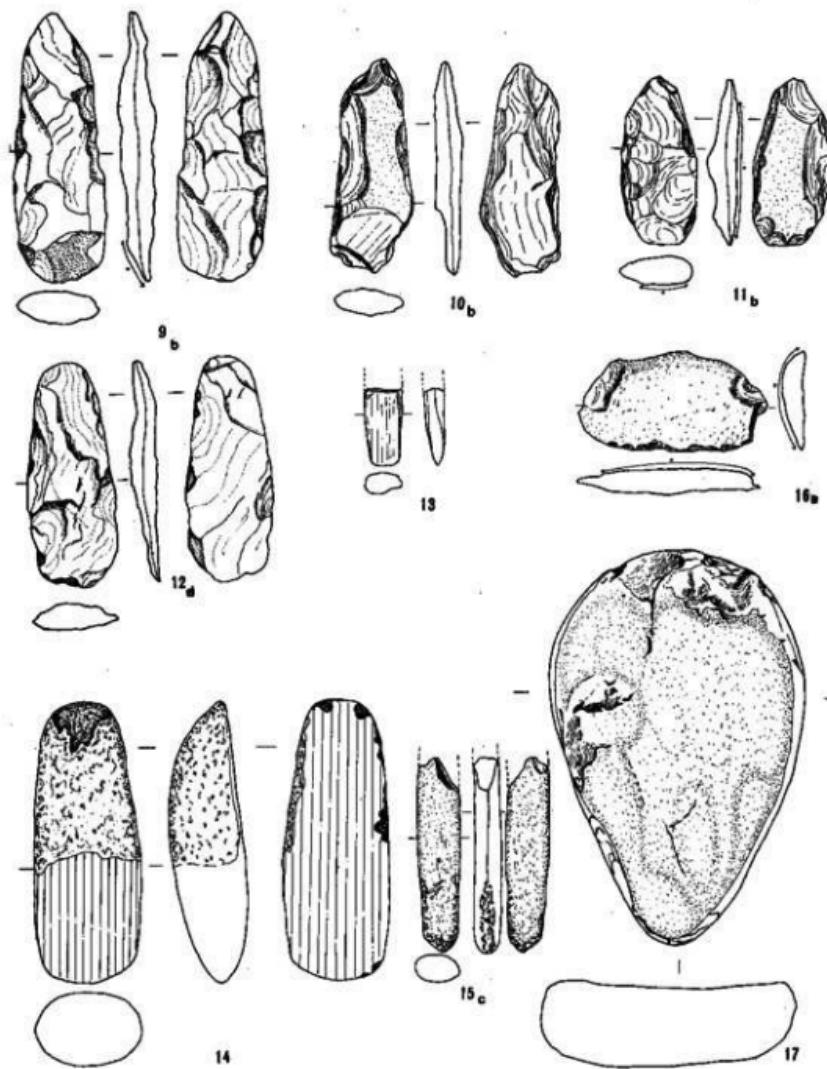
第162図 第32号住居址覆土出土石器（+）

ちやや先行する。

住居址は曾利1式期の初頭に位置付けられよう。

石器は土器の出土量に比べて多く全部で25点出土している。覆土より11点、床面より14点の出土である。

覆土出土の石器の内訳は打製石斧7点、大形粗製石匙・磨製乳棒状石斧・石錐・横刃形石器



第163図 第32号住居址床面出土石器 (17は骨、他は石)

各1点ずつである。打製石斧7点のうち完形品は4点である。形態的には揆形2点のほかは短骨形である。

床面出土石器の内訳は打製石斧8点、磨製定角石斧、磨製蛤刃石斧・敲打器、横刃形石器、石皿・大形粗製石匙各1点ずつである。8点の打製石斧のうち完形品は4点である。すべて短冊形である。大形粗製石匙はつまみ部のみで形態は不明である。

1~4、9~12は打製石斧である。1・2は揆形、他は短骨形である。自然面を両面に持つa類、自然面を測面ないしは刃・頭部に持つc類ではなく、b類(3・4、9~12)とd類(1・2)だけである。石質は1・2・9・12が硬砂岩、3・4・11が緑泥岩、10が安山岩である。

13は緑泥岩製の磨製定角石斧で頭部を欠いている。14は緑泥岩製の磨製蛤刃石斧である。片面頭部側は敲打痕を残して磨かれていません。また頭部にも細かい敲打痕が残っている。6は磨製の乳棒状石斧の洞部破片である。石質は凝灰岩である。

5は硬砂岩製の横形の大形粗製石匙で調整は丹念な方である。

7は硬砂岩製の縦形の礫石錘である。15は細長い緑岩岩の測面を利用した敲打器c類である。

8・16はともに硬砂岩製の横刃形石器で8はc類、16はa類である。

17は砂岩製の石皿で炉の南東床面より出土したものである。表面はわずかに凹面をつくるが全体を利用している。

31 第33号住居址（第152、164~166図）

遺構（第152図）

本住居址は第30号住居址の南にあって同一床面レベルで複合することはすでに述べたところである。

プランは北壁が短くなる隅丸台形である。大きさは南北4.0m、東西南壁4.3m、北壁3.5mを測ることができる。住居址の主軸方向はS-19°-Wである。

壁高は一定せず、北東部が40cmと最も高く南に行くに従い低くなって25cmである。西壁はも一軒住居址があるのか、わずか4~5cmのものである。

床面は部分的に凹む所があるが、全体に固くたたきしめられており良好である。

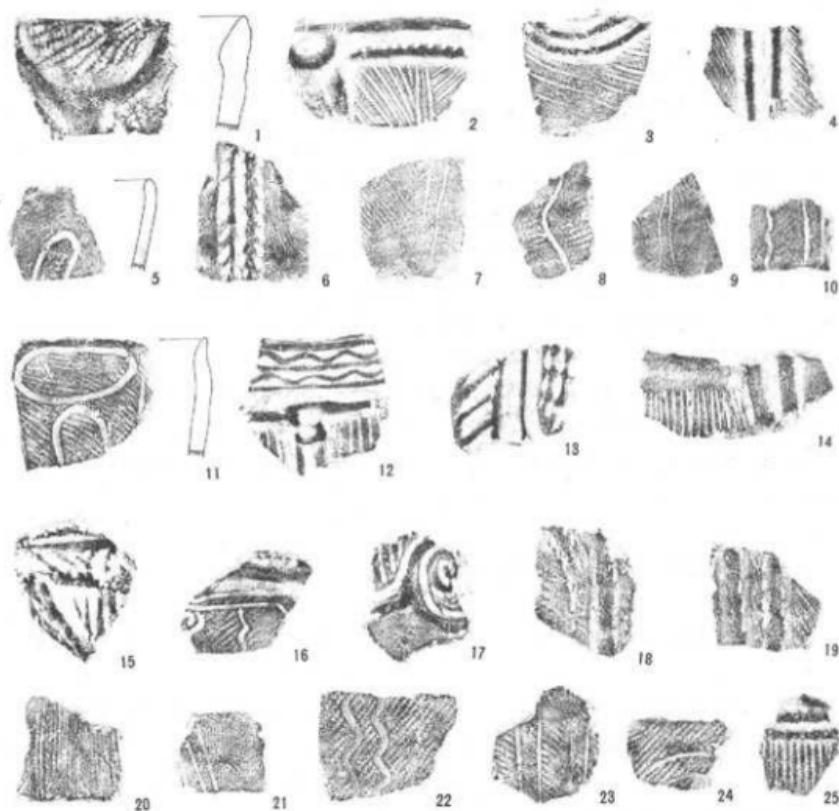
主柱穴はP₁・P₂・P₄・P₉・P₁₀の5本と考えられる。

炉は住居址中央北寄りに位置し、長方形の石組み炉である。大きさは外形100×85cm、内形で65×45cmを測る。内部は床面を25cmほどやや舟底状に掘り込んでいる。炉石は西・北・東の三方では縦長に用いている。南側は3個の小さな石を横長にすえ、その上に細長い石をやはり横長にのせている。2段に炉石を組んであるところは第18・22号住に類似する。焼土は炉内に充満している。

遺物（第164~166図）

出土土器は少ない。覆土出土のもの（1~10）と床面出土のもの（11~25）とがあるが時間差はみられない。

縄文を持つ一群とそうでないものとに大別できる。縄文を持つものの中には、後出する結節

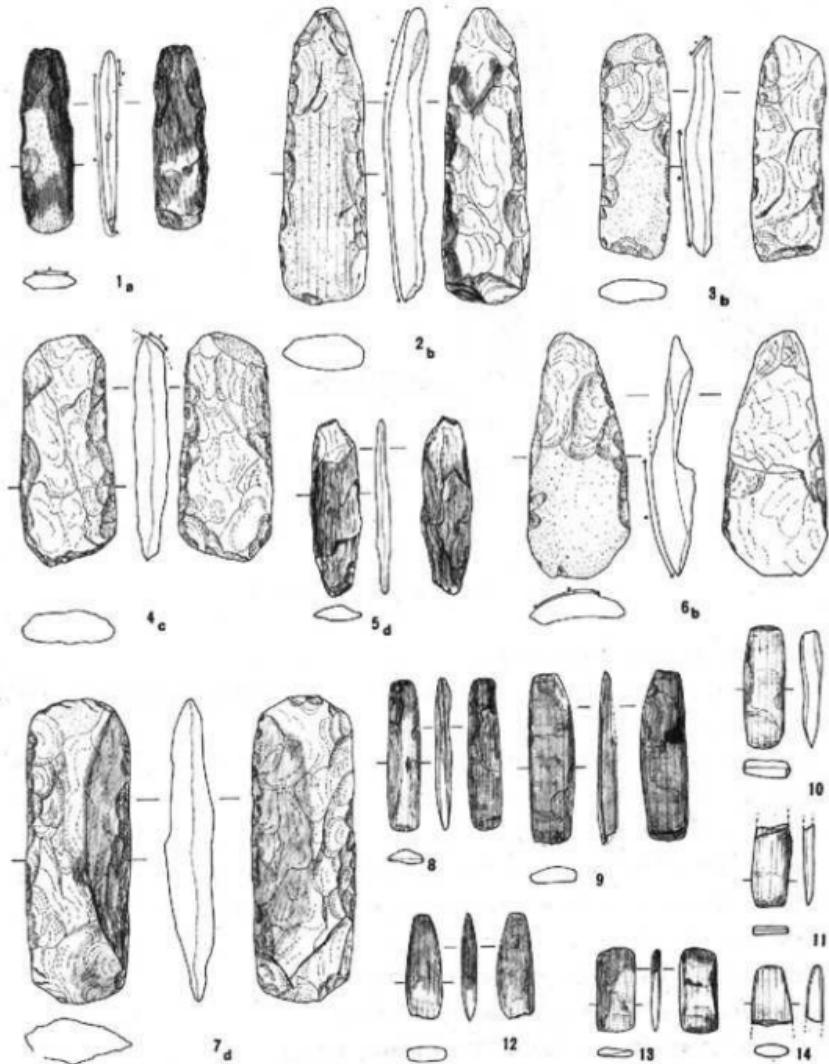


第164図 第33号住居址出土土器（1、1~10は覆土、11~25は床面出土）

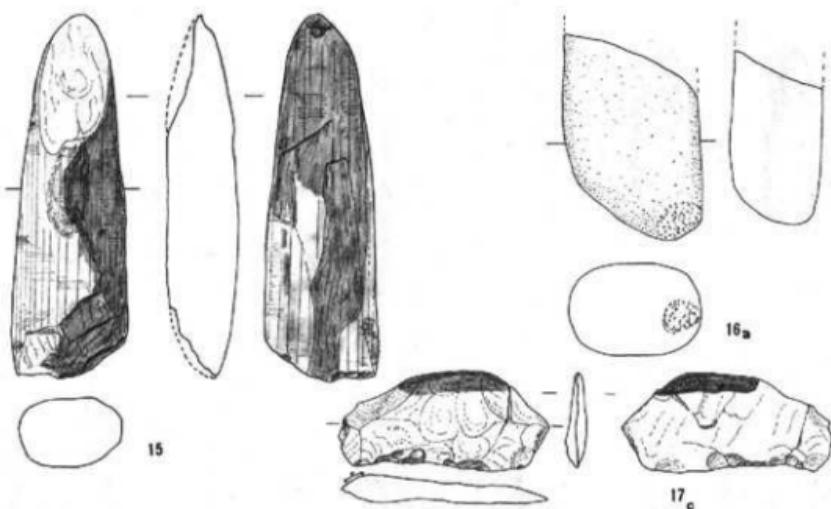
縄文を持つものはない。これらの縄文を持つ土器は曾利期の前半に共伴することが知られている。

土器の時期は曾利Ⅰ式要素もみられるが曾利Ⅱ式期に比定されるであろう。

次に石器であるがすべて床面出土で19点である。第152図中に示した住居址北西壁に12点の石器が重なって出土している。これらの石器は多い少ないは別として黒色タール状のものがぬられている。石器実測図中黒色のぼかしのある部分が塗彩された所である。炭化物の付着とは明らかに異なっているが、何であるかははっきりしない。うるしの可能性も考えられる。1・2



第165図 第33号住居址床面出土石器 (+)



第166図 第33号住居址床面出土石器（ $\frac{1}{2}$ ）

5、7～13、15・17がその石器である。

19点の石器の内訳は打製石斧9点、磨製定角石斧6点、磨製蛤刃石斧・敲打器・横刃形石器各1点である。

1～7は打製石斧で、6の撫形を除き短彎形である。1はa類、2・3・6はb類、4はc類5・7はd類である。石質は2～4、6・7が硬砂岩、1・5は緑泥岩である。このほかに刃部を欠損した短彎形のものが2点ある。

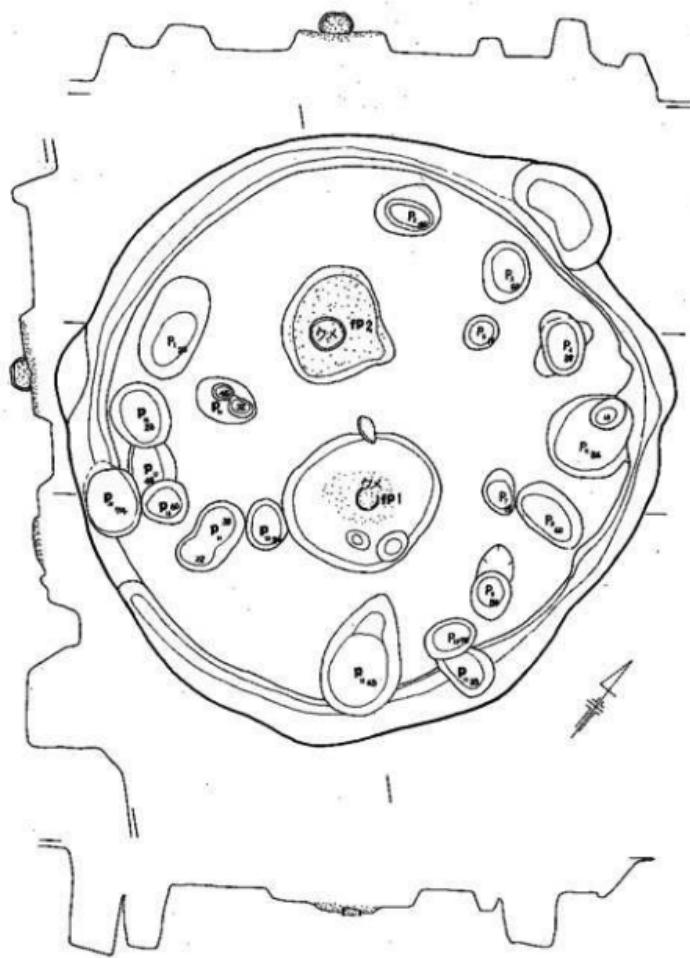
8～14は磨製の定角石斧で、石質はすべて緑泥岩である。他の住居址に比べて非常に出土量が多い。また9はやや大きいが他は小ぶりのもので14を除き先に述べたように一括出土しており興味深い。

15は緑泥岩製の磨製の蛤刃石斧で頭部と刃部の片面を描っている。

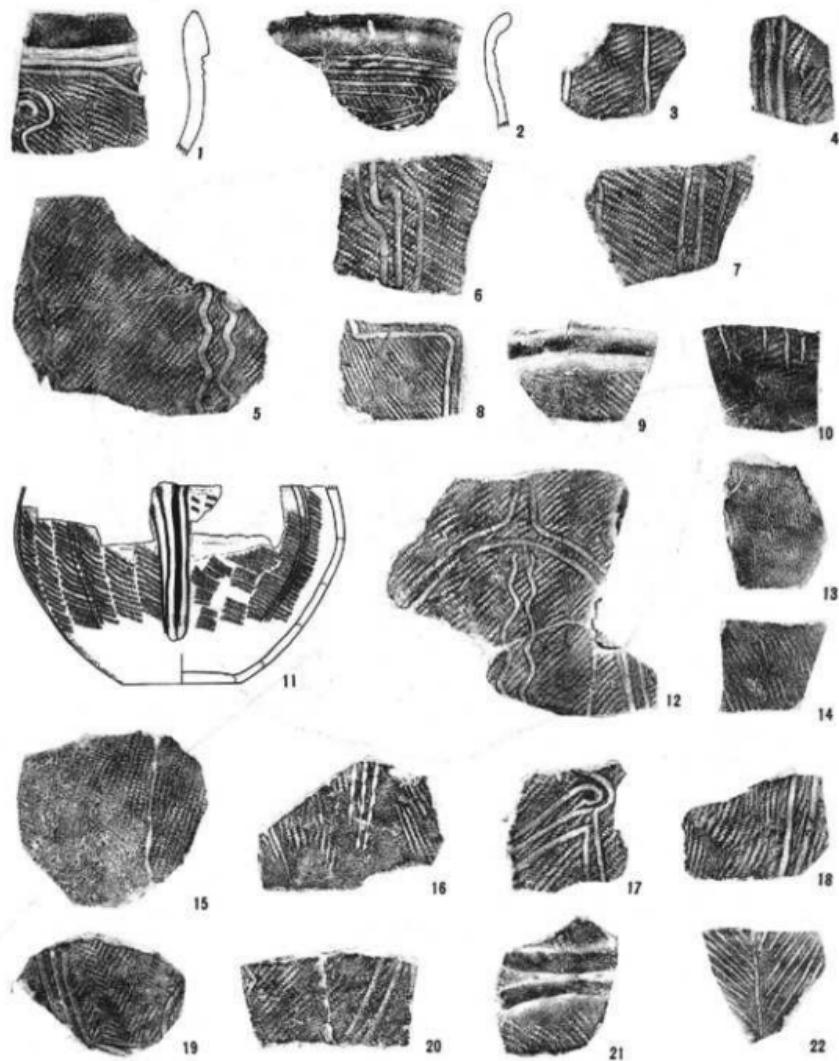
16は硬砂岩製の礫の端部を利用した敲打器a類である。

17は全く自然面を持たないc類の横刃形石器で硬砂岩製である。

硬砂岩質の剝片9片と砂岩質のもの1点が出土している。

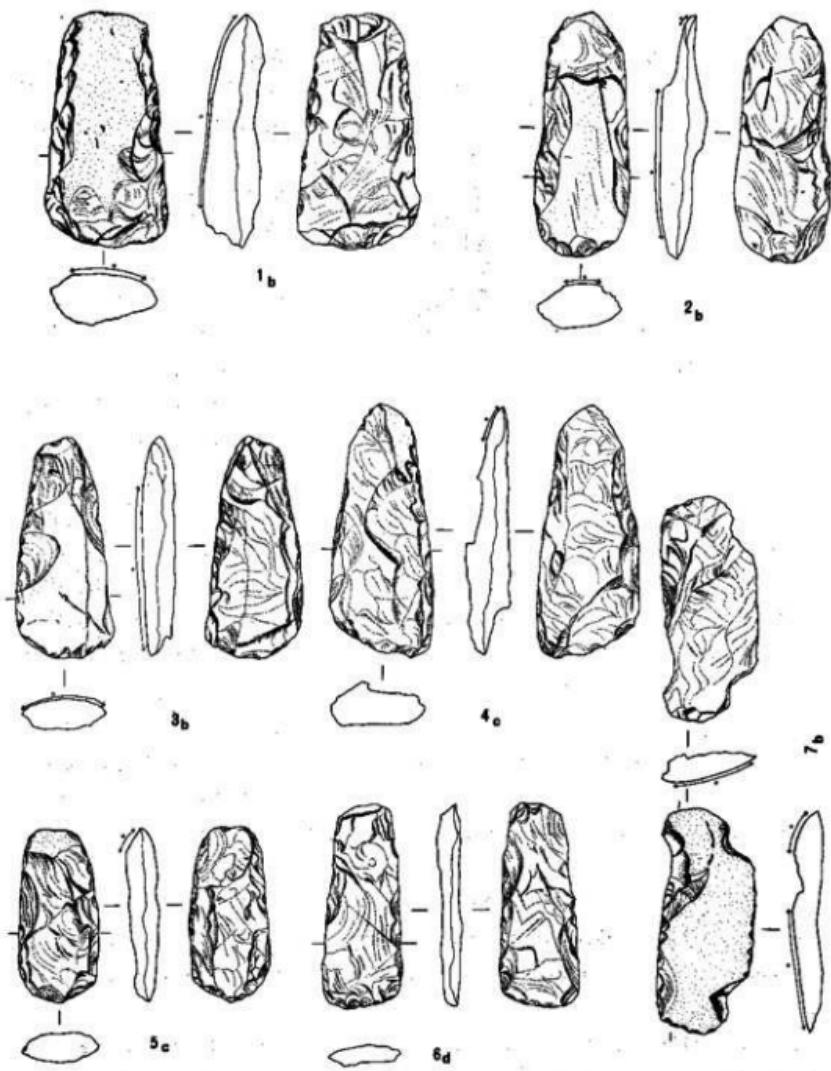


第167図 第34号住居址実測図 (S-16)



第168図 第34号住居址出土土器

(11は壺、他は片、1~10は覆土、12~22は床面出土、11は炉(2)内埋設土器)



第169図 第34号住居址床面出土石器（十）

32 第34号住居址（第167～170図）

遺構（第167図）

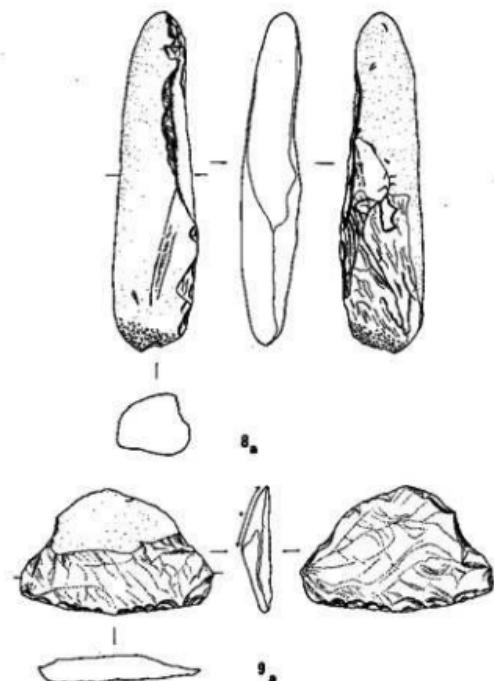
本住居址は第30号・33号住居址の東に位置し、その東側には土塁も住居址もない。南と西側は調査未区域のためはっきりしない。

平面プランは不整ながら円形を呈し、径6.1mを測る。

壁高はほぼ一定し35～40cmを測る。床面は良くなたきしめられており非常に良好である。

主柱穴は4本を基本すると考えられ、柱の移動がみられる。

住居址中央南側に炉1（f P₁）北側に炉2（f P₂）との二つの炉がある。上部はどちらも覆土が充満しており、貼り床の痕跡はまったくなかった。柱の動きなどから考えるに、同時に2個の炉の存在は考えにくく、どちらが古いかはわからないが、一つの炉の存在しか考えられない。住居址の拡張あるいは建て直しによる炉の移動による所産と考えたい。



第170図 第34号住居址床面出土石器（上）

炉1・2ともに石組み炉で炉石は完全に抜かれており、中央部に埋設土器を持っている。

炉1は160×140cmの楕円形に15cmほど掘られ、さらに内部が10cmほど70×50cmの楕円形に掘られている。外側の第1段は炉石のすえられていた痕跡である。中央部焼土内に深鉢形土器の胴部が埋設されていた。完全にはまわっておらず、また非常にもりいため復元実測はできなかった。

炉2は100×115cmの五角形状に20cmほど床面が掘られている。炉1同様中央部に深鉢形土器の底部（第168図-11）が埋められていた。両者の埋設土器には時間差は認められない。

遺物（第168～170図）

土器の出土量は少ない。1～10が覆土、12～22が床面出土のもので11は炉2内埋設土器であるが時間差は認め難い。

22を除き縄文を持つものであるが結節縄文はまったくみうけられない。

11は深鉢形土器の胴下半部で、隆帯による懸重文によって器面を二文し、その間を3本を一組みとする懸垂沈線によってさらに4区分している。磨り消し繩文はみられない。曾利Ⅱ式期に比定される。他の土器も同時期と思われる。

石器は13点出土し、すべて床面出土である。内訳は打製石斧10点、大形粗製石匙・敲打器・横刃形石器各1点ずつである。打製石斧は橢形に近いものもあるがすべて短冊形である。

1～6はすべて硬砂岩製の打製石斧で3・4は橢形に近いが、すべて短冊形である。1～3はb類、4・5はc類、6はd類である。図示した外に短冊形の欠損品4点がある。石質はすべて硬破岩である。

7は硬砂岩製の大形粗製石匙で刃部の一部を欠いている。横形のものでb類である。

8は縁泥岩の自然石の一端を利用した敲打器のa類で測面を欠いている。

9は硬砂岩製の横刃形石器でa類である。

33 第35号住居址（第171～173図）

遺構（第171・172図）

本住居址は第37号住居址の北西ほぼ9mの所にあり、縄文中期の住居址第32・第34号住居址の北東に位置している。中央部貼床下には第41号住居址がある。主軸はS-117°-Wである。

平面プランは不正ながら南壁と北壁のふくらんだ隅丸長方形である。大きさは、東壁・西壁は一辺4m、中央部で4.7mを測る。北壁は4.5m、南壁はやや長くて4.7mである。

壁高は、壁がやや低くて35cm前後、他は高くて45cm前後を測ることができる。

中央部床面は第41号住居址への貼床である。貼り床面は大体10cmほどの厚さで、ロームによるもので、わずかに凹凸はみられるが、良くなたかれ良好である。

主柱穴は4本と考えられるが、P10を除いてはやや浅く問題が残る。

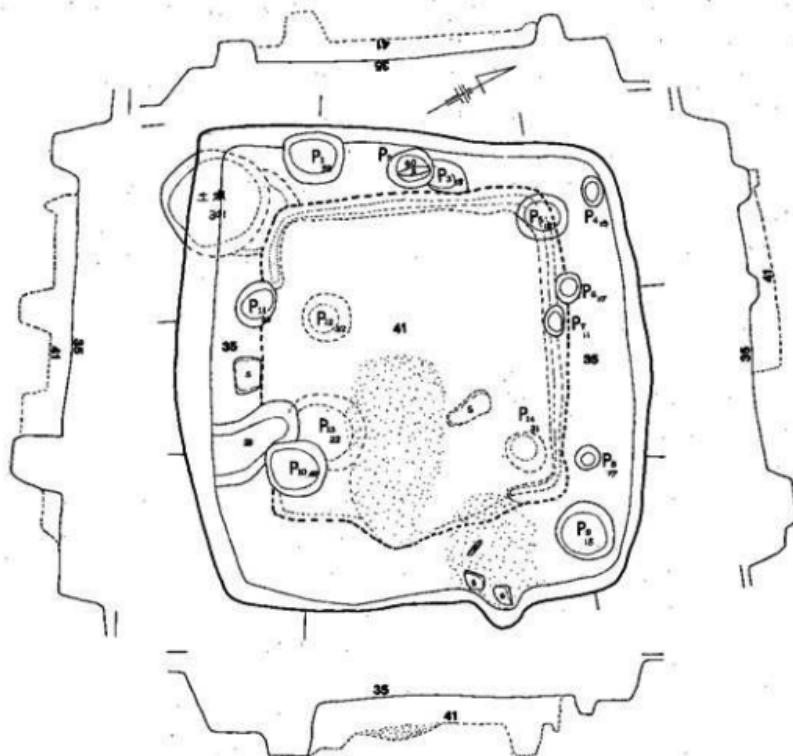
竈は東壁北寄りにあり、壁を15cmほど80度の角度で抉り込んで構築している。大きさは長軸80cm、短軸50cmである。上部に自然石が4個みられた外には袖石などの特別の施設はまったくみられなかった。火床面は床面をほんのわずかにくぼめただけで、焼土は10cm堆積している。上面はローム粒と黒色土・焼土の混合土で覆われている。

遺物（第173図）

出土土器には土師器と須恵器とがあり、数量表にみるとおり出土量は少ない。須恵器は甕・壺・高台付壺・蓋があり、土師器では甕と壺だけである。

1は土師器の小形甕の口縁部で半分ほどしかない。赤褐色を呈し、胎土中には砂粒を含んでいる。ロクロ造りで右回りのものを利用している。口唇は強く外反し、薄くなっている。腹部には幅広なロクロ痕がみられる。

2は須恵器の壺形土器で口縁を欠いている。胎土に砂粒を含んで暗青色に焼かれている。底部は厚いが体部は薄くなり凹凸が激しい。ロクロの回転は左回りである。底部の切り離し技法は静糸の糸切りによると思われ、中央部は手持ちのヘラによって削られてやや上げ底風になっている。

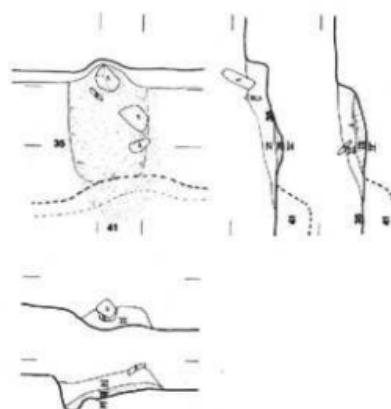


第171図 第35・41号住居址実測図 (S - 40)

3はやはり須恵器の坏である。口縁部を欠いて半分ほどからの図上復元である。器高は高いものと思われる。底部は厚く体部は薄くなっている。底部の切り離しは回転ヘラ切りによっており、その後周辺部を5~6回による手持ちヘラ削りを行っている。わずかであるが上げ底である。

4は須恵器の高台付坏である。胎土中に砂粒を含み、黒青色に焼かれている。口クロは右回りである。口唇は内そぎで尖り、底部は高台から急に下がっている。回転ヘラ削りののち、高台をつけ、測面は回転利用の横ナギを行っている。高台下端は丸味を持っている。

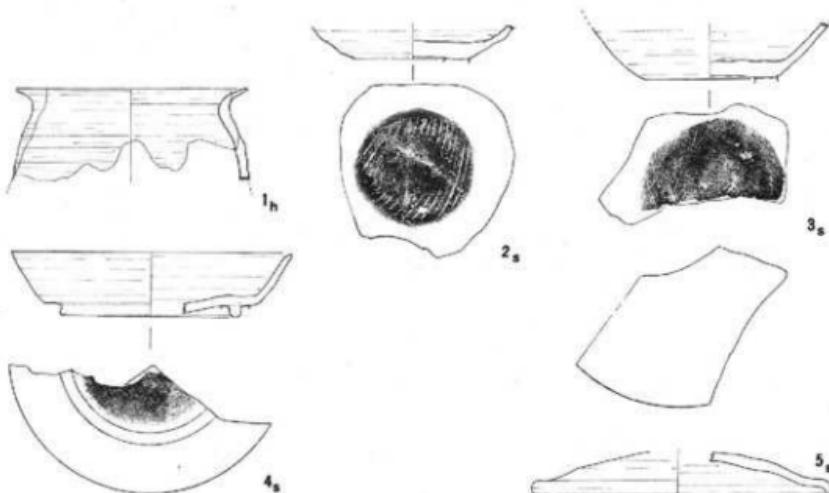
5は器底器の蓋である。器厚はほぼ一定し、内屈する下端を簡単に曲げて口縁としている。



第172図 第35号住居址出土実測図 (S - 46)

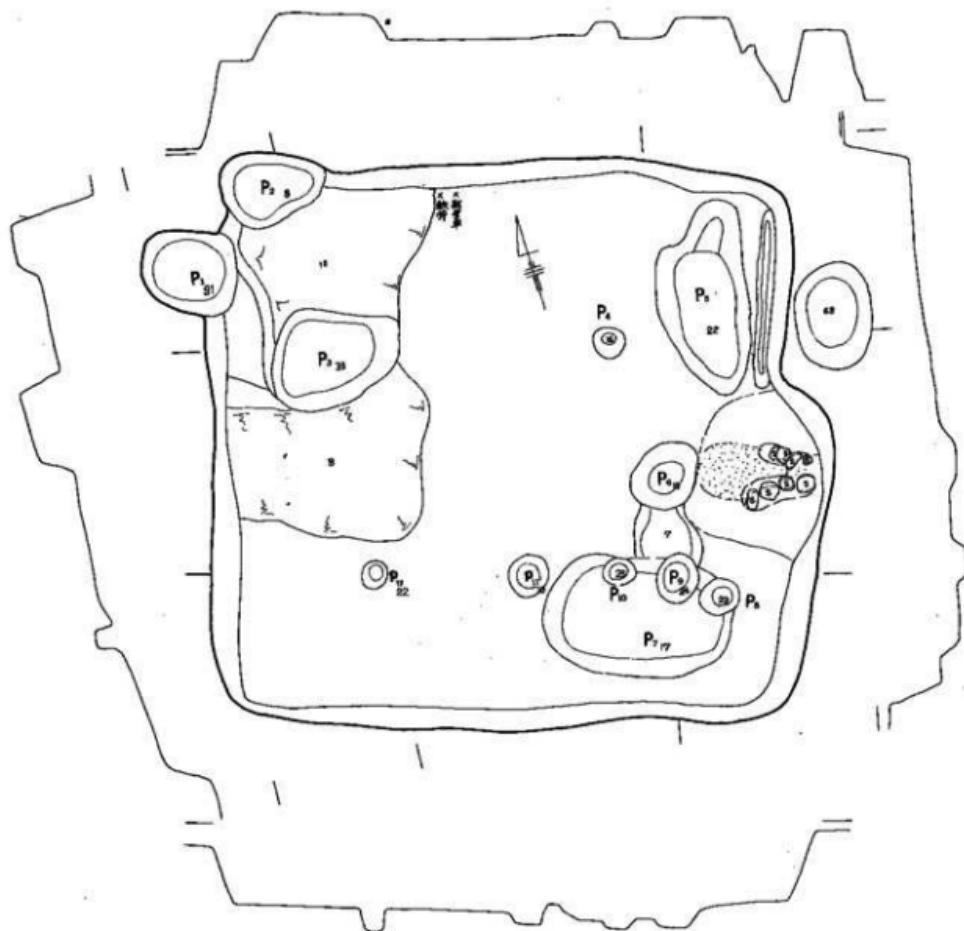
器形	部分	土師	須恵	小計
甕	実測	1		1
	口縁	2		2
	胴部	12	1	13
	底部	3		3
环	実測		2	2
	口縁		2	2
	体部	1	1	2
	底部	1	3	4
高台	実測		1	1
付环	底部		2	2
蓋	実測		1	1
	口縁		1	1
小計		20	14	34

第35号住居址出土土器数量表

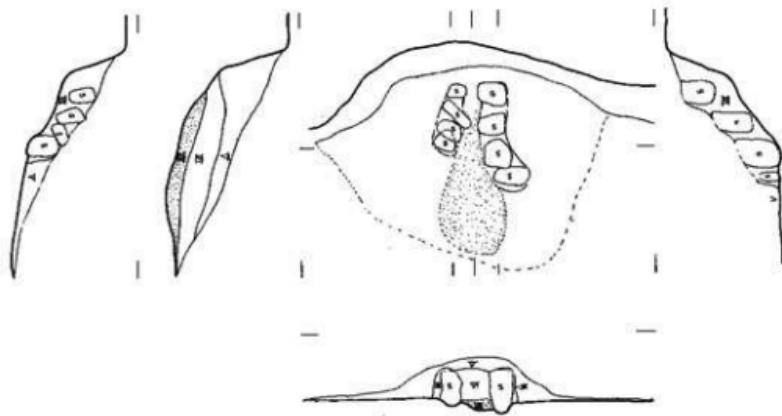


第173図 第35号住居址出土土器 (上)

ロクロは右回りである。暗青色を呈し、砂粒をわずかに含んでいる。
出土土器は奈良時代末～平安時代初頭にかけてのものと思われる。



第174図 第36号住居址実測図 (S - 西)



第175図 第36号住居址竪実測図 (S - N)

34 第36号住居址 (第174~179図)

遺構 (第174・175図)

当住居址は第37号住居址の西に隣接するものである。プランは隅丸方形を呈し、大きさは5.8×5.7mである。主軸方向S-110°-Wである。

壁高は高く60~70cmを測る。壁の立ち上がりまややゆるやかである。床面は北西部に浅い凹部があるが全体に平坦で良くなきしめられており良好である。

柱穴はP₄、P₈、P₉、P₁₂、P₃の4本と考えられるが住居址の大きさ、深さに比べて柱穴が小さく浅いのが気にかかる。

竪は東壁やや南寄りにあり、壁を70cmほど35度の角度で浅鉢状に抉り込ませて構築している。現存する石組みより前方に焼土がかなりみられ、また石組みの間が狭すぎること、石組みより前面まで基底部の掘り込みがあることなどからして、燃焼部は崩落ないしは破壊され、煙道部の石組みが残ったものと考えたい。石は床面をあまりくぼめることなくロームで固めている。

北壁ぎわやや西寄り床面上より鐵斧(第179図-1)と鐵製の紡垂車(第179図-2)が出土している。

遺物 (第176~179図)

遺物としては土器・須恵器類と鐵製品がある。

出土土器は数量表にみるとおり多く、須恵器が卓越している。土師器は甕を主体としている。須恵器は甕・壺が多くついで蓋となっている。灰釉陶器はまったく出土していない。

1~7は變形土器である。破片からの図上復元によるもののみで器形を知り得るものはまったくない。

器 形	部 分	土 師	須 恵	小計
甕	実 蘭	2	1	3
	口 罥	6	1	7
	胴 部	28	10	38
	底 部	19 (34)		10
壺	実 蘭		6	6
	口 罥		15	15
	体 部		8	8
	底 部	1	5	6
鉢	実 蘭		1	1
高 台 付 壺	実 蘭			
	底 部			
	口 罥	3	3	
台 桶	実 蘭	1	1	
蓋	実 蘭	2	2	
	口 罥	10	10	
	天 井	9	9	
小 計		47	72	119

第36号住居址出土土器
数 量 表

1は土師器の甕で、肩がつり上がった感じの甕で頸部の両端に段を持たせている。黄褐色を呈し、胎土中には砂粒を含んでいる。口唇部内外面とも横ナデをしている。胴部は縦方向のハケ目が内外面とも施される。

2は土師器でぶ厚く胎土に砂粒を多く含み黄褐色に焼かれている。口唇は薄く尖がる。胴はあまり張らないものである。口唇外面には横ナデが、内面には非常に疎なハケ目が施される。胴部外面には粗い縦方向のハケ目が、内面には一定しないが、横方向のハケ目が施されている。

3～6は土師器の變形土器の底部である。3は右回りのロクロを用いたもので、底部内面には幅広なロクロ痕を残している。回転糸切技法によって切り離される。細かい砂粒を含み白黄褐色を呈している。

4・5は木ノ葉底を持つもので、ともに大きな砂粒を含み土師器の焼きとはみえない。4の内面には斜走するハケ目がみられる。5の外側には2同様粗いハケ目が縦方向に施される。

6は3～5に比べると立ち上がりがゆるやかでふくらみを持っている。紐積みの痕跡を明瞭に残して整形は悪い。内面には横方向のハケ目がみられる。

7は須恵器の變形土器である。頸部両端に段を有し口唇はやや肥厚する。外面には叩き目、内面青海波を残している。ロクロを利用しているが、回転方向は不明である。

8は須恵器の鉢形土器である。高台は厚くしっかりとふんばっている。体部下端はしめが甘く肥厚している。黒青色を呈し胎土にはわずかに砂粒を含んでいる。ロクロは左回転で、回転ヘラ削りのため切り離し技法は不明である。高台を付けた後、両側面に回転利用の横ナデを行っている。

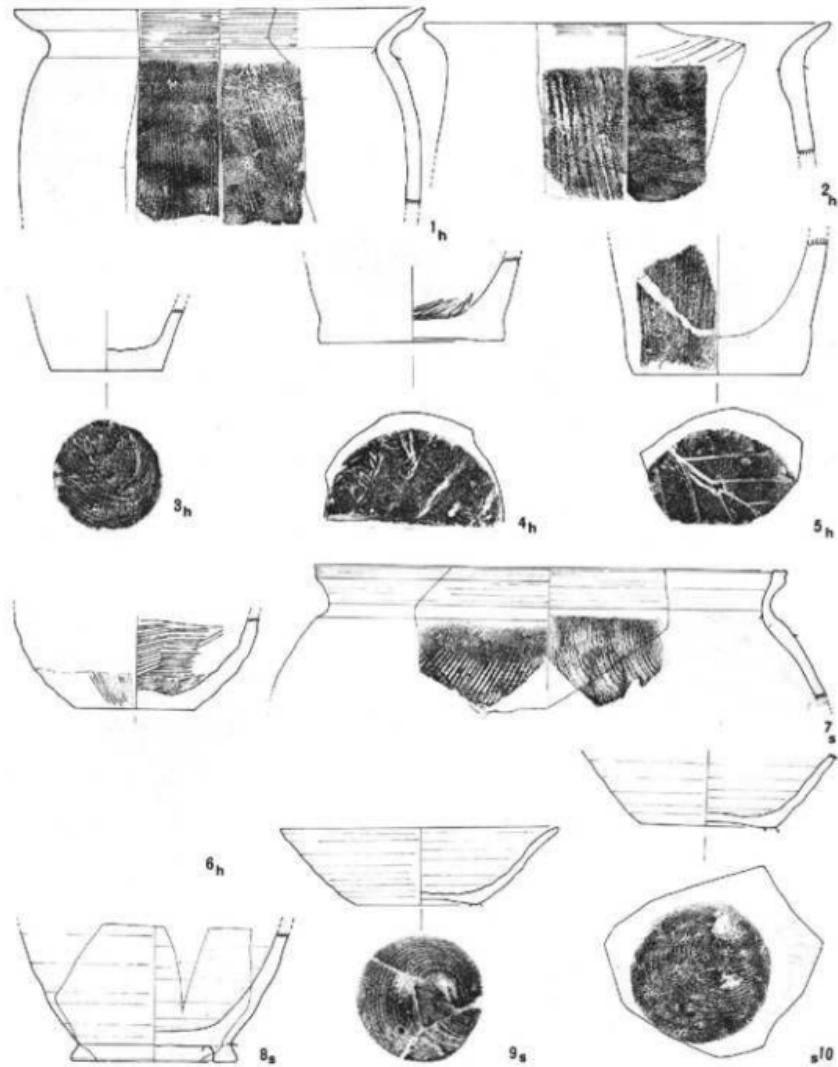
9～14はすべて須恵器の壺形土器である。9を除き完形のものはない。

9は赤褐色を呈し砂粒を含んでいる。体央部に強いしめがみられ、口唇は肥厚しやや外反ぎみである。切り離しは回転糸切り技法で、その際糸が深く入ったためか極端な上げ底となっている。底部周辺から体部下端にかけては回転ヘラ削りが行われている。ロクロは左回りである。

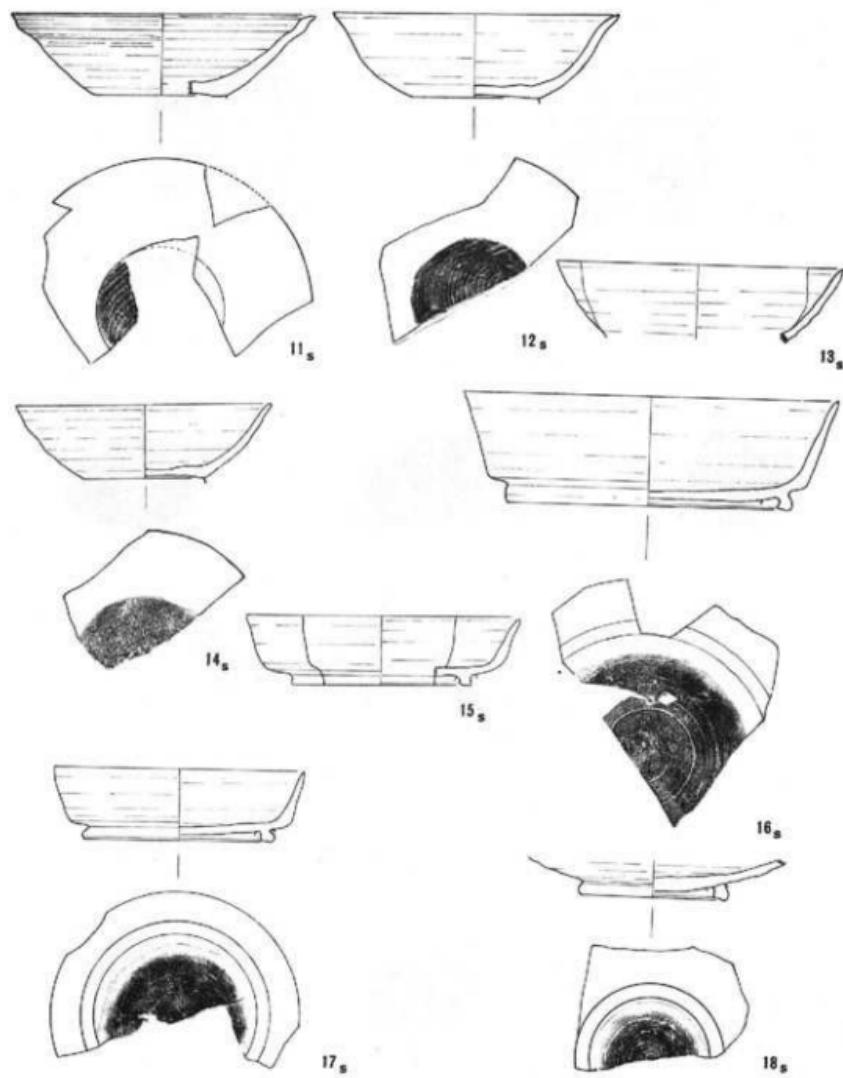
10は口縁部を欠くため定かでないが、器高の高いものである。砂粒を含み白灰色を呈している。体部は幅広なロクロ痕を残し、底部は9同様回転糸切り技法による切り離しで糸が深く入ったため上げ底となっている。底部周縁を回転のヘラで削っている。

11は底部は厚く口縁下に強いシメを行い口唇は引き出して作っている。大きな砂粒を含み、暗青色に焼かれている。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法によって切り離される。

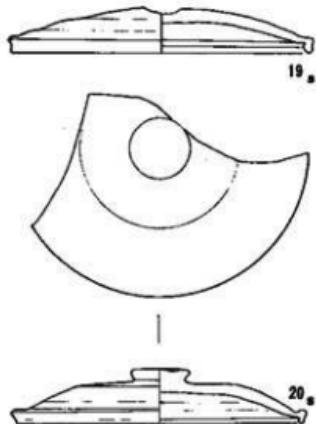
12は体部立ち上がり部が肥厚し口唇は尖って外反する。右回りのロクロを用い回転糸切り技法によって切り離される。細かい砂粒を含んで暗灰色を呈している。



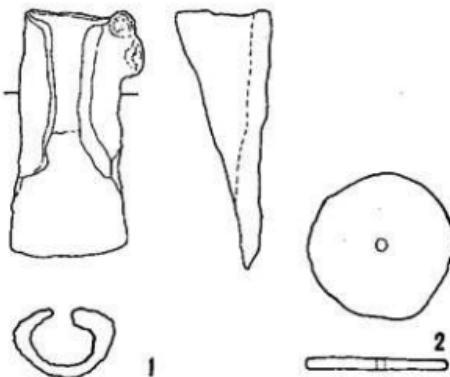
第176圖 第36號住居址出土土器 (上)



第177圖 第36号住居址出土土器（上）



第178図 第36号住居址出土土器(1)



第179図 第36号住居址出土鉄製品(1)

13は体部のシメは一定し、やや内湾して口唇は尖っている。胎土はち密で赤褐色に焼かれている。ロクロの回転方向は不明である。

14は体部がゆるやかなカーブで内湾し、下端部はやや厚くなる。底部は上げ底で内面中央部も凹んでいる。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法によって切り離され、その際糸が深く入ったため上げ底を呈している。細かい砂粒を含み暗灰色に焼かれている。

15～17は須恵器の高台付环形土器で完形品はない。

15は高台部からやや上がって体部にいたり体部の立ち上がりは内面ほどははっきりしない。口唇は薄く尖ってやや外反する。胎土はち密で暗青色を呈している。ロクロの回転方向は不明また回転ヘラ削りのため切り離し技法も不明である。高台は厚くしっかりとふんばっており、両測面には回転利用の横ナデが行われている。

16は大形のものである。体部の立ち上がりは外面では明瞭で体部はほぼ直線的である。口唇下に強いシメを行い口唇は尖っている。体部の肥厚は底部へ続き、高台部からやや中心部よりはカーブを描き中心部は平坦である。高台は厚くて内屈してしっかりとふんばっている。右回りのロクロを用い、回転ヘラ削りのため、切り離し技法は不明である。高台付け後の回転利用の横ナデは底部周縁にまで行われている。砂粒を含んで暗青色を呈している。

17は体央部に強いシメが行われ、口唇は尖っている。体部の立ち上がりは直に近い。高台は厚く台形状を呈し、しっかりとふんばっている。底部は中心部に向かって下がっている。ロクロの回転方向は不明である。回転ヘラ削りの後、高台を付け両測面に回転利用の横ナデをしている。細かな砂粒を含み暗青色を呈している。

18は底部破片のためはっきりしないが台付の皿形土器と思われ、須恵器である。砂を含んで白灰色に焼かれている。厚い底部から徐々に薄くなり体部の立ち上がりははっきりしない。中央部はわずかに平坦となっている。高台は厚くしっかりとしている。右回りのロクロを利用して、底部は回転ヘラ削りが行われている。高台付け後両測面に回転利用の横ナデを行っている。

19は須恵器の蓋である。天井部はゆるやかなカーブで内湾し中心部は肥厚する。紐はとれており形態は不明である。砂粒を含み暗青色に焼かれている。ロクロの回転方向は不明である。

20はやはり須恵器の蓋である。天井部は中心部からやや下るまでほぼ平らで、下端にかけてはゆるやかなカーブで内湾する。口縁は直立し立ち上がり部は外屈する。左回りのロクロを用い、鉢付後は両測面に横ナデを施している。砂粒を含み暗灰色を呈している。

先に述べたように土器の外に鉄製の斧と紡錘車がある。

第179図-1は斧である。刃部は柄部よりほんのわずか広くなる。大きさは長さ8.2cm、刃部幅4.0cmである。刃部は直線でなくやや丸味を持っている。片刃である。表面はさびが著しいが芯はしっかりしている。重量は113gである。

2は紡錘車である。大きさは径4.9cm、厚さ0.4cmである。中心の孔の大きさは3mmを測る。斧同様さびは著しいが芯はしっかりとしている。重量は29gである。

住居の時代は出土土器から奈良時代のものと思われる。

35 第37号住居址（第180～183図）

遺構（第180・181図）

本住居址は第36号住居址の東にあり、第39号住居址は北東10mの所にある。プランは隅丸方形で大きさは東西4.0m、南北4.1mを測る。火災にあった住居址で、焼土と炭化物が厚く堆積している。炭化物は現形をとどめるものは少なく竈の前方部から上屋材の一部がはっきりと出土しただけである。

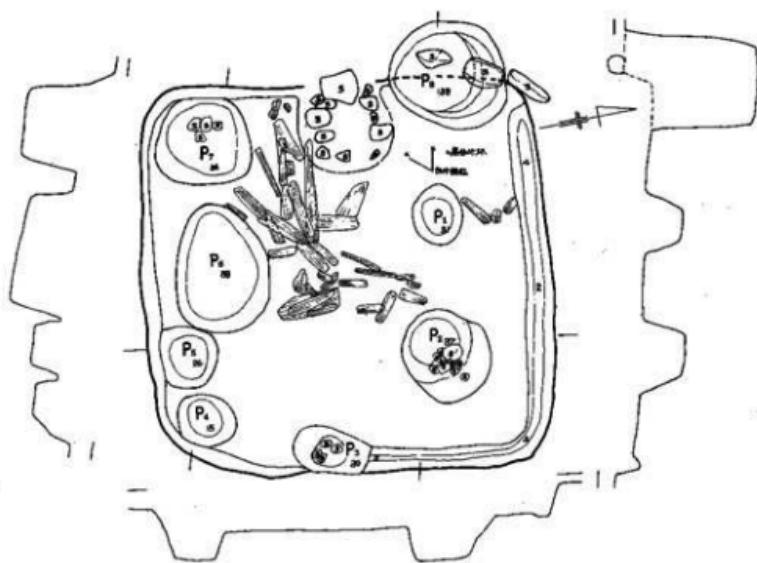
壁高は北壁と西壁が高く30～35cm、南壁、東壁は15～20cmである。床面はやや凹凸があるが全体に固くたたきしめられ良好である。北壁から東壁P₃まで幅20～25cmの浅い周溝がめぐらされている。住居址の主軸方向はS-81°-Eである。

主柱穴としてP₁・P₂は確実であるが他ははっきりしない。P₂・P₃・P₇とも上部に石がのっていた。

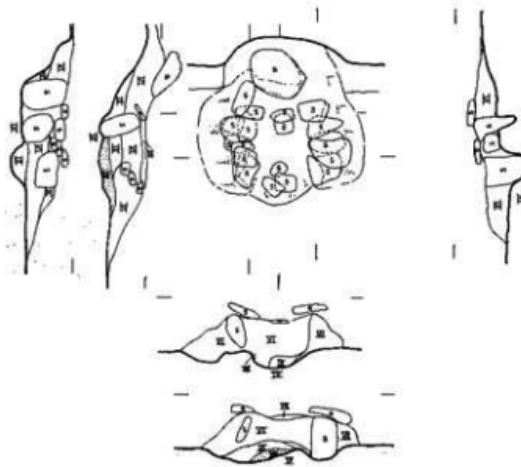
竈は西壁ほぼ中央にあり、壁を20cmほど25度の角度で抉り煙道部を作っている。石心造りである。火床面の掘り込みは深い方である。

袖部は大きな石を使って組みその上部に平盤な石をのせている。袖石の固めには左側は黒色土とローム粒、焼土の混合土、右側はロームを用いている。燃焼部中央やや奥まって支石がある。焼土はその支石の手前まで堆積している。

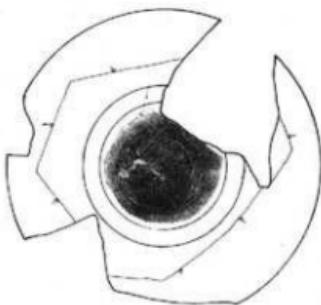
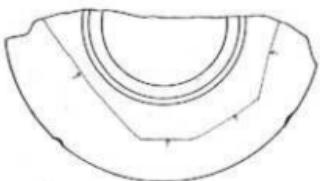
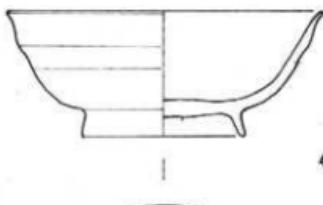
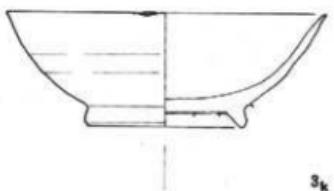
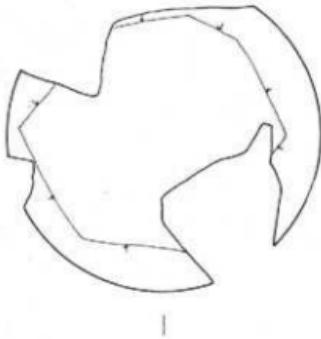
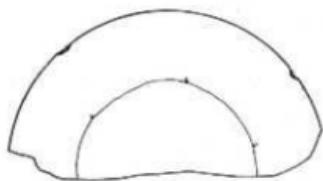
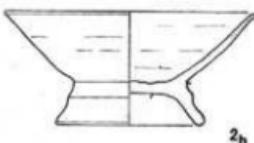
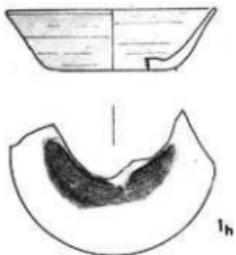
竈の北側床面より図示する如く灰軸の台付段皿2個と土師器の高台付环1個が出土している。



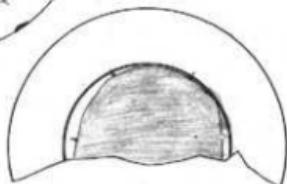
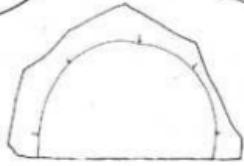
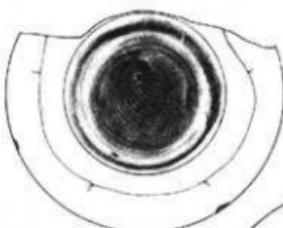
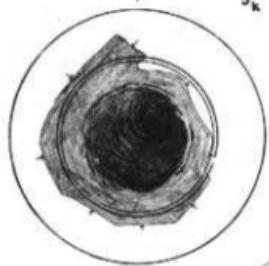
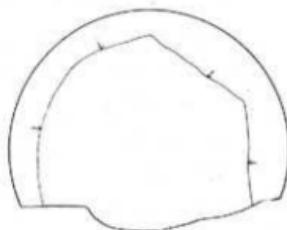
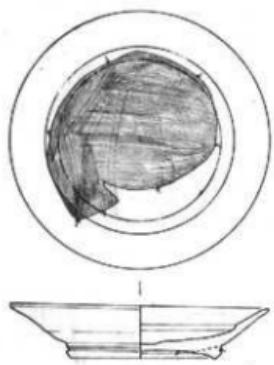
第180図 第37号住居址実測図 (S = 1/50)



第181図 第37号住居址実測図 (S = 1/50)



第182図 第37号住居址出土土器（上）



第183図 第37号住居址出土土器 (1)

器 形	部 分	土 師	須 恵	灰 軸	小 計
甕	口 罥	1			1
	胴 部		4		4
环	実 深	1			1
	口 罥	1	1		2
高 台 付 环	底 部	1			1
	実 深	1			1
	底 部	1	4		5
瓶	实 深			2	2
	体 部			1	1
合 付 瓶	实 深			2	2
	底 部			1	1
合 付 瓶 皿	实 深			2	2
	口 罥			2	2
小 計		6	9	10	25

遺物 (第182・183図)

出土土器は数量表でみる限り少なく感じるが、完形品に近いもののがあることからすると多い方かも知れない。土師器・須恵器・灰釉陶器が出土しているが完形に近いものは灰釉陶器に多く卓越していることがわかる。

1は土師器の壺である。体部の立ち上がりははっきりとせず、口唇下に強いシメが加えられる。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法で切り離している。砂粒をわずかに含み黒褐色を呈している。

2は土師器の台付壺である。器高があり壺に近いものである。体部はわずかに内湾し、口唇下に強いシメがみられる。口唇は薄く外面に陵をもつ。高台は高く外反している。ロクロは右回りのものを利用している。高台貼付時に粘土が底部中央部まで達しており、切り離し技法・底部調整は不明である。高台測面部には回転利用の横ナデが行われている。

3～8はすべて灰釉陶器である。

3は高台付輪花壺である。底部から体部下端は厚く除々に器厚は薄くなり口唇下に強いシメを行って口唇を引き出している。

底部は回転糸切り技法によって切り離された後、周縁部を手持ちのヘラで削っている。高台は逆三角形状で高く外反して外面に丸味を持たせている。高台測面部には回転利用の横ナデが行われている。陶土は白色に近くあまりち密でない。釉は白色で内面は淡緑色の斑文がみられる。永田窯産である。

4は体部の立ち上がりが強くなる壺である。口唇下に強いシメを行って引き出して口唇を作りやや外反する。高台は薄く高い。底部は回転糸切りによって切り離され後、周縁部を回転ヘラ削りで調整している。高台付け後両測面には回転利用の横ナデが行われる。陶土は白色に近く釉も白色である。

5は台付の段皿である。口唇はやや外反している。底部中央には凹みがみられる。回転糸切りによって底部は切り離される。高台は外側に溝と稜を持ち内面はゆるやかなカーブで底部にいたっている。高台接合時の陶土が底部周辺まで及んでいるため底部調整は不明である。陶土は白色に近いもので、釉は白灰色を呈している。釉のかからない部分は外面とも黒ずんでいる。

6は台付輪花皿である。肥厚する立ち上がり部からわずかに体部は内湾し口唇は丸い。高台は低く外面は直に近く内面はゆるやかなカーブを描く。高台接合時の陶土が底部周縁にまで及んでいる。底部の切り離しは回転糸切り技法によっている。陶土は黄白色で釉は白色を呈している。

7は台付の皿で口縁は欠いている。体部下端は肥厚しやや内湾する。高台は薄くて高い。外

面に陵を作っている。底部は回転ヘラ切り技法によって切り離され、その後周縁を回転のヘラ切りで調整している。陶土は白色で釉も白色を呈し、ところどころに淡緑色の班文がある。

Bは台付の段皿である。体央部やや下ったところで陵をもたせ口唇は水平にのびている。段上部から口唇にかけては内面をややふくらませている。底部はわずかであるが、段を作っている。高台は直に近く外面に陵を持っている。底部の切り離しは回転ヘラ削りのため不明である。陶土は灰白色を呈し釉は白色である。外面には淡緑色の班文がみられる。内面釉のかからない部分はすす状のものによって黒ずんでいる。

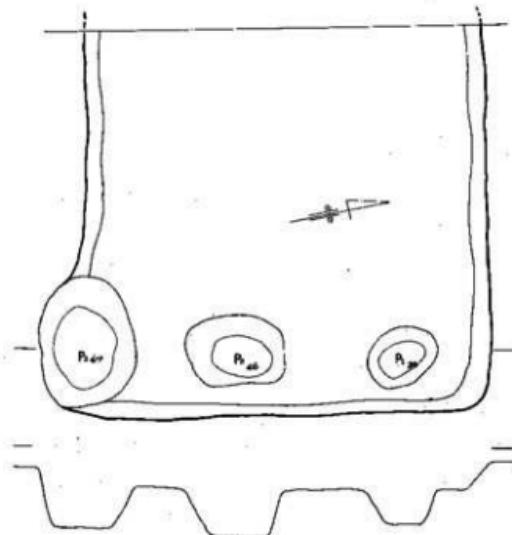
これらの灰釉陶器は折戸53号窯期に位置づけられるところから住居址は平安時代後期のものである。

36 第39号住居址（第184・185図）

遺構（第184図）

当住居址は第19号住居址の北西に位置する。西壁が攪乱のため破壊されているため、プランは定かでないが、ほぼ隅丸方形を呈すと思われる。大きさは南北4mである。

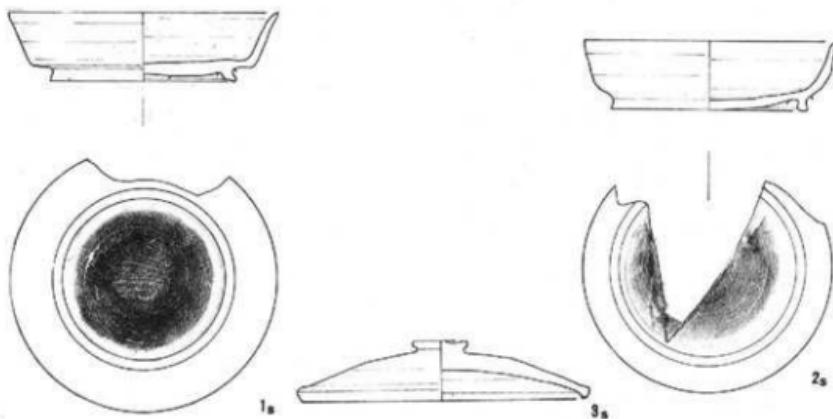
壁の立ち上がりは全体にゆるやかで壁高は北側で25cm、南側で20cm前後を測る。床面は平坦で固く良くなきしめられている。東壁に沿ってピットが三つみられる。P1は柱穴として良い



第184図 第39号住居址実測図 (S - 5)

器 形	部 分	土 部	須 滾	小計
甕	口 縁	1	1	2
	調 部	9	3	12
	底 部	3		3
环	口 縁		1	1
	調 部		2	2
	底 部		3	3
高台付 环	実 测	2	2	
	底 部	3	3	
蓋	実 测			
	口 縁			
	天 井 部			
		13	15	28

第39号住居址出土土器
数 量 表



第185図 第39号住居址出土土器（ $\frac{1}{2}$ ）

だろう。

竈は確認されていない。西壁にあったものが壊されたと考えられる。それから考えると住居址の主軸方向はS-80°-Eである。

遺物（第185図）

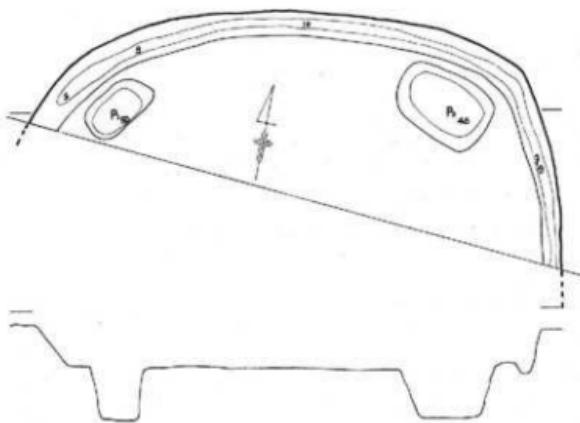
出土土器数量にみるとおり土器はあまり多くない。土器は変形土器のみである。灰釉陶器はまったく出土していない。

1は口縁部をわずかに欠く高台付环である。砂粒を含み黒青色に焼かれている。底部は厚く体部はほぼ一定の器厚をもって口唇はやや外反し、内そぎ状に尖っている。高台は厚く強く外反している。ロクロは右回りで回転糸切り技法によって切り離される。その後回転ヘラ削りを行なうが中央部が凹むため削り切っていない。高台付け後両側面に回転利用の横ナデを行なっている。

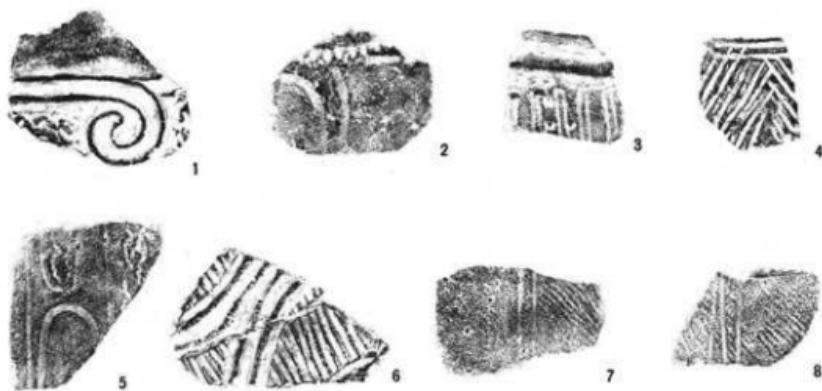
2はやはり高台付环である。体部の立ち上がりははっきりせず口縁はほぼ直に立っている。底部は極端な下げ底である。底部は回転ヘラ削りが施されている。高台付け後両側面に回転利用の横ナデを行なっている。胎土はち密で赤褐色を呈している。

3は須恵器の蓋である。中心部は厚く口縁へ行くに従い薄くなっている。天井部はゆるやかなカーブで内湾し、口縁は簡単な作りである。鉢は低く内部に凹みを持っている。天井部中心から中位にかけては明瞭なヘラ削り痕がみられる。鉢貼付後脇を回転を利用して横ナデしている。砂粒を含み黒青色を呈している。ロクロは左回りである。

出土土器が少ないが住居址の時期は奈良時代末から平安時代初頭にかけてのものと思われる。



第186図 第40号住居址実測図 (S - 10)



第187図 第40号住居址床面出土土器 (1)

37 第40号住居址 (第186・187図)

遺構 (第186図)

当住居址は第16号住居址の南西にあり北側の一部を調査しただけのもので、プラン・大きさとも不明である。

壁高は35~40cmで、立ち上がりは西側では非常にゆるやかとなっている。調査内の床面は固く良くなたきしめられており良好である。P₁・P₂は主柱穴と考えられる。幅25cmほどの周溝が西で一掘切れるがまわっている。深さはほぼ一定している。

炉は未調査部分にあると思われる。

遺物（第187図）

調査面積が狭いため、遺物も極端に少ない。石器の出土はない。2・5は結節縄文を持つもので、他の土器より後出するものであろう。

土器が少なく住居址の時期は決め難いが、曾利Ⅱ期～Ⅲ期に比定されるであろう。

38 第41号住居址（第171図）

遺構（第171図）

本住居址は第35号住居址の貼床下に発見されたもので、一軒の住居址が完全に貼り床されることは珍しいことがある。

プランは隅丸方形で、大きさは3.2×3.1mと小形のものである。

第35号住居址との床面差は25cm前後である。床面はほぼ平らで固く良好である。南壁西側より西・北壁東壁北側まで周溝がめぐらされる。

主柱穴はP₁₂・P₁₃・P₁₄が考えられ北西部に確認されていないが4本を基本とすると考えられる。

竈は東壁やや南寄りあり、壁を20cmほど抉っている。袖部など特別の施設はまったくみられない。基底部は80×50cmの楕円形に掘りくぼめられている。第35号住居址構築のさい壊された可能性が強い。

遺物

出土土器数量表にみると通り土器は少なく、すべて破片である。

39 第42・43号住居址

この両住居址は第29号住居址の南東にあり、落ち込みはなく部分的に固い面が捕えられただけのものでまた大半は調査できずに終わっており、プラン・規模等はまったく不明である。

（以上、気賀沢進）

器 形	部 分	土 器	須 意	小 計
甕	口縁	2		2
	肩部	3		3
	底部	2		2
环	L縁		1	1
蓋	口縁		1	1
小計		7	2	9

第41号住居址出土土器

数 量 表

第3節 土塙と遺物

原垣外遺跡の発掘により発見された土塙は住居址内、住居址に接する、住居址周域、単独に分類でき、総数 325か所である。このうち、土塙No.6, 166, 168, 321, 323, 324は、番号の入り乱れにより欠番とした。「土塙」という未だ性格付けの明らかでない遺構を整理・操作・研究することは、なかなか難しい問題と言える。端的に分析視点を抽出するならば、「土塙」と「土塙(形態、埋没状態、出土遺物等の総合的意味での遺構として)」、「土塙」と「住居址」「土塙」と「住居址に伴う補完的遺構(柱穴址等)」という相関関係(時空間関係)の中から、ある規律・規則性を見い出し、それが集落の構成の中で、生産域に位置づけられるのか、埋葬域に位置づけられるのか、祭祀域に位置づけられるのか等を検証し、再度「集落」とは何かを地域的時空間の位相の上で究明することが考えられるのである。

この視点に基づいて「土塙」を分類、分析することは、本遺跡の場合「土塙」の検出場所が一定の域に集中してはいるものの多くの不明確な問題を含んでいるので、まとめまでは及ばないと思いますが、問題提起として抽出したいと考えます。

本発掘調査で検出された土塙は、300余りという多くの数で、必ずしも十分な観察と記録ができなかったことは、いなめないことありますが、ここでは先述の視点を少しでも満足させる為に、次に挙げる方法と記述に基づき分析します。

1. 検出された土塙をその検出場所により、住居址内・住居址に接する・住居址周域・単独のものに分類した。
2. 特に、土塙の性格が他のものと異なると考えられる No.84, 88, 96, 97は、後で詳細に取扱うものとする。
3. 土塙番号は、検出順序に従って、付加したものである。
4. 平面形は、円形・椭円形・隅丸三角形・ひし形・隅丸方形・卵形・不整円形などに分類したが、円形は長径と短径の差が10cm以下のもの、椭円形は10cmを越え20cm以内のものという基準を用い、そのほかの平面形や特に大きいものや小さいものは、この基準によらない。なお、平面形は開口部の平面形を示し、床面の平面形は、先の記述と基準による。
5. 断面形は、スリ鉢状・タライ状・皿状・半円状に分類した。
6. 壁は外傾するもの、内傾するもの、垂直に近いものとに分類し、垂直に近いものは「直壁」と表現した。
7. 床は、丸底と平底に分類し、丸底の中に、壁の立ちあがり部が丸いものも含めた。
8. 口径・底径は、両方ともに直角に交わる最大値で示し、深さは、土塙が検出された面のうち低い開口部より床面までの計測値である。口径・底径・深さは、図面から再計測したものである。
9. 土塙の中の小さな穴は、「小穴」と表現した。
10. 配石を伴うものは、その検出場所により「開口部」「床面」「堆積土中」(多くは、黒褐色土中である)と表現した。

11. 土塙と土塙、土塙と住居址の相互の切合状態を、「—>—」(「～が～を切る」)で表現した。
12. 出土遺物である土器及び石器は、図版番号を載せ、図版のないものは、出土土器の「比定型式名」を載せた。

1 土塙一覽表

住居址内より検出された土塙

辨別	番号	位 置	平 面 形	直 面 形	斜 面 形	面 形	口 傷	底 傷	深さ	小穴	配 石	遺 物	切 合	
188	2	8住内東壁	円形	タライ状	外傾	円形	平底	220×16	198×24	28	2	堆積土中	骨利豆式。(石)105-1,2 2>8住	
188	3	壁と床も堅く良好。8住内の壁を確認する移り、東側面には幅52cm×高さ30cmと壁に幅42cm×高さ1の小穴が2個ある。配石は、中央寄りにありすべて壊けてはいるが伊豆石の可能性もある。土塙と土器は墨跡形の碎片が多く、土器は墨文で裏面にははりつけたものや墨縁を施したものが多い。	円形	タライ状	外傾	円形	平底	150×124	126×119	64		堆積土中	骨利豆式。(土)198-3~5 3>9住	
189	44	壁と床も堅く良好。9住の壁は墨跡形の碎片が多く、土器は墨文で裏面にははりつけたものや墨縁を施したものが多い。	円形	タライ状	外傾	円形	平底	120×130	94×87	46		床面	骨利豆式。(石)207-11 44>11住	
190	178	壁と床も堅く良好。9住の壁は一部しかはっきりしないが底盤を傷むるものである。配石は床面中央寄りにあり、2個が南北に並ぶ。出土土器は、口縁部より墨跡の墨縁がついたものの墨跡模様をついたものが多く骨利豆式に比定できる。	円形	タライ状	外傾	円形	平底	152×165	132×128	42		骨利豆式。(土)199-22,23	無	
190	46	壁と床も堅く良好。床は墨文で裏面にははりつけている。出土土器は、墨文で裏面にははりつけたものや墨縁を施したものが多い。	円形	タライ状	外傾	円形	平底	150×143	144×122	70	1		骨利豆式。(土)199-22,23 無	
190	66	壁も床も堅く良好。小穴は北寄りに1個あり、直径6cm×深さ36cmである。出土遺物は無いが12住と同時期のものと思われる。	円形	タライ状	外傾	円形	平底	126×130	97×72	43			(土)263-64	
192	178	壁と床も堅く良好。24住の南面にあり、底盤上より骨利豆式の配石があるが、裏面は土塙ではなく、平安期のものである。底盤は含まれていないので後で記述されるもののかかもしれない。なお、本土塙は178に併する、出土遺物はない。	円形	タライ状	外傾	円形	平底	120×130	94×87	46		床面	骨利豆式。(土)199-22,23 無	
192	179	壁と床も堅く良好。土塙は墨文で裏面にははりつけている。出土土器は、墨文で裏面にははりつけたものや墨縁を施したものが多い。	不整形	スリット状	外傾	下垂形	平底	122×135	95×63	36			骨利豆式。(土)199-22,23 無	
192	181	壁と床とも堅く良好。182の北壁を引切る形で、墨縁は土塙の中で墨で引かれている。墨縁文、墨垂文、墨文を主体とした土器が多い。	隅方形	スリット状	外傾	隅方形	平底	151×145	127×122	100			骨利豆式	181>182
192	183	壁と床とも堅く良好。15住の北壁に引切る形で、墨縁は土塙の中で墨で引かれている。墨縁文、墨垂文、墨文を主体とした土器が多い。	円形	スリット状	外傾	墨円形	平底	75×156	45×136	31			骨利豆式	184>183
192	184	壁と床とも堅く良好。15住の北壁に引切る形で、墨縁は土塙の中で墨で引かれている。墨縁文、墨垂文、墨文を主体とした土器が多い。	円形	スリット状	外傾	円形	平底	108×99	81×74	108				184>183
192	185	壁と床とも堅く良好。15住の北壁に引切る形で、墨縁は土塙の中で墨で引かれている。墨縁文、墨垂文、墨文を主体とした土器が多い。	円形	スリット状	外傾	円形	平底	92×84	72×66	57		床面	土上	184>183
192	186	32住の北のすぐ西にあり、配石を底盤土中に閉口部にもつ。壁・床ともに良好。閉口部の配石は2枚が重なるように置かれ、その上に土塙がかかる状態で現れる。土塙の出土遺物はない。	三角形	スリット状	外傾	三角形	平底	100×71	84×53	22	1		骨利豆式	
192	190	壁と床とも堅く良好。床に小穴があり、直径8cm×深さ16cmで、その北壁に小さな自然石が1つえらべられていて。出土遺物は、竹筒による連続刻文や平行波線文を墨縁文の墨縁文につけたものが見られる。又、手形の突起に土塙も貼り付けたものもある。	円形	スリット状	外傾	円形	平底	108×97	81×74	108				192>196
192	192	152-194を引切る形で、192-194にこいつ込まれた状態である。出土遺物はない。	不整形	スリット状	外傾	墨円形	平底	77×70	53×44	32		堆積土中		
192	193	壁と床とも堅く良好。土塙の北壁の底盤土中より配石が現れています。出土遺物はない。190回帰。32住との時間的関係は明らかでない。	円形	スリット状	外傾	円形	平底	114×111	79×68	70	1	床面		
192	194	壁と床とも堅く良好。192が本土塙の中に引り込んでいる状態で、小穴は南北一列に3つあります。径34cm×31cm 奥さ28cm、径35cm×34cm 奥さ11cm、径28cm×22cm 奥さ25cmである。出土遺物はない。	不整形	スリット状	外傾	不整形	平底	282×162	256×129	21	3			192>194
192	195	壁と床とも堅く良好。北東壁にビットが現れている。出土遺物はない。	五角形	スリット状	外傾	円形	平底	96×88	72×72	43				
192	196	壁と床とも堅く良好。東面壁に幅18cm×高さ8cmの小穴がある。床面には、平らな厚さ8cmの自然石が置かれていた。出土遺物はない。壁が毎回2段となっている。	円形	スリット状	外傾	墨円形	平底	118×70	76×37	57				192>196
192	198	34住の北壁を現す。壁・床ともに堅く良好。壁に引って現れた土塙と思われる。土塙の表面が墨縁文で規則をきかせている感が強い。出土遺物はない。	不整形	スリット状	外傾	不整形	平底	116×95	92×74	46		床面		200>281,302
192	200	壁と床とも堅く良好。本土塙の南面、202を引切っている。床面には一筋の配石が現れており、石はみる自然石で接合はいい。出土遺物はない。	不整形	スリット状	外傾	墨円形	平底	168×100	125×54	32				
193	201	14住内東壁	墨円形	スリット状	外傾	墨円形	平底							

測区	番号	住 庫	平 面 形	断 面 形	壁	床 壁 形	床面	口 床	底 壁	深さ	小穴	配 石	遺 物	切 合
14住西壁	14	不整円形	スリット状	外傾	圓丸方形	平底	106×92	72×62	165					231>232
194	211	土塁212の中に築り下げられたものである。壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	230	400mに接するが葉脈手形が普通の床面によって構成されている。半分の壁と床は堅く良好。出土遺物はない。												
194	239	195住東壁に接し、壁はやや斜め、床は小穴、径38cm×25cm深さ24cm、底28cm×23cm深さ16cmがありはっきりしない。出土遺物はない。												
195	295	住東南壁、楕円形、壁斜状、外傾、(円形) 平底	100×82	()	48	2								302>355
196	255	壁・床ともに堅く良好。配石が床面と窓口部にあり、窓口部の配石のそばには土器が検出された。曾利知期の土器が検出された。												
196	285	不整円形、スリット状、外傾、(不整円形) 平底	109×145	175×129	24									19住>293
197	298	195住北壁に本土壁が接されたものである。南側手形は欠けている。壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。床は、焼附し、やや丸味を帯びている。												
198	299	195住北壁、不整円形、スリット状、外傾、(不整円形) 平底	100×108	176×70	25	3								
197	296	195住北壁に接し、壁は堅いが、床はやや軟弱である。床面に小穴があるが、その根柢もしない。出土遺物はない。												
198	300	195住西壁、圓丸方形、スリット状、外傾、圓丸方形、平底	106×108	87×80	91									
197	304	304住41住に貼り合わせて造った住居であり、本土壁がどちらに材へかはっきりしない。一応355住内として扱って、ここで記載することとした。壁床ともに堅く良好。出土遺物はない。本土壁には材へかはっきりしない。一応355住内として扱って、ここで記載することとした。壁床ともに												
196	305	295住南東壁に接し、土塁255を切る。床面に配石があり、又、廻りの南東壁面に土器が出土した。壁・床ともに堅く良好。												308>355
196	302	195住北壁に接し、土塁255を切る。床面に配石があり、又、廻りの南東壁面に土器が出土した。壁・床ともに堅く良好。												
196	322	195住北壁、楕円形、スリット状、外傾、圓形、平底	90×60	70×42	63									
196	323	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												

住居址周囲より検出された土塁

測区	番号	住 庫	平 面 形	断 面 形	壁	床 壁 形	床面	口 床	底 壁	深さ	小穴	配 石	遺 物	切 合
9住西壁	9	円形	タライ状	外傾	円形	平底	94×84	70×60	24				窓口部	(土)198-1,2 (石)207-1,2
188	1	配石1として観察されたが、配石を伴う三辺ということで、土塁とした。壁・床ともに堅く良好。土塁の窓口部をふさぐかのように自然石が配石されている。石は鑿磨していない。石器は、鐵打器、圓石、各1点ずつ。												
188	9	住西城	楕円形	スリット状	外傾	圓丸形	丸底	94×76	62×52	104				4>8
188	4	壁・床ともに堅く良好。配石が南東壁面窓口部にある。出土遺物はない。												
188	10	住北城	楕円形	タライ状	直壁	圓丸形	平底	150×121	125×102	82			巻縁土	(土)198-6
188	5	壁・床ともに堅く良好。配石が土塁中央後壁土中より検出。又、その南側に土器が、4~5cmの厚さで検出。出土土器には、曾利Ⅱ式北定の土器も多い。												
188	10	住西城	()	()	()	()	()							
188	6	廻り、土塁6を基のものとして構えたが土塁1に埋没される形であるので、特別に取上げない。出土土器はない。												
188	9	住北城	楕円形	タライ状	外傾	圓形	平底	176×148	118×116	60				(土)198-7
188	7	典型的な土塁の要素を、その位置から見ると持っているが現段のものとして構った。壁・床ともに堅く良好。												
188	9	住西城	円形	スリット状	外傾	圓丸形	丸底	96×96	78×75	22				4>8
188	8	壁・床ともに堅く良好。堆積土中より土器(第388号-8)が出土している。土器に切られ、北側壁が欠けている。												
188	11	住東城	不整円形	タライ状	外傾	不整円形	平底	106×88	88×62	14				(土)198-9
188	9	壁も床も堅く良好。床面より土器(第198号-9)が出土。土塁80cmを越えて切っている。												
188	10	住北城	円形	スリット状	直壁	圓形	平底	92×82	70×56	84				
188	10	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。土塁5と繋り合っている。												
188	10	住西城	楕円形	直壁	外傾	圓形	平底	250×190	230×154	10				
188	11	壁も床も堅く良好。土塁6を構成した。廻りの土塁22, 23, 30, 31, 65と接する。出土土器はない。												
188	9	住北城	円形	スリット状	外傾	圓形	平底	40×26	22×14	26				(土)198-10, 11
188	13	壁も床も堅く良好。小さな壁で12を最近している。南土器は、焼形文や西漢文を施したものや船形圓文を施したもので、曾利Ⅱ式北定である。												
188	11	住北城	円形	スリット状	外傾	圓形	平底	46×41	22×22	38				
188	14	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	15	壁も床も堅く良好。高土遺物はない。												
188	11	住北城	不整円形	スリット状	外傾	圓形	丸底	87×70	70×46	34				
188	16	壁はやや軟弱では堅く良好。2段の壁となっている。出土土器は、曾利Ⅱ式北定の影響を受けたと思われる漆画文と鉛圓文を施したものが多い。												
188	11	住北城	楕円形	スリット状	直壁	圓形	平底	86×75	64×50	68				17>20
188	18	壁も床も堅く良好。配石を廻り窓口部にもつ。出土遺物なし。												
188	18	11住東城	円形	スリット状	直壁	圓丸方形	平底	86×88	62×58	90				18>19

編號	番号	位 置	平 面 形	断 面 形	壁	床 面 形	床面	口 径	底 径	深さ	小穴	配 石	遺 物	切 合	
195	49	床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	171×88	139×56	39					
195	50	床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	133×87	103×55	48					
195	51	床・壁ともに堅く良好。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	128×94	90×67	50			(土)300-26		
195	52	床・壁ともに堅く良好。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	95×71	75×52	46			(土)300-27	52>47	
195	53	床・壁ともに堅く良好。出土遺物は多い。椭円形で竹管状工具での平行沈鉛を調査したものが多。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	108×100	76×82	38			骨利E式	54と並する	
195	54	床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	120×90	85×52	25				53と並する	
195	55	床・壁ともに堅く良好。出土遺物は多い。骨利E式北定が多く、北化した高砂の磨耗部が縦部にみられる。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	74×70	37×37	30			(土)300-28		
195	56	床・壁ともに堅く良好。出土遺物は、感じて、骨利E式北定が多く、北化した高砂の磨耗部が縦部にみられる。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	65×56	34×48	28				58>56	
195	57	床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。土柱の60%中に、土成形が最も多く墨下された形となっている。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	60×60	34×28	35					
195	58	床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕丸形	平底	115×110	85×70	74				58>56	
195	59	床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	85×55	51×34	50					
195	60	床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	24×165	185×128	23			(土)200-29, 30, 31		
195	61	壁は比較的堅く良好。平面形状が大きめに大きい。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	72×76	58×44	25					
195	62	土柱51, 62, 63が南北一列に並んでるかの見よも、堅も堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕丸形	平底	115×110	85×70	74					
195	63	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	101×68	91×47	31					
195	64	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	160×104	133×70	93				31>60	
195	65	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	160×104	133×70	93					
195	66	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	160×128	138×90	96			骨利E式	67>69	
195	67	壁・床ともに堅く良好。配石が地盤上に埋設されている。出土遺物は、堅密度変文のはりつけや鉛条線、鉛条を竹管状工具で押引したものなど骨利E式の影響を受けた骨利J-I-IIに比定されるものが多いが、越えて骨利E式に比定できる。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	160×148	140×120	22			(土)200-17		
195	68	壁や床や敷石であるが、床は堅く良好。配石は、導管土と同様になされており、石は白石である。出土遺物はない。	楕円形	不規則形	外傾	楕円形	平底	140×130	130×104	64				68>90	
195	69	壁や床や敷石であるが、床は堅く良好。配石は、導管土と同様になされており、石は白石である。出土遺物はない。	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	140×130	130×104	64				69>43	
195	70	壁・床ともに堅く良好。土柱は、土柱に切られた壁上に10cm程度積んでいた。又、隕石が、その西側部分より少し上にあった。出土遺物はない。	楕円形	不規則形	外傾	不規則形	平底	165×74	76×47	74					
195	71	壁・床ともに堅く良好。土柱71との間に、土柱約5m位置離れて、土柱70の東側にまでかかる形で遺存。	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	254×110	36×36	28				71>90	
195	72	壁・床ともに堅く良好。土柱72は、土柱71と並んである。	楕円形	スリット状	外傾	楕円形	平底	60×56	44×38	36			(石)200-13	73>72	
195	73	壁・床ともに堅く良好。土柱73は、土柱72と並んである。	三角形	スリット状	外傾	三角形	平底	102×88	124×45	65			(土)300-32	73>72	
195	74	壁・床ともに堅く良好。土柱74は、土柱73と並んである。	楕丸形	タライ状	外傾	楕円形	平底	110×104	97×84	36	1				
195	75	壁・床ともに堅く良好。土柱75は、堅密度変文の影響を受けた骨利E式のものと比定できるものが多い。壁は、やや傾斜している。	楕円形	不規則形	外傾	不規則形	平底	114×74	75×52	29			(土)300-33, 34		
195	76	壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、堅密度変文の影響を受けた骨利E式の影響を受けた骨利I式-骨利E式でよく似ている。	楕円形	不規則形	外傾	不規則形	平底	150×120	136×94	18					
195	77	壁・床ともに堅く良好。土柱77は、堅密度変文の影響を受けた骨利E式のものと比定できるものが多い。壁は、やや傾斜している。打製・磨製・半打製手研磨の石斧3点、石刀1点、磨打石1点、大船石器1点、骨利7点の各石器が出土している。	楕円形	異方形	直状	外傾	楕丸形	平底	150×143	140×120	21	1	石斧	(土)200-35-49 (石)200-14-20	
195	78	壁・床ともに堅く良好。土柱78は、堅密度変文の影響を受けた骨利E式のものと比定できるものが多い。壁は、やや傾斜している。打製・磨製・半打製手研磨の石斧3点、石刀1点、磨打石1点、大船石器1点、骨利7点の各石器が出土している。	楕円形	不規則形	直状	外傾	不規則形	平底	160×119	146×92	18	1		(土)200-41 (石)200-15	

調査	番号	柱	蓋	平面部	斜面部	壁	床面部	床面	口	柱	底	柱	深さ	小穴	配石	遺物	切合
(191)	(105)	壁も床も堅く良好。地盤状態は床より黒褐色土(炭化物、ローム含む)、暗褐色土(ローム较多し)、暗褐色土(ローム性、炭化物含む)の順になっていて、黒褐色土層の中に自然石がある。石密は、打製石斧、石器等、磨き石が各1点づ出土。															
191	106	壁も床も堅く良好。出土土器はないが、床面北壁部に施け石と開口部に自然石が置かれてあった。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	100×72	71×52	40	開口部	高さ	21				
191	108	壁も床も堅く良好。出土土器はないが、床面北壁部に施け石と開口部に自然石が置かれてあった。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	80×58	64×37	21							
191	109	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。															
191	110	壁も床も堅く良好であるが、北壁が土基113によって割かれている。9個の自然石が、土壌の開口部より南側に置かれている。その内、3個は施け石である。堆積土層は、床より暗褐色土(炭化物を含む)、壁にロームふらん土、その上に堆積層、ロームブロックと通称している。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	110×98	80×67	90	開口部		110×122				
191	111	壁も床も堅く良好であるが、北壁が土基113によって割かれている。9個の自然石が、土壌の開口部より南側に置かれている。その内、3個は施け石である。堆積土層は、床より暗褐色土(炭化物を含む)、壁にロームふらん土、その上に堆積層、ロームブロックと通称している。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	104×82	73×51	36	開口部						
191	112	壁も床とも堅く良好。出土土器はない。石密は、打製石斧が3点出土。	円形	スリット状	外側	円形	平底	73×80	53×54	70	(石)239-27 231-26, 29		110, 112>112				
191	113	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状	外側	円形	平底	128×112	85×84	140			113>110, 112				
191	114	壁・床ともに堅く良好であるが、東壁を井手65の凸に欠く。出土土器は、口縁部、裏面に墨跡を残す・焼痕としてはりつけ、未編文を残している。	円形	スリット状	外側	円形	平底	106-96	82×57	48			91, 95>116				
191	115	壁も床も堅く良好。出土土器はない。口縁部東壁部に自然石が1つ置かれていた。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	190×122	158×164	20	開口部	高さ	2	曾利Ⅰ-Ⅱ式	94, 95>115		
191	117	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	柱円形	スリット状	外側	柱円形	平底	92×70	77×55	43			89>117				
191	118	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	柱円形	タライ状	外側	楕円形	平底	70×64	62×50	20			曾利Ⅰ-Ⅱ式				
191	119	壁も床も堅く良好。出土土器はない。無文の錆板部や口縁に墨文を施す・焼痕をついたものがでている。	柱形	スリット状	外側	楕円形	平底	75×54	58×35	27			123>113				
191	120	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	柱円形	スリット状	外側	柱円形	平底	48×34	38×20	53							
191	121	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	50×45	33×29	31							
191	122	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	三角形	スリット状	外側	三角形	平底	74×66	55×45	33	開口部		122>85				
191	123	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。開口部北壁に施け石の配石がある。	柱形	スリット状	外側	楕円形	平底	50×50	34×27	40			123>119				
191	124	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	柱形	スリット状	外側	楕円形	平底	61×58	36×33	37							
191	125	壁・床ともに堅く良好。出土土器はない。	柱丸方形容	スリット状	外側	楕円形	平底	58×52	54×73	44	(石)251-32						
191	126	壁・床ともに堅く良好。東南壁にピットがある。出土土器は、口縁部に墨文を施す・焼痕を施したものの、口縁に施け文やわらび多文をはりつけ。口縁にそってヘア先で鍛造して、地に纏文を施したもののがある。石密は、打製石斧、燒け石器、磨き石が1点ずつ出土。	柱丸方形容	スリット状	外側	楕円形	平底	151×100	170×88	44	表面	曾利Ⅰ式	86, 87>126				
191	127	壁・床ともに堅く良好。床面北壁より2個の自然石を置き、その後に曾利Ⅰ式の纏文焼痕文と漢文を施した土器片が出土した。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	62×35	45×22	30							
191	128	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状	外側	円形	平底	75×62	54×48	63			128>109				
191	129	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	柱円形	タライ状	外側	楕円形	平底	120×85	96×63	25							
191	130	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	柱丸方形容	スリット状	外側	楕円形	平底	110×90	85×60	142	開口部	(石)222-33, 34	131>132, 134				
191	131	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。いざれも自然石である。土壌334の配石と合一の車輪のものと思われる。そのうち、一つは施け石である。石密は、打製石斧、磨き石が1点ずつ出土。	柱丸方形容	スリット状	直壁	楕円形	平底										
191	132	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状	直壁	円形	平底	63×64	58×48	61			131>132				
191	133	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	柱円形	スリット状	外側	楕円形	平底	82×55	70×39	37							
191	134	壁・床ともに堅く良好。開口部より自然石の配石がでている。出土遺物はない。	円形	スリット状	直壁	円形	平底	78×88	59×61	100			131>134				

編號	番号	位 置	平 面 形	断 面 形	壁	底 面 形	底 面	口 深	底 高	深さ	小穴	配 石	重 物	切 合
185	135	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状	外側	円形	平底	65×58	40×34	20				80>135
186	136	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	三 角 形	スリット状	外側	三角形	平底	72×55	58×34	54				
187	137	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。堆積状態は、ロームふらん土層内に、黒色土ブロックガ (ローム粒、炭化物含む) 包含されている試験である。	不整円形	不整	圓	() 丸底	120×140	()	55					131, 132>138
188	138	壁も床も堅く良好であるが、その形状は、壁が弧状、床が丸底である。数が少ない特徴である。出土遺物はない。	不整円形	不整	圓	() 丸底	120×140	()	55					
189	139	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	スリット状	外側	椭円形	平底	70×46	50×27	18				80>137
190	140	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。東塗壁は2箇所の小さなピット (径10cm内外) がある。	椭円形	スリット状	外側	椭円形	平底	72×55	58×34	54				
191	141	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。外壁は不整内部を二つの壁をもつ、やや壁面は軟弱で、床は堅く良好。内壁壁上部前面の上に長さ45mm幅35mmの立石が遺存し、外壁東塗部に2箇の自然石が置かれていた。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	130×147 (130×178)	87×55 (44 (140))			口付		
192	142	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	平底	70×53	50×46	30				
193	143	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	137×94	118×76	13	2			9, 144>143
194	144	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	86×76	62×63	22				144>143
195	145	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。普利 I 式に比定される陶文と縦縞及び各縞と墨文の組み合せた調節文様のものが多い。	椭円形	スリット状	外側	椭円形	手底	86×47	62×25	22			(土) 200-57-6	
196	146	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	87×81	68×63	23				145>146
197	147	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	不整円形	スリット状	外側	不整円形	手底	136×91	125×68	28				145>147
198	148	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	87×81	68×63	23				145>148
199	149	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。壁面は中央部に2つの配石をもつ。各々、施錆土層と漆口部に配されていた。出土土器は、粘土器を覆被に施り付けたものや、隆唇の筒型に竹管状工具による押引のものが多い。	椭円形	スリット状	外側	椭円形	手底	142×93	104×60	27		漆口付	普利 I 式	
200	150	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	86×52	29×36	60				150>152
201	151	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	64×49	42×36	36				151>152
202	152	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	120×74	93×45	24			(土) 200-61	150, 151>152
203	153	壁も床も堅く良好。出土土器は、頭部・脚部に竹管状工具で平行施捺で区画をつくり、その中を、竹管で押引しているものが多い。又、隆唇をはりつけ、その両側を押引したものもある。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	102×74	81×63	40			普利 I 式, (土) 200-62	
204	154	壁も床も堅く良好。出土土器は、頭部・脚部に竹管状工具で平行施捺で区画をつくり、その中を、竹管で押引しているものが多い。又、隆唇をはりつけ、その両側を押引したものもある。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	145×115	111×87	57		表面		154>158
205	155	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	145×115	111×87	57				
206	156	壁も床も堅く良好。配石として、壁面の石が、土壁116との間に置かれていた。出土土器は、普利 I 式比定のものが多く、L字脚部に高唇陰唇と闊文、竹管状工具による隆唇の筒型内の網目状の斜交文等が見られる。石器は、敲打器が、点出土。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	44×40	19×20	57		口付	普利 I 式, (石) 212-35	
207	157	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	(80)×121	(80)×115	22				154, 170>158
208	158	壁も床も堅く良好。配石をもなう土境154と170により裏・隔壁が火焚けている。又、立石をもつ土境141と近接している。出土遺物はない。	不整円形	スリット状	外側	不整円形	手底	(80)×73	(70)×52	40				128>160
209	159	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	71×55	48×48	31				159>161
210	160	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	120×74	93×45	24				
211	161	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	98×64	()	18				159>161
212	162	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。	椭円形	直状	外側	椭円形	手底	65×51	51×37	61				

測定	番号	位 置	平 面 形	新 面 形	壁	床 面 形	床 面	口 径	底 径	深 度	小穴	配 石	遺 物	切 合
(192)	162	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。												
192	163	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状 外縁 円形	平底	53×53	33×34	25						
192	164	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状 外縁 円形	平底	75×70	50×48	38						
192	165	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状 外縁 円形	平底	52×53	34×35	31						
192	167	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状 外縁 円形	平底	50×40	32×28	32				普利式		
192	168	壁も底とともに堅く良好。出土遺物は、舟形瓦の影響を受けた櫛目文も若干あり、主に、竹管による平行弦紋や押引き、斜綱文を地として蛇行彫文が施されたものが多い。	円形	スリット状 外縁 円形	平底	49×45	32×28	27						
193	169	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。	円形	スリット状 外縁 円形	平底	125×109	96×76	34		開口部			170>158	
192	170	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はないが、盤状の自然石が、開口部を象嵌して保存していた。	円形	スリット状 外縁 円形	平底	122×117	79×86	72						
195	185	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	22×50	32×36	34		開口部	(土)394-68			186>187
193	186	壁も底とともに堅く良好。西面開口部に細長い自然石が盤に沿ってすみられていた。出土土器は、普利式比定のもので、綾条彫文や渕文の組合せ、新夷文に懸垂文を組合せたものが多い。	楕丸形	スリット状 外縁 楕丸形	平底	140×146	89×85	106			(土)394-68			
193	187	壁も底とともに堅く良好。二段の壁と、外縁は、やや欹曲である。内壁・底ともに堅く良好。出土土器は、陰唇と結縫彫文の組合せ、垂垂文と柔軟彫文の組合せのものが多い。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	100×81	74×55	59						
194	215	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	104×98	83×65	22						186>187
194	216	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	楕丸形	スリット状 外縁 楕丸形	平底	66×50	50×27	46						226>227
194	216	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	115×89	92×66	59						216>227
194	217	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	三角形	スリット状 外縁 三角形	平底	94×63	73×49	24	2					
194	218	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。西壁には、径18cm×14cm深さ26cm、北壁には径22cm×34cm深さ30cmの小穴がある。石器は、打撲石斧1点、磨石2点出土。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	82×53	33×29	29				普利式		229>237
194	219	壁も底とともに堅く良好。出土土器は、少量であるが、柔軟文や斜滑文と幾種類文、渕文の組合せのものが見られる。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	95×79	75×58	46			普利式 (石)219-38, 39			
194	220	壁も底とともに堅く良好。出土土器は、少量であり、微隆脊と結縫彫文、斜滑文と沈透彫文、柔軟文と渕文といった組み合せのものが見られる。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	126×104	95×78	45			普利式			
194	221	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	102×89	114×45	53						
194	222	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	68×54	32×36	28						
194	223	壁も底とともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	82×56	63×47	39				普利式		
194	224	壁も底とともに堅く良好。出土土器はない。石器は、石斧が1点出土。	楕円形	タライ状 外縁 楕円形	平底	102×73	77×55	14			(石)223-41			
194	225	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	60×46	37×30	41						
194	226	壁も底も堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	148×96	117×55	44						
194	227	壁も底とともに堅く良好。出土土器は、柔軟文と斜滑文との組み合せのものが4点出土。	楕円形	スリット状 直壁 楕円形	平底	95×75	68×47	84			普利式			
194	228	壁・底ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	87×60	89×68	111						
194	229	壁・底ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	タライ状 外縁 楕円形	平底	82×56	61×36	16						
194	230	壁・底ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	106×106	86×80	50						
194	231	壁・底ともに堅く良好。出土遺物はない。	楕円形	スリット状 外縁 楕円形	平底	60×50	40×32	83						
194	232	壁・底ともに堅く良好。出土遺物はない。	五角形	タライ状 外縁 五角形	平底	53×95	66×62	19						
194	234	40往北城												

編號	番号	位 置	平 面 形	断 面 形	壁	床 面 形	床面	口 係	底 性	深さ	小穴	配 石	達 物	切 合
145	304	13住西城	隅丸方形	スリ跡状	外傾	隅丸方形	平底	90×80	71×69+	80				
146	305	13住西城	隅円形	スリ跡状	外傾	隅円形	平底	118×87	78×44	30				
147	308	13住西城	円形	スリ跡状	外傾	円形	平底	50×25	38×21	24				
148	309	13住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	114×76	90×52	49				
149	310	14住西城	不動円形	スリ跡状	外傾	不動円形	平底	90×56	52×32	49				344>300
150	311	14住西城	円形	スリ跡状	外傾	円形	平底	60×66	52×54	118				
151	311	14住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	76×83	55×55	29				299>302
152	312	14住西城	円形	スリ跡状	外傾	円形	平底	45×68	55×57	43				299,302>313
153	313	14住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	74×66	58×42	35				344>300
154	314	14住西城	円形	スリ跡状	外傾	円形	平底	100×90	78×60	98				
155	315	14住西城	不動円形	タクツイ状	外傾	不動円形	平底	60×36	55×24	22	1			
156	315	14住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	116×123	98×123	98				317>320
157	317	14住西城	円形	スリ跡状	外傾	円形	平底	148×123	122×112	115				
158	319	14住西城	隅丸方形	スリ跡状	外傾	隅圓形	平底	100×100	83×83	48				299>303
159	319	14住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	116×108	93×86	48				299,303>306
160	320	14住西城	円形	スリ跡状	外傾	隅圓形	平底	118×114	102×82	48				

單独に検出された土器

編號	番号	位 置	平 面 形	断 面 形	壁	床 面 形	床面	口 係	底 性	深さ	小穴	配 石	達 物	切 合
142	171	23住南城	隅円形	タクツイ状	外傾	隅圓形	平底	192×133	159×106	52	素面	(土)206-63, 306-77		176>171
143	172	23住南城	五角形	乳頭状	外傾	五角形	丸底	190×104	164×70	65				
144	172	23住南城	三角形	乳頭状	外傾	三角形	丸底	182×170	150×130	32		骨利三式 (石)212-36, 37		176>173
145	173	23住南城	三角形	タクツイ状	外傾	三角形	平底	135×120	111×98	58		骨利一式 (石)212-36, 37		173>172
146	174	25住西城	ひし形	スリ跡状	外傾	ひし形	平底	135×120	111×98	58		骨利三式 (土)206-78		
147	175	25住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	138×133	109×103	29		骨利三式		
148	176	25住西城	円形	タクツイ状	外傾	圓形	平底	162×134	120×103	39		骨利一式		
149	177	25住西城	三角形	タクツイ状	外傾	三角形	平底	140×120	105×82	27				173>172
150	177	25住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	140×120	105×82	27				
151	178	25住西城	円形	スリ跡状	外傾	圓形	平底	138×133	109×103	29		骨利三式		175>171, 173
152	178	25住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	138×133	109×103	29		骨利三式		175>171, 173
153	179	25住西城	三角形	タクツイ状	外傾	三角形	平底	140×120	105×82	27				
154	179	25住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	140×120	105×82	27				
155	180	25住西城	円形	袋狀	外傾	圓形	平底	235×215	190×158	84	底面	(土)206-65-82		
156	180	25住西城	五角形	袋狀	外傾	五角形	平底	135×135	103×95	60				
157	181	25住西城	円形	タクツイ状	外傾	圓形	平底	135×135	103×95	60				
158	182	25住西城	五角形	袋狀	外傾	五角形	平底	135×135	103×95	60				
159	183	25住西城	円形	タクツイ状	外傾	圓形	平底	135×135	103×95	60				
160	184	25住西城	五角形	袋狀	外傾	五角形	平底	135×135	103×95	60				
161	185	25住西城	円形	スリ跡状	外傾	圓形	平底	98×79	58×46	50				
162	186	25住西城	五角形	スリ跡状	外傾	五角形	平底	98×79	58×46	50				
163	187	25住西城	円形	袋狀	外傾	圓形	平底	98×79	58×46	50				
164	188	25住西城	五角形	袋狀	外傾	五角形	平底	98×79	58×46	50				

2 土壌の形状的分類

ここでは、土壌の検出区域を、住居址内・住居址接觸、住居址周辺・単独に分け、さらに、I群（円形に含まれるもの）II群（角形に含まれるもの）III群（I・II群に含まれないもの）に分け、類は、平面・床面形、床面、断面形、壁の組合せにより、I群ではA～A₆、B₁～B₅、C₁～C₅、D₁～D₅、II群では、E₁～E₃、F₁～F₅、G₁～G₄、H₁～H₅、III群ではI₁・I₂と類別し、その各類を、a種一口径が60cm以下、b種—61cm～100cm、c種—101cm～140cm、d種—141cm～180cm、e種—181cm以上として、分類した。

区域	形	類	平・ 床面形	床面	断面形	壁	外 縁	口徑	上規範	区域	形	類	平・ 床面形	床面	断面形	壁	外 縁	口徑	上規範
住居址内接觸	I	A ₁	楕円形	平底	スリット状	外縁	a	60cm以下	206	住居址周辺・ 単独	I		平底				c	60~140	143
							b	61~100	145, 157, 210, 232								e	185~	11, 115, 141, 158
							c	101~140	192, 224, 271, 295								d	141~180	44
							d	141~180	65, 308								e	186cm以下	298
							e	181~									b	61~100	45, 219, 250
	A ₂	B ₁	楕円形	平底	アリ輪状	外縁	a	60cm以下	12, 45, 120, 121, 123, 244, 281, 308	住居址周辺・ 単独	I		平底				c	181~140	62, 187
							b	61~100	4, 36, 39, 39, 37, 52, 57, 92, 96, 102, 106, 109, 117, 127, 138, 145, 151, 162, 166, 215, 218, 309, 277, 282, 285, 288, 216(底盤) 227(+) 17(+)								a	60cm以下	97(底盤), 104(底)
							c	101~140	50, 54, 55, 56, 51, 65, 105, 111, 129, 153, 170, 256, 273, 300, 305, 308, 319, 320							b	61~100	153, 189	
							d	141~180	149, 221, 299, 67(底盤)							d	141~180	45	
							e	181~	2, 294							a	60cm以下	13, 14, 25, 156, 163, 167, 169, 264, 293, 45(底盤)	
住居址内接觸・ 単独	A ₃	A ₂	楕円形	平底	アライ状	外縁	a	60cm以下		住居址内	I		平底				b	61~100	112, 128, 135, 150, 159, 164, 165, 223, 238, 251, 252, 276, 322(底盤) 344(底盤)
							b	61~100									c	101~140	114, 115, 116, 271, 275, 280, 315(底盤)
							c	101~140	21, 41, 43, 43, 36, 135, 246, 248, 249, 298							d	141~180	35, 227	
							d	141~180	5, 49, 58, 106, 175, 46(底盤)							e	181~140	39	
							e	181~	171							f	141~180	63	
	A ₄	B ₂	楕円形	平底	底状	外縁	a		底汚なし	住居址周辺	I		平底				a	60cm以下	58, 72, 278, 45(底盤)
							b	181~	22, 95, 61, 64, 142, 159(底盤) 19(底盤)							b	61~100	142, 159(底盤) 19(底盤)	

区域	Ⅳ	Ⅴ	平 面 形 状	底 部 断 面	壁 厚	口 径		区域	Ⅳ	Ⅴ	平 面 形 状	底 部 断 面	壁 厚	口 径	土 10m	
自転車 道、歩道	I	B 4	平形 平底 アーチ脚 外傾	外傾	c d e	101~140 81~100 101~140	53 228(底面) 内側斜 102(底面)	住居地周辺	E	E 4	横丸方型 (底面) (高さ)	平底 スリ ット状	外傾	b	61~100 81~100	253 254(不整内面) 325(円錐)
住居地内、 施設	C 1	不規則形 平底 アーチ脚 外傾	外傾	b e f g	41~100 101~140 101~140	203, 230, 293, 302 198, 205 212	住居地周辺	E 5	E 4	横丸方型 (底面) (高さ)	平底 スリ ット状	外傾	b	61~100	253 (円錐) 254(不整内面) 325(円錐)	
住 宅	C 2	横円形 平底 アーチ脚 外傾	外傾	b c d e	61~100 101~140 101~140 101~140	19, 245, 290, 310 70, 91 275, 45, 95	住居地周辺	E 6	E 4	横丸方型 (底面) (高さ)	平底 タラ イ状	外傾	a	101~140	306(底面斜)	
住居地内	C 3	横円形 平底 直脚 外傾	外傾	a d e f	101~140 61~100 101~140 101~140	194 30 9, 243 147, 207	住居地周辺	E 7	E 5	横丸方型 平底	内側斜 外傾	a	60cm以下	258		
住居地周辺	C 4	横円形 平底 アーチ脚 外傾	外傾	a d e	101~140 101~140 101~140	24, 47, 48, 76, 78, 82 39, 69, 126, 240	住居地周辺	F 1	F 2	二角形 平底	スリ ット状	外傾	b	61~100 61~100	189 186, 217 225, 289(底面)	
住居地内、 施設	C 5	不規則形 (底面) 平底 アーチ脚 外傾	外傾	c d e f g	101~140 101~140 101~140 101~140 101~140	211, 290 287 15 69 90	住居地周辺	F 3	F 2	二角形 平底	タラ イ状	外傾	b	61~100 61~100	264 306	
住居地周辺	C 6	不規則形 A 底 平脚 低	外傾	b c d e	61~100 101~140 101~140 101~140	101 130 130 130	住居地内、 施設	G 1	G 2	ひし形 平底	スリ ット状	外傾	b	41~100 101~140	228 177 325	
住居地周辺	D 1	横形 平底 アーチ脚 外傾	外傾	a b	80cm以下 61~100	225 222, 155	住居地周辺	G 3	G 4	長方形 平底	スリ ット状	外傾	b	61~100 101~140	29 161	
+	D 2	横形 平底 アーチ脚 外傾	外傾	c d e	101~140 101~140 101~140	54 342 905	住居地内	G 5	G 6	不規則形 凸面 直脚	乳頭状 底	外傾	b	61~100 101~140	296 325	
+	D 3	横形 平底 アーチ脚 外傾	外傾	b c d e	61~100 101~140 101~140 101~140	119(横行斜) 322(底面斜)	住居地周辺	H 1	H 2	△内形 平底	スリ ット状	外傾	b	61~100 61~100	256 256	
住居地周辺	E 1	横丸方型 平底 アーチ脚 外傾	外傾	b c d e	61~100 101~140 101~140 101~140	191 301 182 154	住居地内	I 1	I 2	不規形 平底	スリ ット状	外傾	a	101~140 101~140	279 314(円錐) 291(△内形)	
住居地周辺	E 2	横丸方型 平底 アーチ脚 外傾	外傾	f g h i	80cm以下 61~100 101~140 101~140	290, 292 125, 146, 235, 341, 347, 374, 296, 394 58, 110, 152, 170, 227, 351(底面) 388(底面)	住居地周辺							b	61~100 101~140	279 314(円錐) 291(△内形)

3 土塙出土土器 (排図・番号例 197.11-12 は、第197図-11番土塙12号出土を意味する)

排図	番 号	形 状	部 位	比 定 形 式	色 調		胎 土	説 明
					表	裏		
198	1-1	深 鉢	底 部	曾 利 II 式	黄褐色	暗褐色	荒い長石・石英	施文→縦位ヘラ削り→懸垂文貼付→斜羅文→沈継縫消 裏面→縦位のヘラ搔き上げ (単筋)
*	2-1	*	脚 部	曾 利 III 式	暗褐色	*	*	施文→縦位ヘラなで→沈継懸垂文→斜羅縫文 裏面→縦位ヘラ削り
*	3-3	*	脚上半部	*	暗茶褐色	茶褐色	荒い 長石・石英・雲母	施文→縦位ヘラなで→陽帯横走・懸垂文貼付→斜羅文→絶 縫消 (施文単位は7単位) 裏面→指なで、径24cm、周径18cm、残器高19cm,
*	4-3	*	脚上半部	*	茶褐色	*	*	施文→縦位ヘラなで→陽帯横走・列点文→斜羅縫文→長棒 円文・磨消 (口縁・施文単位は、6単位) 裏面→指なで。口径26cm、周径15cm、残器高26cm,
*	5-3	*	口 縁 部 [口縁付]	*	暗茶褐色	*	*	施文→縦位ヘラなで→塵帶区文貼付→羊脂斜縫文 裏面→縦位ヘラなで
*	6-5	*	脚上半部	*	*	暗茶褐色	*	施文→縦位ヘラなで (口縁部) 棚位・併位 (脚部) →S字 状突起貼付→斜羅縫文→二重縫内文 裏面→縦位ヘラなで。推定口径29cm、同期径27cm、残器高 26cm, 施文単位→口縁部4~5単位、脚部12~13単位
*	7-7	*	口 縁 部	*	暗茶褐色	淡茶褐色	*	施文→縦位ヘラ磨き→連粘の塵帶区文貼付→結節縫文 裏面→縦位ヘラなで。推定口径24cm,
199	8-8	*	脚上半部	*	*	暗茶褐色	*	施文→連結塵帶消去・懸垂文貼付→列点文→結節縫文→沈 継縫消・指なで成形 裏面→縦位ヘラ磨き (口縁部) 、横位ヘラなで (脚部) のり 状こげ付着・脚下部は、あばたびに剥 施文単位→口縁部5単位、脚部9単位。口径19.5cm
*	9-9	無腹頭	脚上半部	曾 利 II 式	淡茶褐色	淡茶褐色	*	施文→ヘラなで→滴文突起・連続縫付→波 状捲筋 (ヘラ先剥突) →沈継消文→条線文 裏面→縦位ヘラなで→懸垂文→斜羅縫文→沈継豊形。裏面なで
199	10-12	(深鉢)	脚 部	曾 利 III 式	茶褐色	*	*	施文→ヘラなで→懸垂文突起・連続縫付→波 状捲筋 (ヘラ先剥突) →口径16cm、周径19cm、残器高16cm
*	11-12	*	*	*	*	*	*	施文→ヘラなで→連続縫消文→沈継豊形。裏面なで
198	12-20	*	*	曾 利 III 式	淡茶褐色	*	*	施文→ヘラなで→連続縫文貼付→斜縫条線文 裏面→ヘラなで
*	13-21	深 鉢	*	*	赤褐色	赤褐色	荒い長石・石英	施文→塵帶区文貼付→波状捲筋 (ヘラ先剥突) →粘上縫 貼付→ヘラ剥起頭→ヘラ削り→沈継消文
199	14-22	(深鉢)	脚 部	曾 利 II 式	茶褐色	暗茶褐色	*	施文→塵帶貼付→列点文→ヘラ剥き
*	15-35	深 鉢	*	曾 利 III 式	淡褐色	暗褐色	*	施文→塵帶貼付→列点文→ヘラ剥き
*	16-35	*	*	*	淡褐色	暗褐色	*	施文→ヘラ磨き→結節縫文→沈継豊形文
200	17-39	*	*	*	*	*	*	施文→ヘラなで→陽帯横走・懸垂文貼付→沈継中心凹文・ 条線文。裏面→ヘラなで
199	18-40	(+)	口 縁 部	加曾利E III式	時茶褐色	茶褐色	*	施文→ヘラ磨き→斜縫捲筋→ 扇形文・波文・横円文→ 織文透視。裏面→ヘラ磨き。
*	19-22	(+)	底 部	(+)	淡褐色	暗褐色	*	施文→ヘラなで。裏面→ヘラ磨き。
*	20-43	深 鉢	口 縁 部	曾 利 II 式	茶褐色	暗茶褐色	*	施文→ヘラ磨き→塵帶消文。裏面→ヘラ磨き。
*	21-43	(深鉢)	脚 部	曾 利 I - II 式	淡褐色	暗褐色	*	施文→ヘラなで→單縫斜縫文→沈継消文。裏面→ヘラなで
*	22-46	*	*	曾 利 III 式	茶褐色	暗茶褐色	*	施文→ヘラなで→斜縫縫文→沈継豊形文→織文透視。
*	23-46	*	*	*	*	*	*	施文→ヘラなで→斜縫縫文→沈継豊形文→織文透視。
200	24-47	深 鉢	口 縁 部	曾 利 II 式	*	淡茶褐色	*	施文→波状捲筋→塵帶区文→竹筋削突文。
*	25-48	*	*	加曾利E III式	*	*	*	施文→口縁ヘラ磨き→沈継区文→單縫斜縫文。
*	26-51	*	脚 部	曾 利 II 式	黄褐色	灰褐色	*	施文→ヘラなで→陽帯横走・懸垂文→波文条線文。
*	27-52	(深鉢)	尾状突起	曾 利 I 式	淡茶褐色	暗茶褐色	*	施文→尾状突起→塵帶X字状文・梯子状文貼付→ヘラ先 剥突突文・劍目文
*	28-55	深 鉢	口 縁 部	曾 利 III 式	茶褐色	淡褐色	*	施文→ヘラ磨き→ヘラ先。玉出同心円文。
*	29-60	*	*	*	暗茶褐色	淡茶褐色	荒い長石 -石英・雲母	施文→指なで→退化した粘土透視文貼付→單縫斜縫文→沈 継文→ヘラ磨き→織文透視。 裏面→縦位ヘラ磨き。
*	30-60	*	*	加曾利E III式	*	淡褐色	大粒の長石・石英	施文→指なで→退化した粘土透視文貼付→單縫斜縫文→沈 継文・字状文→織文透視。裏面→指なで。
*	31-60	*	*	曾 利 II 式	茶褐色	*	荒い長石・石英	施文→塵帶消文軒台・山形口縁→塵帶区文→鉛縫文。

種別	番号	形 状	部 位	比 定 型 式	色 表	開 高	胎 土	特 徵
201	32-73	(深鉢)	脚 部	曾 利 Ⅲ 式	淡茶褐色	淡 褐 色	荒い長石・石英	施文～難審査垂文→結節縞文→沈文消暗。
+	33-75	浅 鉢	底 部	曾 利 Ⅲ 以降	暗赤褐色	+	+	施文～ハラ磨き→沈文。裏面～ハラなで。
+	34-75	(深鉢)	脚 部	曾 利 Ⅰ ～ Ⅲ 式	淡 褐 色	+	+	施文～八字状陰唇垂文→ハラ先割文→斜縞文。
+	35-77	深 鉢	口 線 部	*	暗茶褐色	茶 褐 色	荒い長石・石英 雲母	施文～隠冠状突起貼付→難審査円文→結節縞文→指ひなで。 裏面～指ひなで。
+	36-77	(深鉢)	脚 部	曾 利 Ⅲ 式	茶 褐 色	淡 褐 色	荒い長石・石英	施文～ハラなで→結節縞文→幾度帯懸垂文→結節縞文。
+	37-77	*	*	*	*	茶 褐 色	*	施文～ハラなで→難審査垂文→結節縞文→結節縞文。
+	38-77	*	底 部	*	黄 褐 色	*	*	施文～ハラなで→難審査垂文貼付→結節縞文。
+	39-77	*	*	()	*	*	*	施文～去面傾斜ヘ磨き。裏面側面のハラなで。
+	40-77	*	*	()	暗 褐 色	淡 褐 色	*	施文～青面報位ヘラ磨き。裏面側面のハラなで。
+	41-78	深 鉢	口 線 部	*	茶 褐 色	*	*	施文～横立ヘラ磨き→口唇部ヘラ先。割目→斜縞文。
+	42-79	(深鉢)	脚 部	曾 利 Ⅰ ～ Ⅲ	淡 褐 色	*	*	施文～ハラまで→斜縞文→平行波紋。
+	43-85	*	口 線 部	曾 利 Ⅳ ～ Ⅴ 式	*	*	*	施文～ハラ落き→竹安尖氈→沈文消→斜縞文。
+	44-85	(深鉢)	脚 部	(曾 利 Ⅰ ～ Ⅲ 式)	淡 褐 色	暗 褐 色	荒い長石・石英	施文～ハラなで→斜縞文。
+	45-85	()	*	曾 利 Ⅳ 式	*	*	*	施文～難審査・懸垂文貼付→列点文→結節縞文→異文附。
+	46-85	()	*	*	茶 褐 色	淡 褐 色	*	施文～難審査・懸垂文貼付→結節縞文→沈文消。
+	47-88	()	*	*	茶 褐 色	*	*	施文～透微波紋垂文貼付→斜縞文→沈文消。
+	48-88	円 盆	脚 部 片	(曾 利 Ⅰ ～ Ⅲ 式)	暗 褐 色	黄 褐 色	長石・石英・雲母	土調円盤と思われ。網縞文を施した脚部片を使用。
+	49-89	深 鉢	口 線 部	曾 利 Ⅱ 式	暗 褐 色	淡 褐 色	荒い長石・石英	施文～難審査渋文貼付→難拉条縞文→沈文消→難縞文。
+	50-89	(深鉢)	脚 部	曾 利 Ⅰ ～ Ⅱ 式	淡 褐 色	*	*	施文～ハラなで→斜縞文→蛇形文。
202	51-105	深 鉢	脚 上半部	加曾利Ⅳ ～ Ⅴ 式	*	*	網縞文のみ	施文～ハラなで→沈文消→複V字文→單節網縞文。
+	52-105	*	*	中 周 末 釜	暗 褐 色	茶 褐 色	荒い長石・石英	施文～ハラ磨き→ヘラ先で横走・波状・横円・蛇行文跡+
+	53-105	*	LJ 線 部	加曾利Ⅳ ～ Ⅴ 式	黄 褐 色	暗 褐 色	雲母	裏面～耳状尖起貼付→難拉縞文→沈文消→難縞文。 裏面～ヘラカ。
+	54-105	*	脚 部	曾 利 Ⅲ 式	黑 褐 色	茶 褐 色	荒い長石多し	施文～難拉ヘラ磨き→2条結節縞文→2重横円沈文。
+	55-105	*	脚 上半部	*	暗茶褐色	黄 褐 色	長石・雲母	施文～ハラなで→難縞文・結節縞文→H字状沈縞垂文+十幅円文→難審査消。裏面～ハラなで。
203	56-106	(深鉢)	脚 上半部	中 周 末 釜	黑 褐 色	淡 褐 色	荒い長石・石英	施文～ハラ削り→沈縞圓円文。裏面～ハラなで。
+	57-145	無脚 鉢	底 部	曾 利 Ⅲ 式	淡 褐 色	茶 褐 色	*	施文～ハラ削り。
+	58-145	深 鉢	口 線 部	曾 利 Ⅱ 式	淡茶褐色	茶 褐 色	椎かい長石	施文～ハラなで→難審査横走(口唇部)・渋文貼付→列点文→放狀条縞文。裏面～ハラなで。
+	59-145	*	脚 部	*	赤 褐 色	暗 褐 色	荒い砂粒	施文～ハラなで→はけ目状細条縫→連続沈縞文。 裏面～あたた砂利落。
+	60-152	*	口 線 部	曾 利 Ⅲ 以降	灰 褐 色	灰 黄 色	雲母・長石・石英	施文～難審査横走・懸垂文貼付→ヘラ先で沈縞・斜目→雲の細い条縞。裏面とともに、冊なで。
+	61-152	*	*	(曾 利 Ⅰ ～ Ⅲ 式)	茶 褐 色	黄 褐 色	荒い長石	整形～書面面とともに～ハラなで。
+	63-153	*	LJ 線 部	曾 利 Ⅲ 式	茶 褐 色	暗茶褐色	荒い長石・石英	施文～ハラ磨き→ヘラ体状尖起貼付(2単位)→連続する 横走・渋文貼付→渋状陽筋(ヘラ先割尖)→上下・左右に条縫文→難審査周回。沈縞整形。 裏面～ハラなで。
204	63-171	手提付 深 鉢	手 倒 体	曾 利 Ⅲ 式	赤 褐 色	茶 褐 色	*	施文～手提部取付→M字状尖起貼付→ハラなで→沈縞長横円文→結節縞文。手提部に、ヘラ先割文を施す。 手提部文様に対し、裏側口唇部にM字状尖起が付く 形態上より、右手で持ち、左手で支える方法。
203	64-178	深 鉢	口 線 部	*	淡 黄 色	淡 黄 色	荒い砂粒	施文～ハラ削り→連続する難審査渋円文・逆U字文・渋文(口縫部、一ヶ所のみ)貼付→渋状陽筋(ヘラ先割尖)→裏面とともに、冊なで。
204	65-180	*	完 形	*	淡茶褐色	淡 褐 色	荒い長石・石英	施文～ハラ削り→連続する難審査渋円文・逆U字文・渋文(口縫部、一ヶ所のみ)貼付→渋状陽筋(ヘラ先割尖)→難審査を沈縞で整形→結節縞文を旋す。 裏面～ハラ削り。口径3.5cm、周径17cm、高さ46cm、底径8cm
204	66-180	深 鉢	完 形	曾 利 Ⅲ 式	茶 褐 色	淡茶褐色	荒い長石・石英	施文～ハラ削り→馬蹄状尖起貼付(4単位)→連続する難 審査渋円文・逆U字文・渋文(口縫部、一ヶ所のみ)貼付→渋状陽筋(ヘラ先割尖)→難審査を沈縞で整形→結節縞文を旋す。 裏面～ハラ削り。口径3.5cm、周径17cm、高さ46cm、底径8cm

第回	番号	形状	部位	比定型式	色調		胎土	特徴
					表	裏		
204	67-180	深鉢	完形	曾利Ⅰ式	淡茶褐色	淡褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラ削り→連結する縫合部貼付→縫合部に連続する施文 文貼付→各側面を沈継で整形。 裏面～ヘラ削り。口径22cm、胴径33.6cm、底径8cm、器高33.8cm
+	68-186	+	口縁部	+	暗赤褐色	淡褐色	荒い長石	施文～縫合ヘラなで→口縁部貼付→縫合部に連続する施文 文貼付→列点文→結節縞文→縞文磨消。 裏面～ヘラなで。口径24cm、胴径33.6cm、底径9.5cm、器高35.2cm
+	69-188	(+)	肩部	+	暗茶褐色	淡褐色	*	施文～縫合ヘラなで～腹巻唇垂文貼付→ヘラ先でV字状文 ～結節縞文→縞文磨消。 裏面～横継ヘラなで。
+	70-188	(+)	肩部	+	黄褐色	黄褐色	*	施文～ヘラなで～施漆唇垂文貼付→結節縞文→唇垂文両側 を沈継で整形→縞文磨消。 裏面～ヘラなで。
+	71-193	円盤	肩部片	(曾利Ⅱ～Ⅲ式)	*	*	荒い砂粒	土製円盤と思われ。沈継文を施した肩部片を使用。
205	72-254	深鉢	肩部	井戸坂末 ～曾利切	淡黃褐色	暗茶褐色	*	施文～ヘラなで～唇垂文(口字文+縫合条縞文)を施す。 裏面～ヘラなで。
+	73-254	小型深鉢	底上半部	曾利Ⅰ式	暗褐色	茶褐色	細かい長石	施文～ヘラなで～变形蛇体文粘付台→三条の縄文連続竹 筍文(頸部と脚中央部)→縫合の平行沈継又を施す。 裏面～ヘラなで。口径13cm、胴径10cm、器高19cm
+	74-255	大型深鉢	肩部	+	淡赤褐色	淡黃褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラなで～変形トの字状跡を中心に、X字状文・ 櫛目文・横く字状文を貼付→ヘラ先で、各側面に 斜突・斜目をつける→変形トの字状跡を貼付でつ まみ、爪先で押圧する→退化した人形文(櫛目文十 横く字状文)の左右に封閉する斜沈継を施す。 裏面～ヘラなで。胴径40.5cm、器高35cm
+	75-303	+	肩部	曾利Ⅱ式	暗赤褐色	茶褐色	細かい長石	施文～ヘラなで～草筋縞文(斜縦・斜斜) 裏面～ヘラなで。口径43cm、底径12cm、器高35cm
+	76-303	深鉢	ほぼ完形 (縫合缺欠)	曾利Ⅱ～Ⅲ式	淡褐色	暗褐色	極めて細かい石 粒	施文～ヘラなで～縫合を草筋洞文→沈継による通融通文→ 逆V字状文→蛇行文を沈継で施す。口径22cm、底径8.2cm、器高25.4cm
206	77-171	把手壺	手分	曾利Ⅱ式	茶褐色	茶褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラ削り→ヘラ先で斜文を2条施し、頂まで連結 する。
+	78-174	無腹壁	ほぼ完形 (縫合缺欠)	+	暗褐色	暗褐色	荒い長石	施文～ヘラ磨き→沈継による長條凹文→3条結節縞文を報 統する。 裏面～ヘラ削り。口径40cm、底径9.8cm、器高43.6cm
+	79-254	(深鉢)	底部	曾利Ⅰ式	赤褐色	*	荒い長石・石英 雲母	施文～ヘラ削り→粘土層による唇垂文貼付→横に細かい粘 土層貼付。 裏面～ヘラ削り。底径8.4cm、器高11cm

(註)「特徴」の欄で、結節縞文と記したのは、縫合結節縞文を意味し、「施文」としたのは、器面調整を含み、「→」で施文順序を示した。調整として、ヘラ削り→ヘラなで→ヘラ磨き、指など用いた。

4 問題提起

①「土塙」について

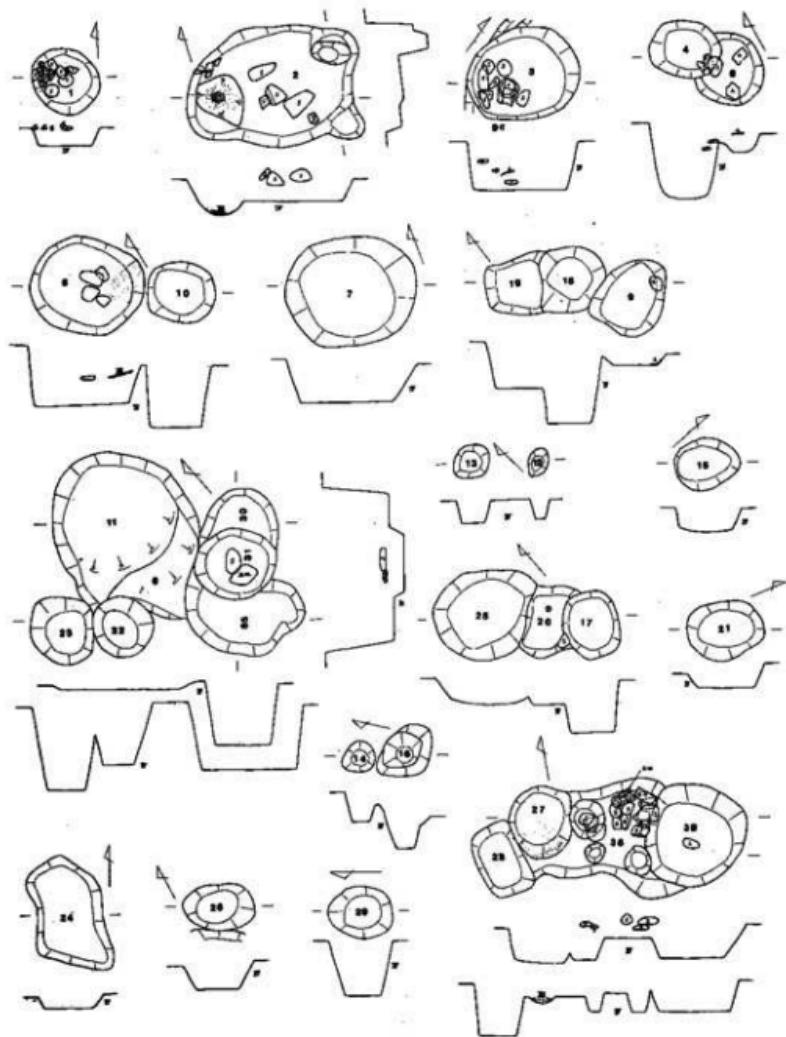
数多くの報告書、論文、資料の中で、「土塙」を意味する用語として、「ピット」「小豎穴」「土塙」「土壤」等、概念規定され得ない状態で使用され、混乱をきたしている情況である。「土塙」の性格・位置付等より、再度、概念が明確にされねばならないし、又して行かなければならないものとして、現在的にはあると思う。本稿では、「ローム層中に掘られた各形態・形状の豎穴」として扱った。

②「土塙」の時・空間的問題

本遺跡で検出された325か所（資料の上では、320か所）の土塙のうち、出土遺物がないものが、220か所で、全体の3分の2以上を占める為、又縄文時代中期末と奈良・平安時代の複合遺跡である為、土塙が、何号住に伴うものか、又、土塙の時期的関係等、総体的にまとめることが出来ないので、再度、他の場所をかりて検討したい。

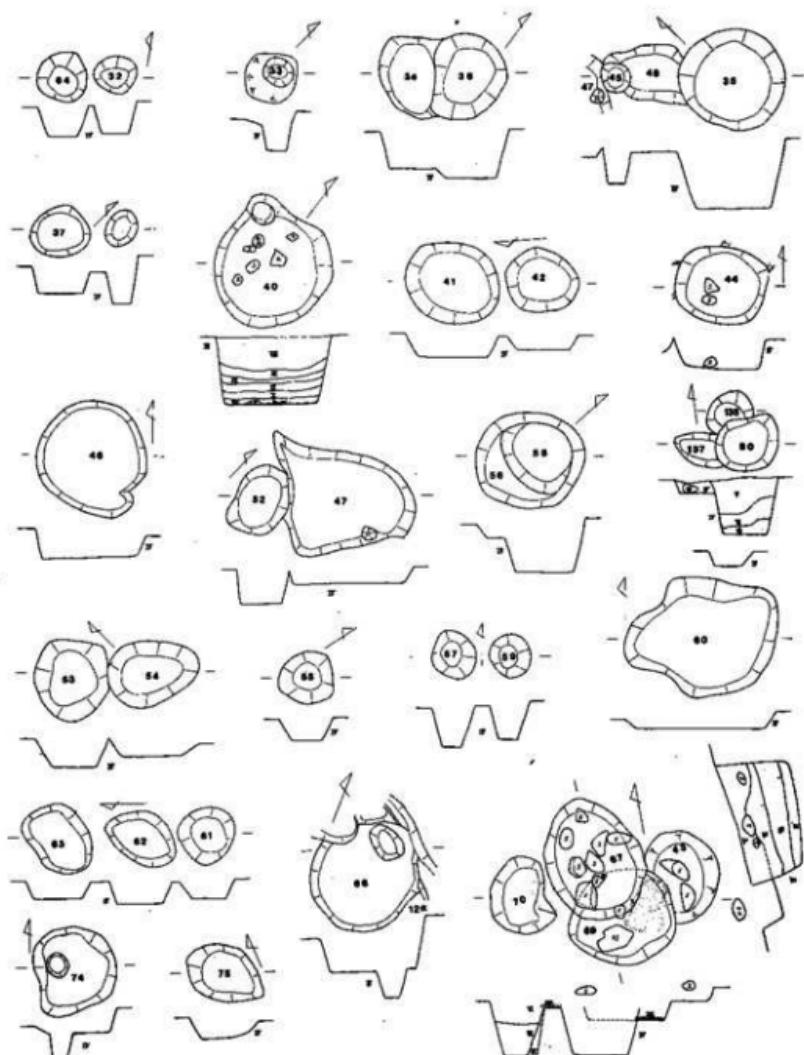
しかし、個別的问题として、次の事が観察できた。

- ⑦土塙が掘られた空間と掘られない空間がある事により、その空間相互に、規則的な意図が感じられること。
- ⑧土塙群が想定され、比較的大きく、又、皿状の断面をもつ土塙を中心に、円形状を呈して群構成がされていること。
- ⑨土塙と土塙の切合が比較的多いこと。
- ⑩平面・床面形では、橢円形・円形、断面形では、スリ鉢形、床面は、平底、壁は、外傾、口径では、61cm～100cm以下のものが多いこと。
- ⑪性格がかなり観察できる土塙—No.77・84・88・96・97・180があり、それらの土塙らは、土器・石器量が多い点、炭化物（木炭等ではなく、種子等の炭化物）が多い点、形状が他の土塙と違いフラスコ状に近く土器等の遺存状態が良好な点が特徴として挙げられる。
- ⑫配石を床面、堆積土中、開口部に伴うもの、石皿を伴うもの、立石を伴うもの貼床されたもの、焼土及び焼石を伴うものが他の多くの土塙の性格とは何らかの規則的意図により相違するものであること。
- ⑬出土遺物について
- ⑭出土土器の中で、結節回転縄文（本土塙では、縦転、円転が見られる）をもつ深鉢形土器の時間的位置付が、中期末葉の曾利Ⅱ～Ⅲ式に比定されそうであること。施文方法は、ヘラ削り・ヘラなで等をした上に、粘土紐で隆帯渦文や懸垂文として貼り付けその間に、1条～3条の結節回転縄文を施し、最後に、竹管かヘラ先で、各隆帯の両ふちを整形することにより、その縄文が磨り消されるという状態を呈している。
- ⑮石器については、打製石斧と並んで、石皿、磨石、敲打器等が多く、石皿は片面が孔石となったもの、磨石と敲打器が両用されたものが見られる。（以上小原晃一）

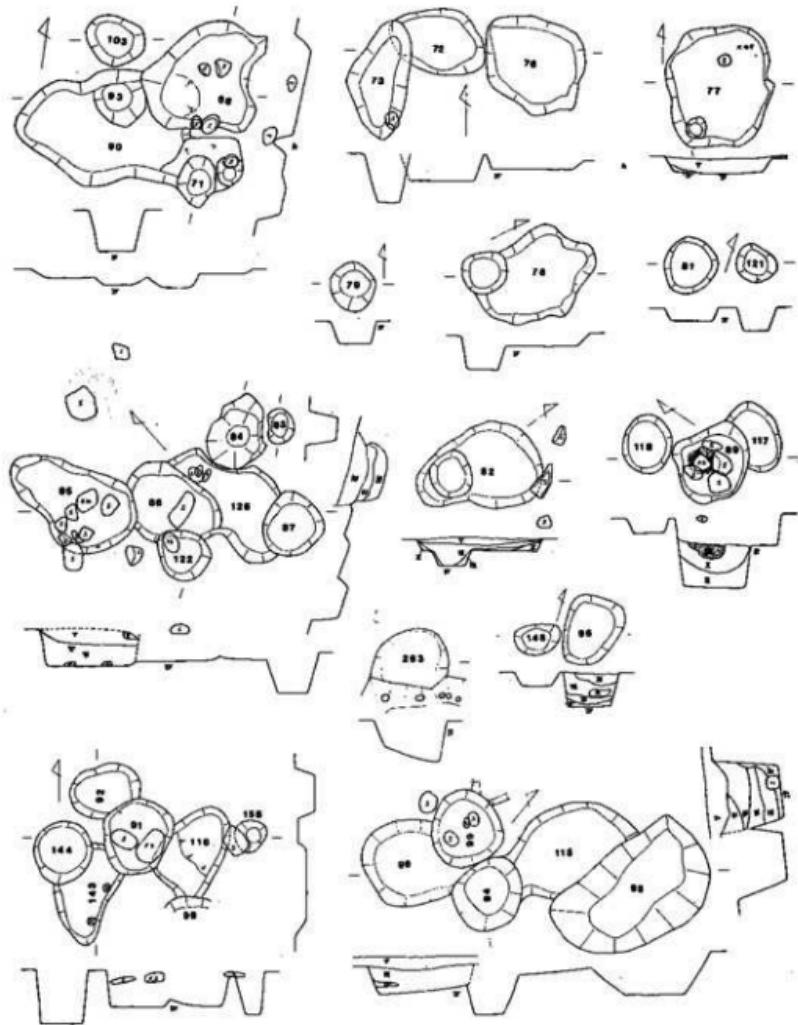


第188図 土塙実測図 (S = 壴)

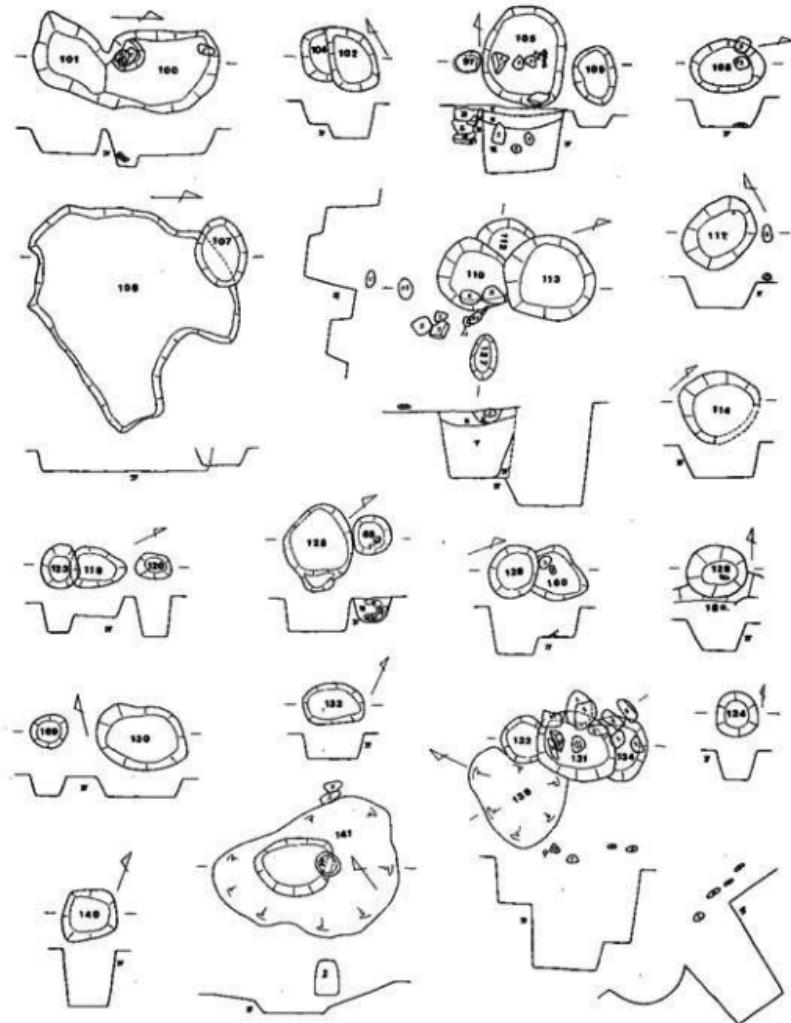
(註) Ⅲ～漸移層, Ⅳ～ローム層, Ⅴ～ロームふるみ土, Ⅵ～暗褐色土(ローム粒・炭化物含), Ⅶ～暗褐色土(ローム粒・ロームブロック含), Ⅷ～黒色土(ローム粒・炭化物含), Ⅸ～暗褐色土(ローム粒・炭化物含), Ⅹ～黒色土, Ⅺ～ロームブロック, Ⅻ～炭化物層, Ⅿ～焼土層



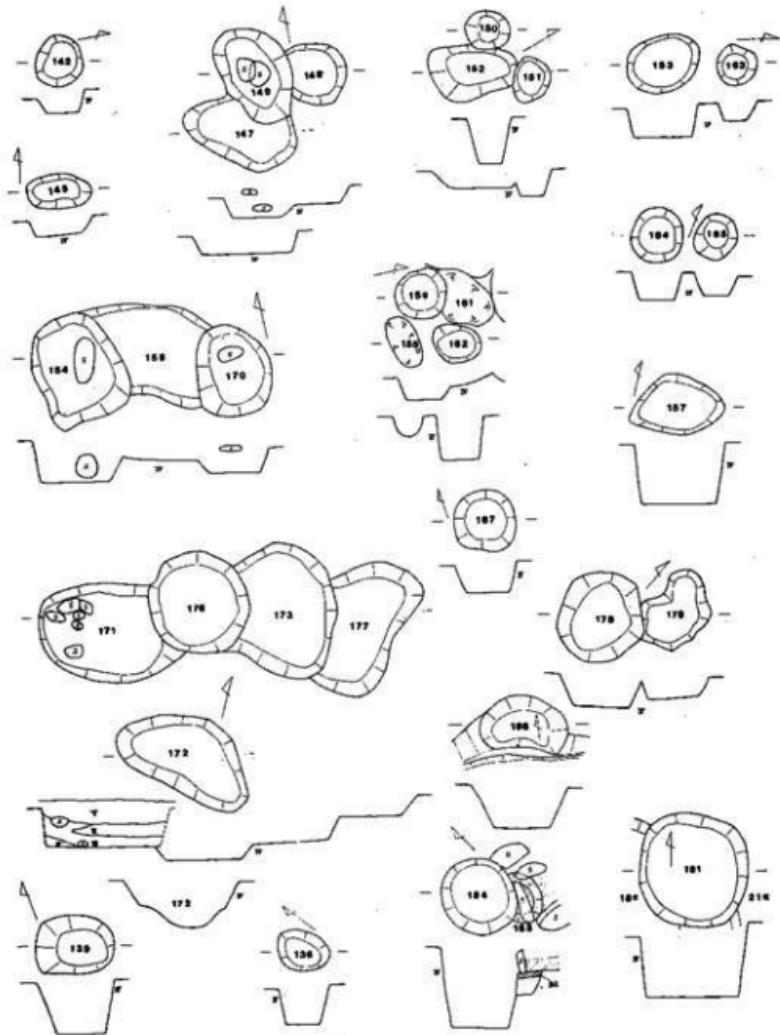
第189図 土塙実測図 (S-1b)



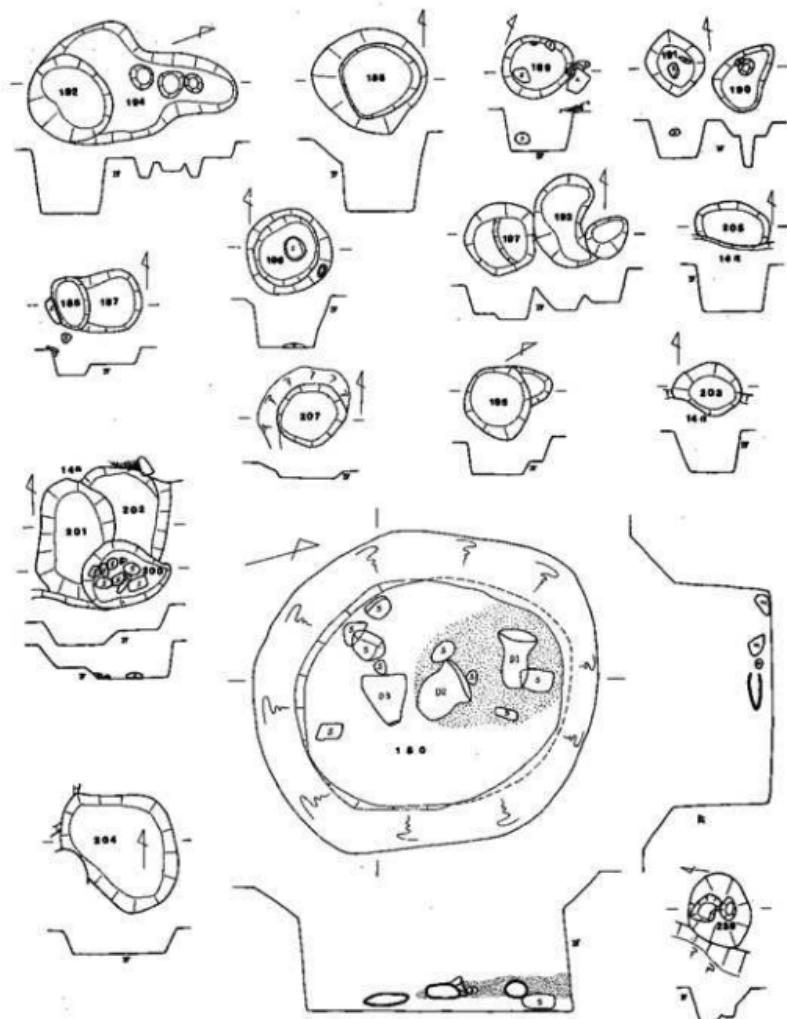
第190図 土塙実測図 (S-面)



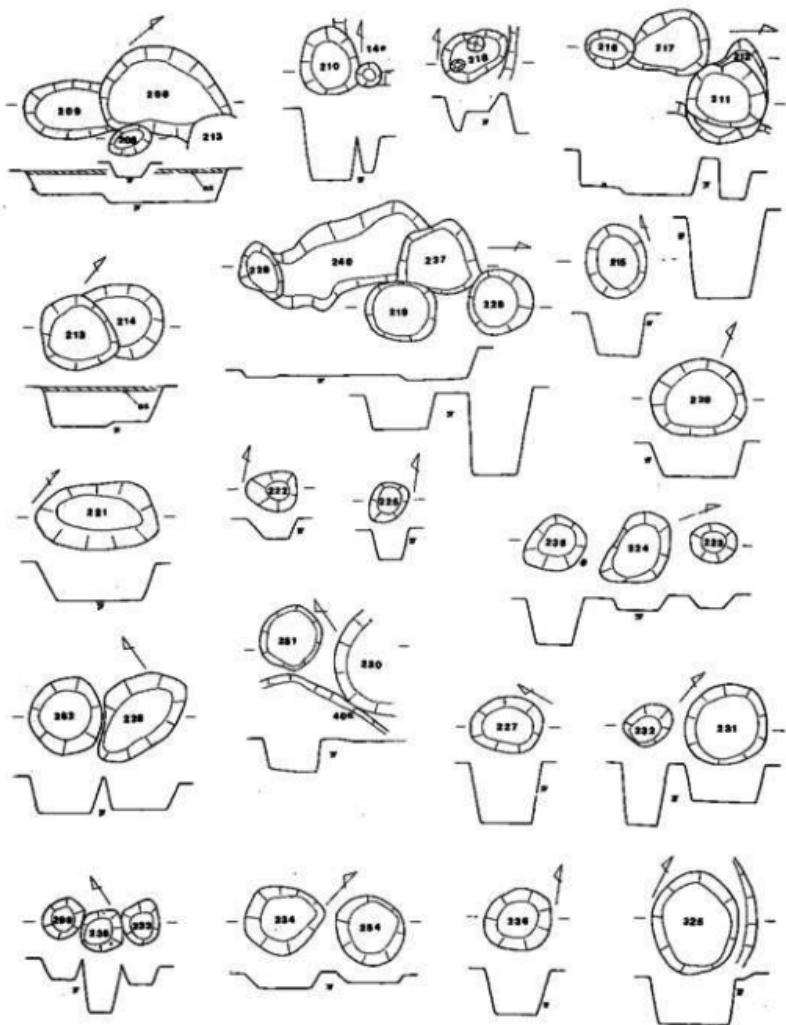
第191図 土壌実測図 (S - 面)



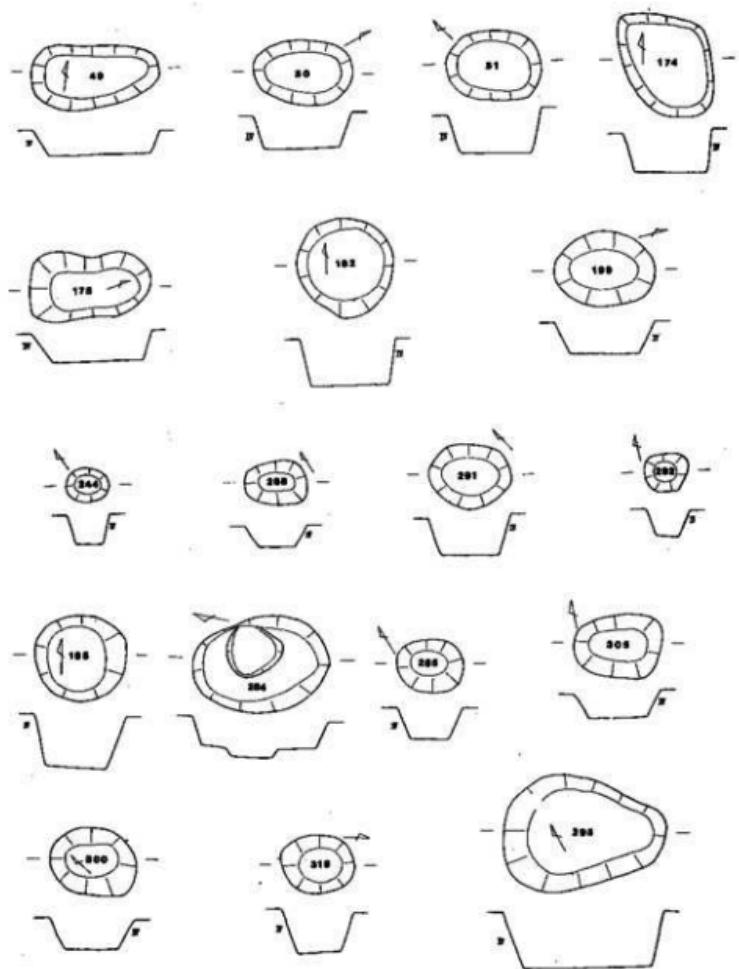
第192図 土壌実測図 (S- ϕ_0)



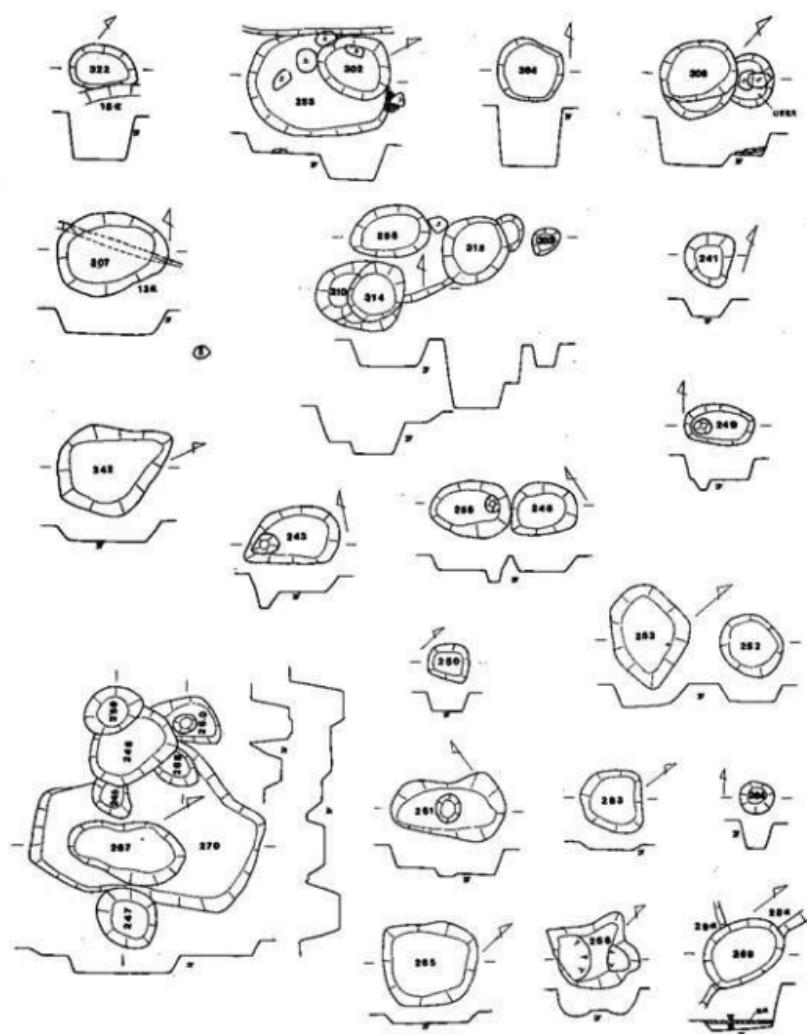
第193図 土壌実測図 (S-16)



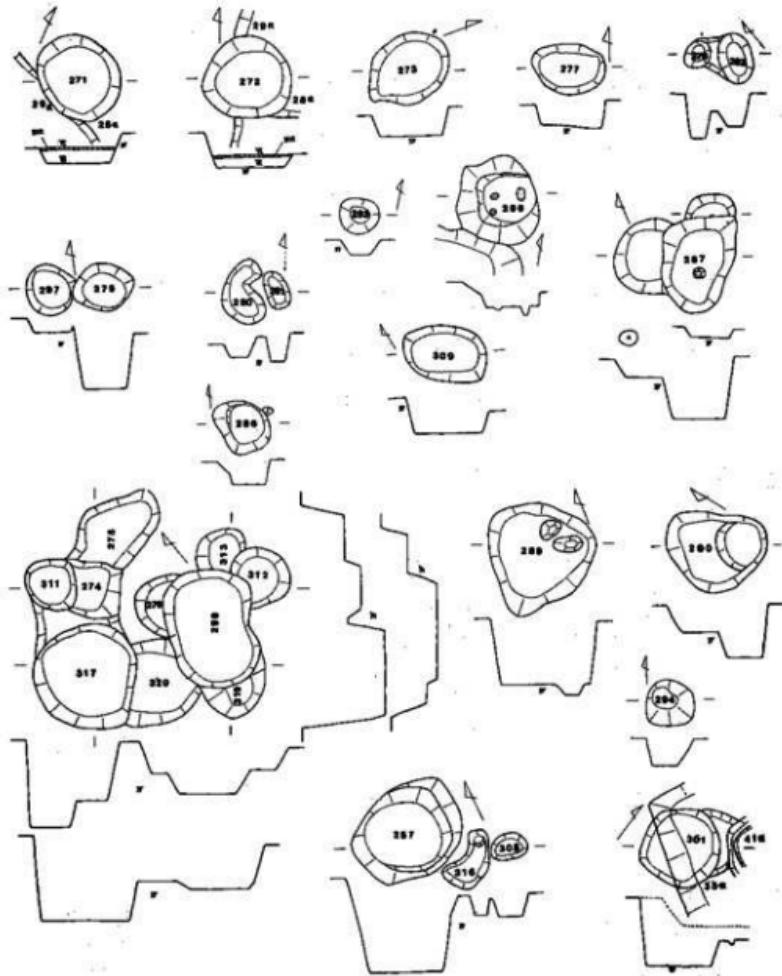
第194図 土壌実測図 (S-系)



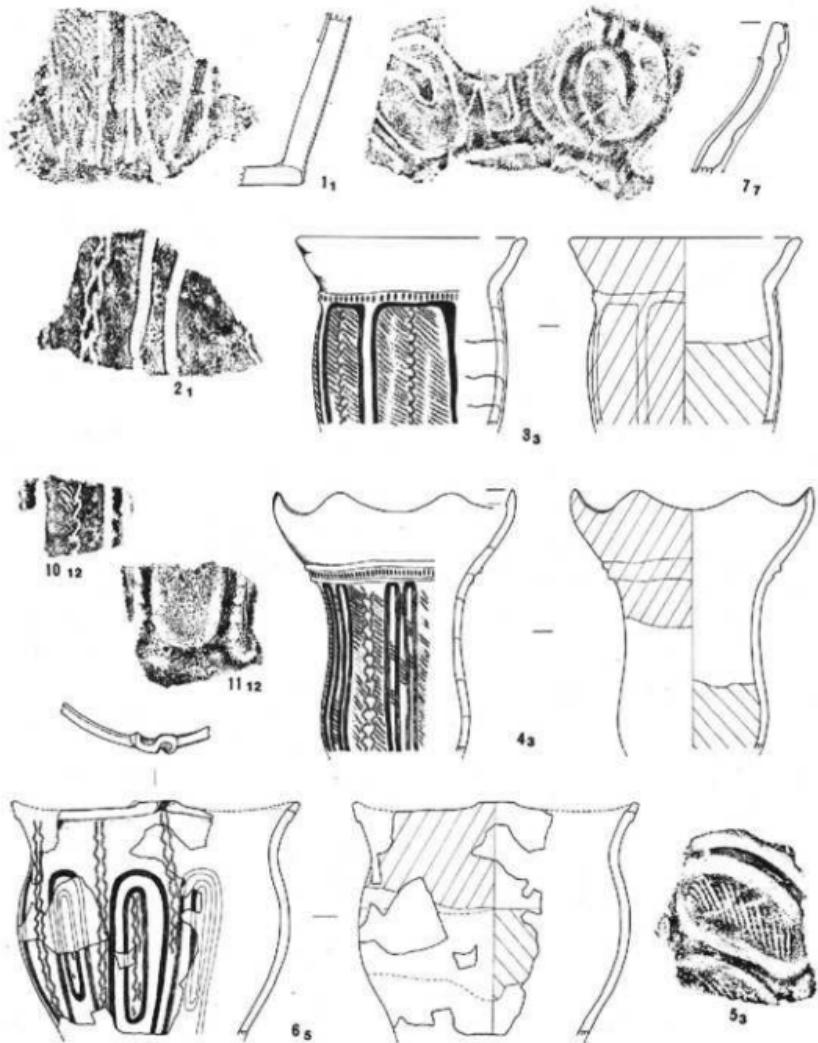
第195図 土壌実測図 (S = 壴)



第196図 土壌実測図 (S-15)



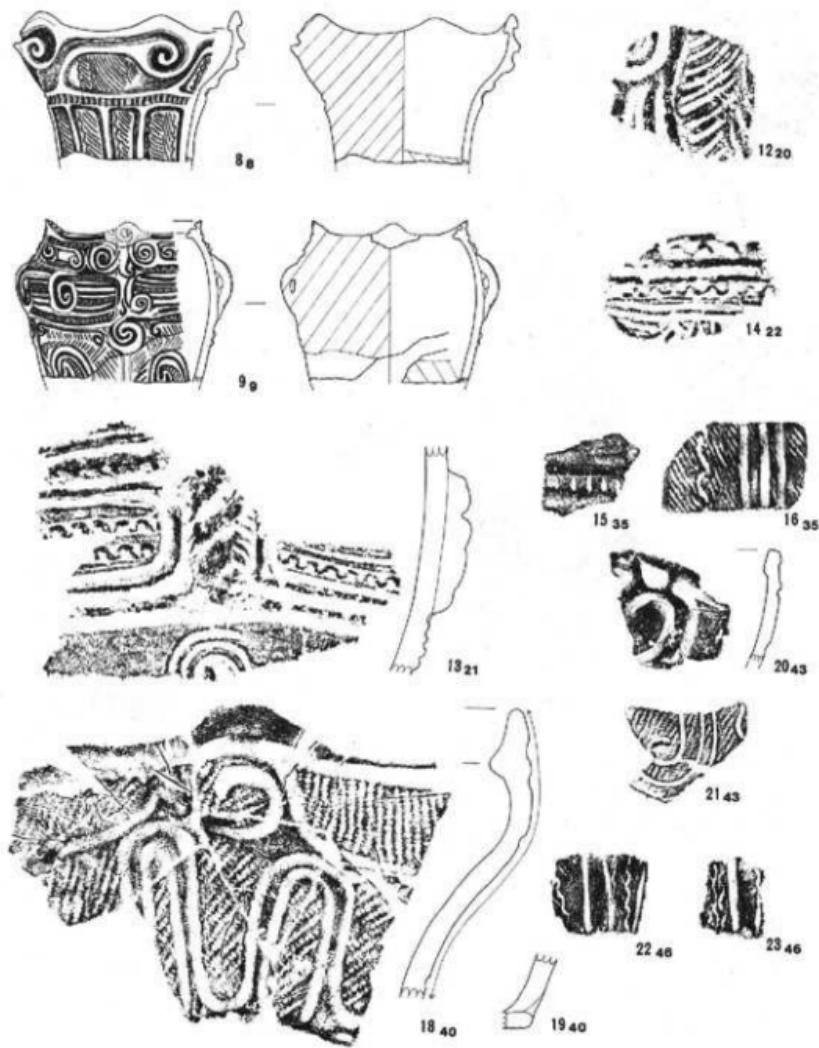
第197図 土壌実測図 (S-40)



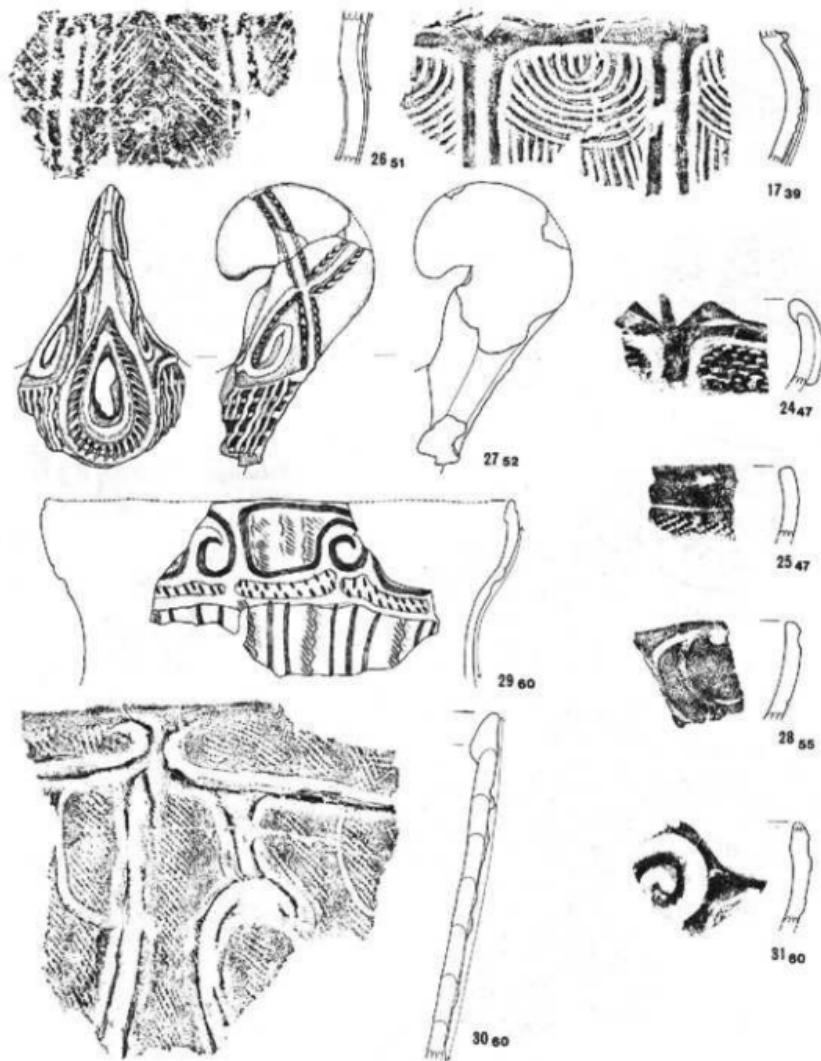
第198図 土埴出土土器 (3, 4, 6はS- $\frac{1}{2}$, その他はS- $\frac{1}{2}$)

(註) 実測図中、土器断面の $\frac{1}{2}$ は、外面はすす、内面はおこげの付着状態を示す。

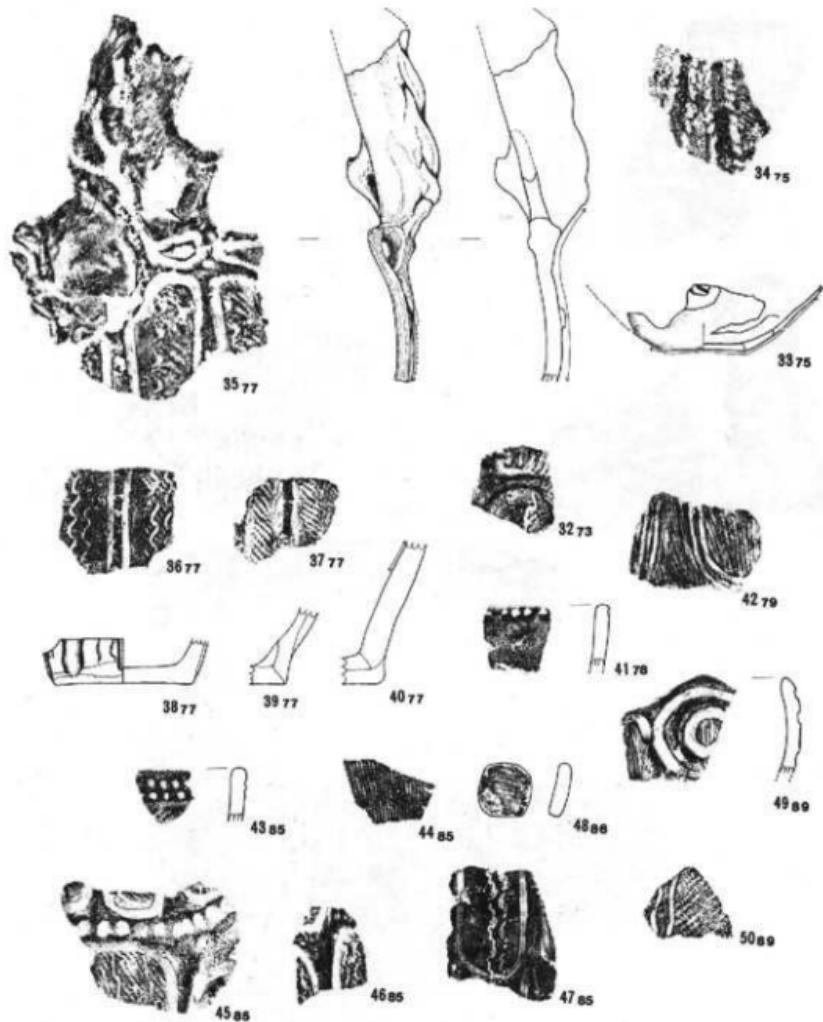
\square は、すす、 \blacksquare はおこげを示し、中央より左が外面、右が内面を意味する



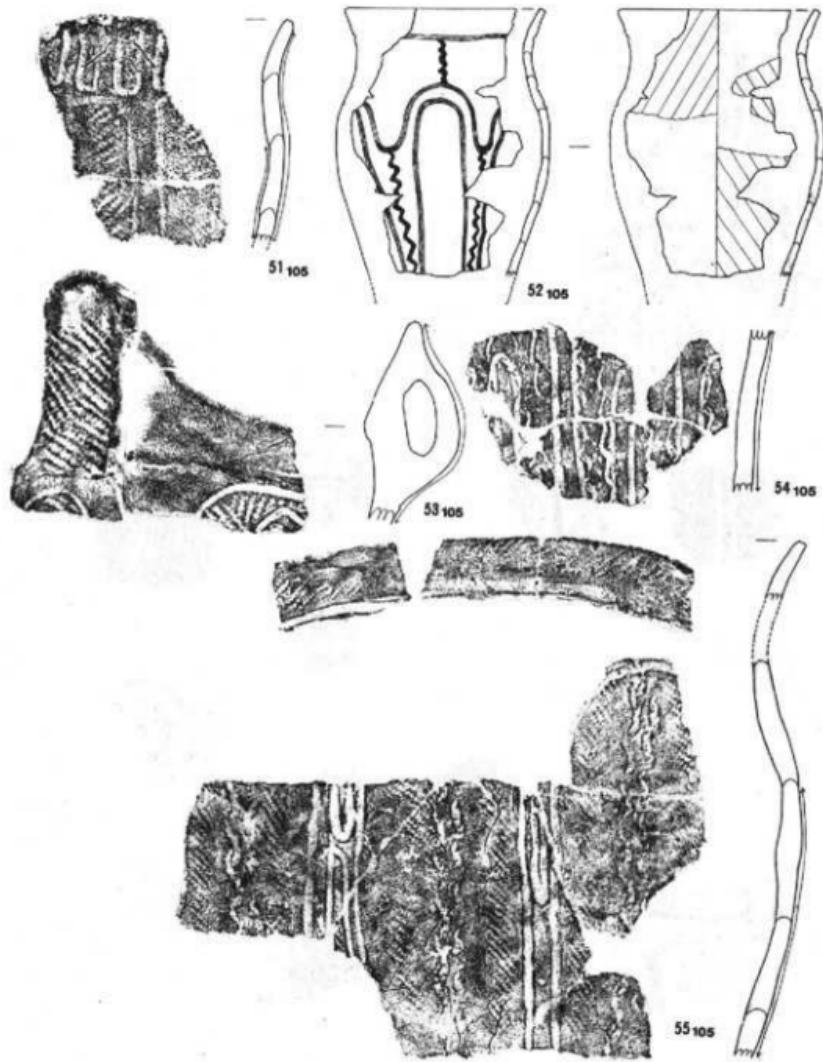
第199図 土塙出土土器 (8・9はS- $\frac{1}{2}$, その他はS- $\frac{1}{2}$)



第200図 土塙出土土器 (29のみS-1号, その他はS-2号)



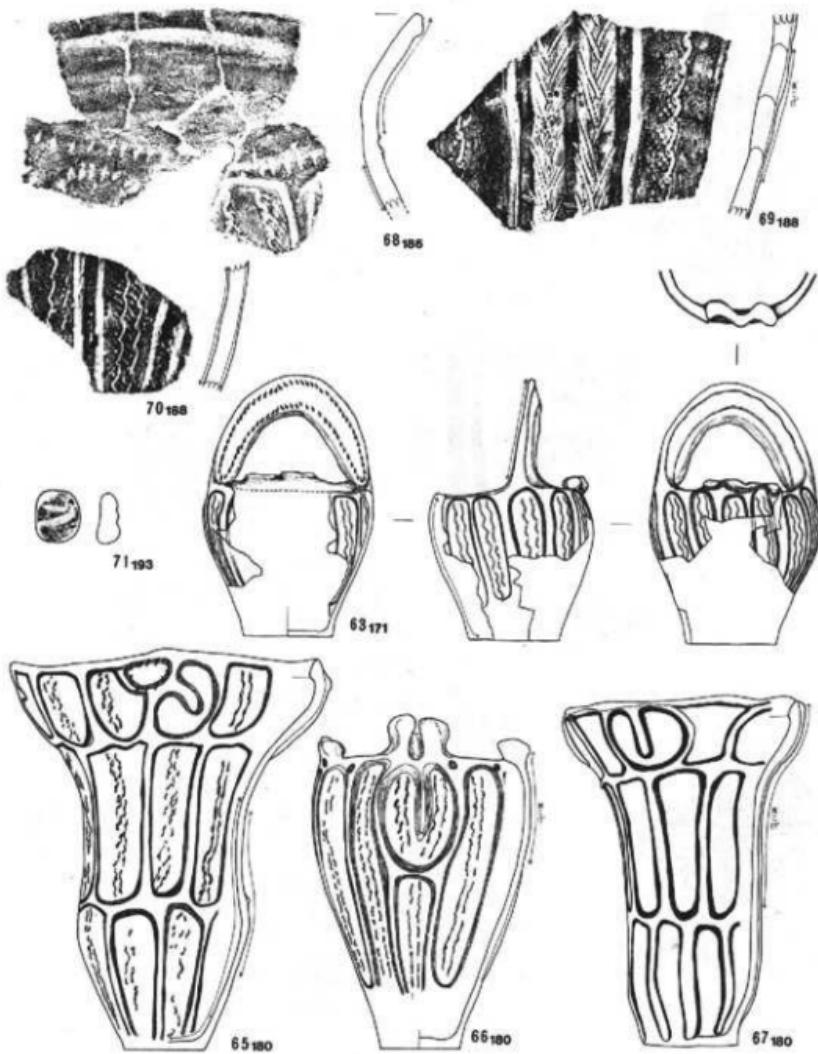
第201図 土塙出土土器 (33のみS-+, その他はS-1)



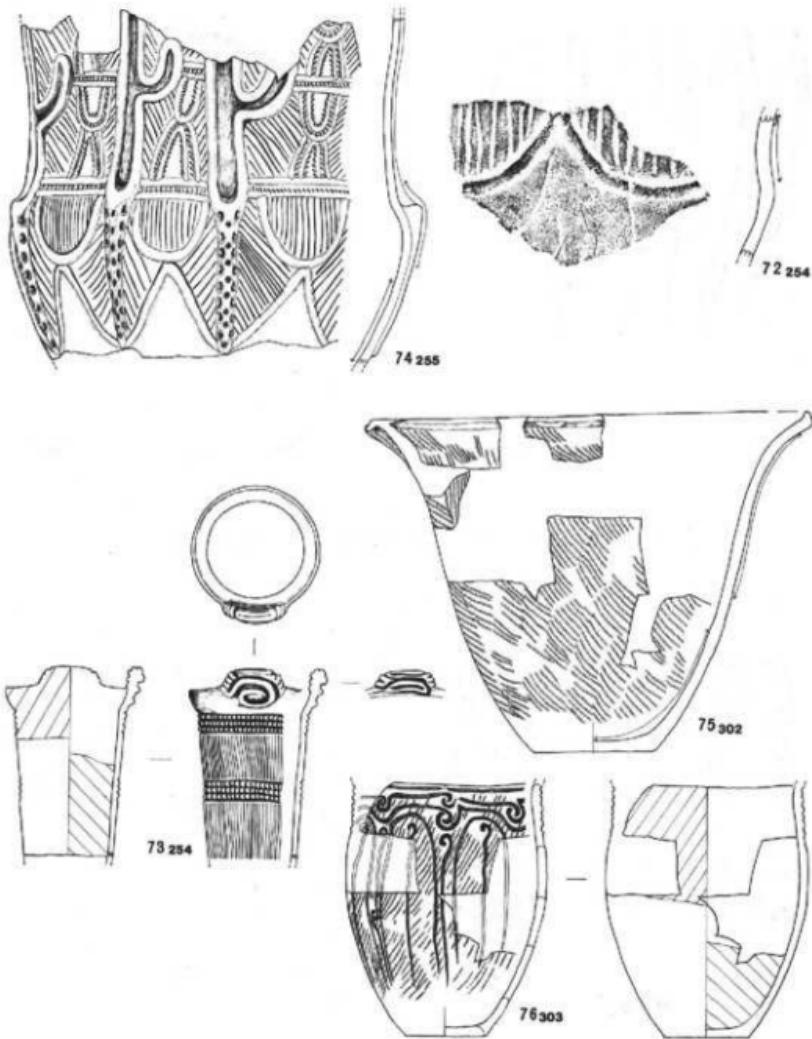
第202図 土塙出土土器 (52のみS- $\frac{1}{2}$, その他はS- $\frac{1}{4}$)



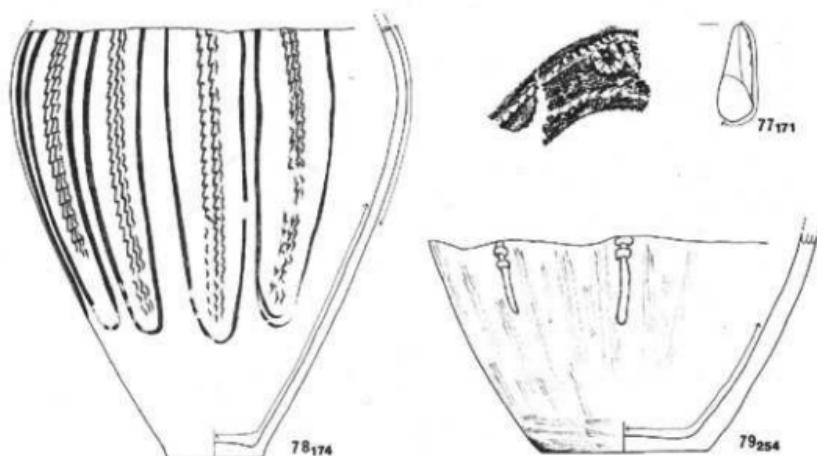
第203図 土塙出土土器 (61・62はS-1号, その他はS-2号)



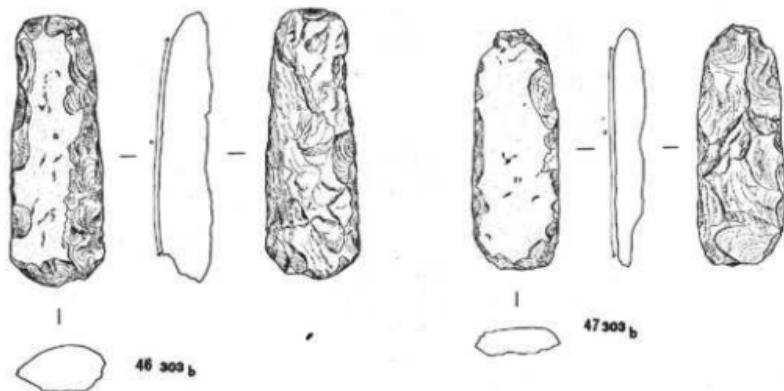
第204図 土塙出土土器 (63・65~67はS- $\frac{1}{2}$, その他はS- $\frac{1}{3}$)



第205図 土塙出土土器 (72のみS- $\frac{1}{2}$, その他はS- $\frac{1}{4}$)

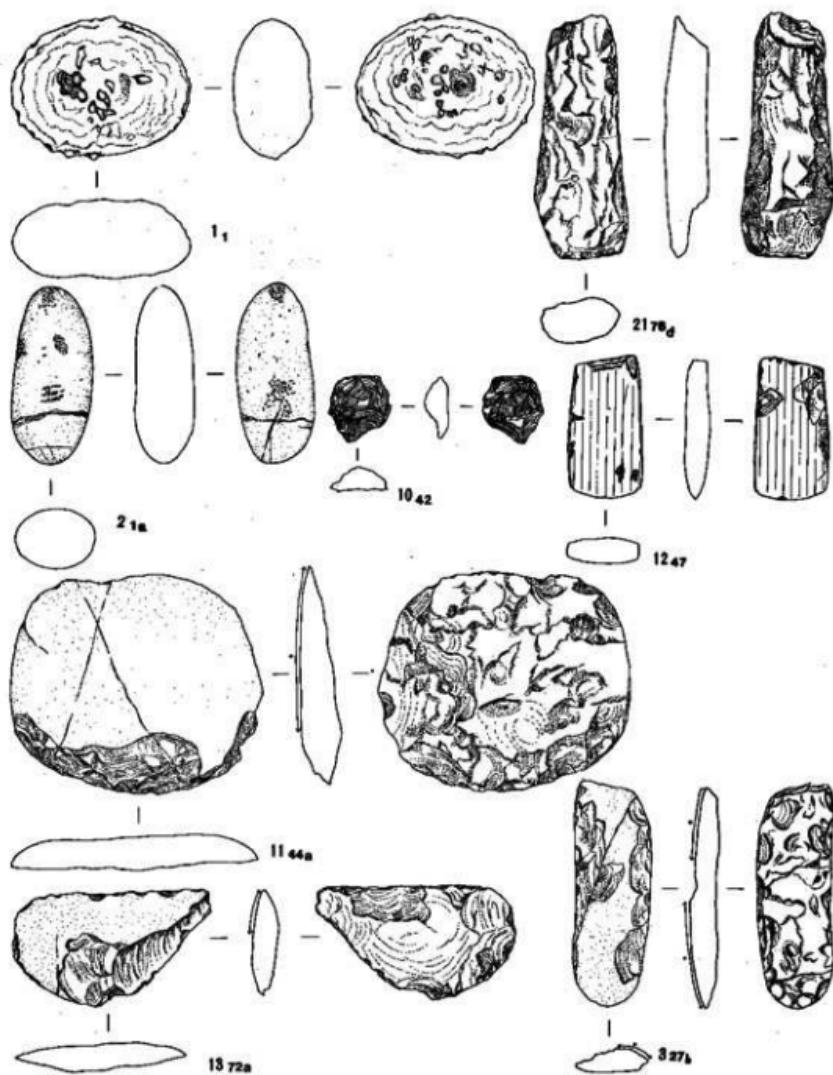


第205図 土塙出土土器 (78のみS-左, その他はS-右)

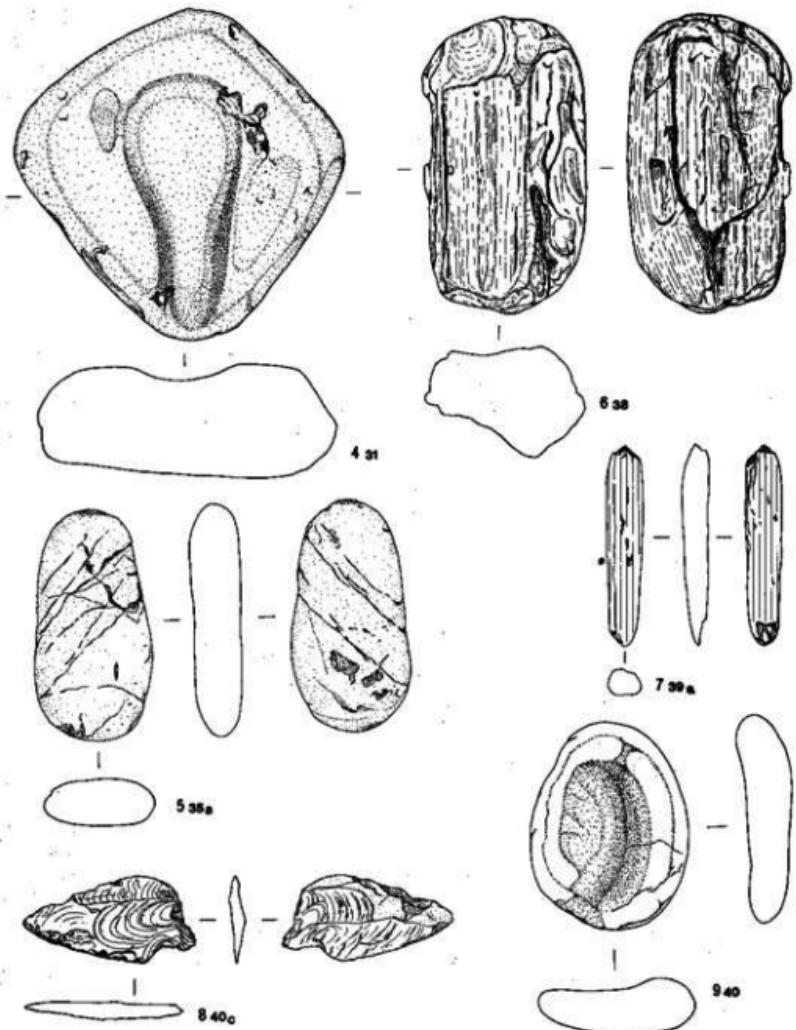


第207図 土塙出土石器 (S-左)

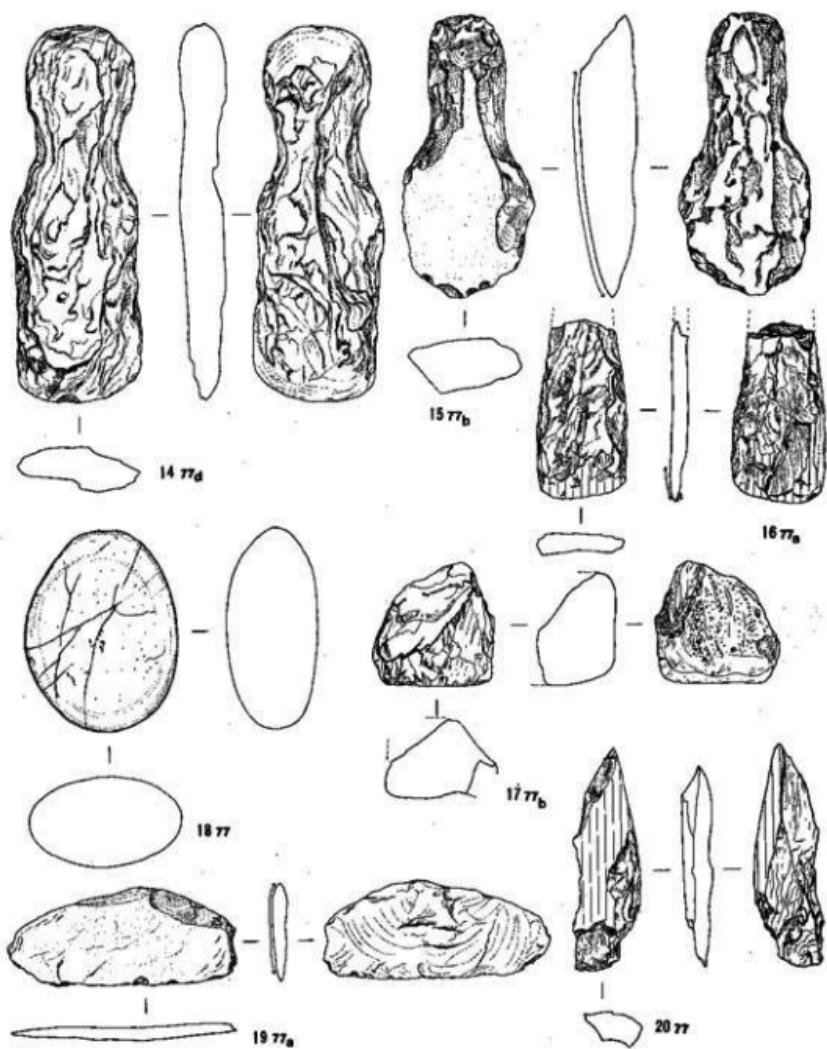
(註) 実測断面図中, --は、自然面を意味する。



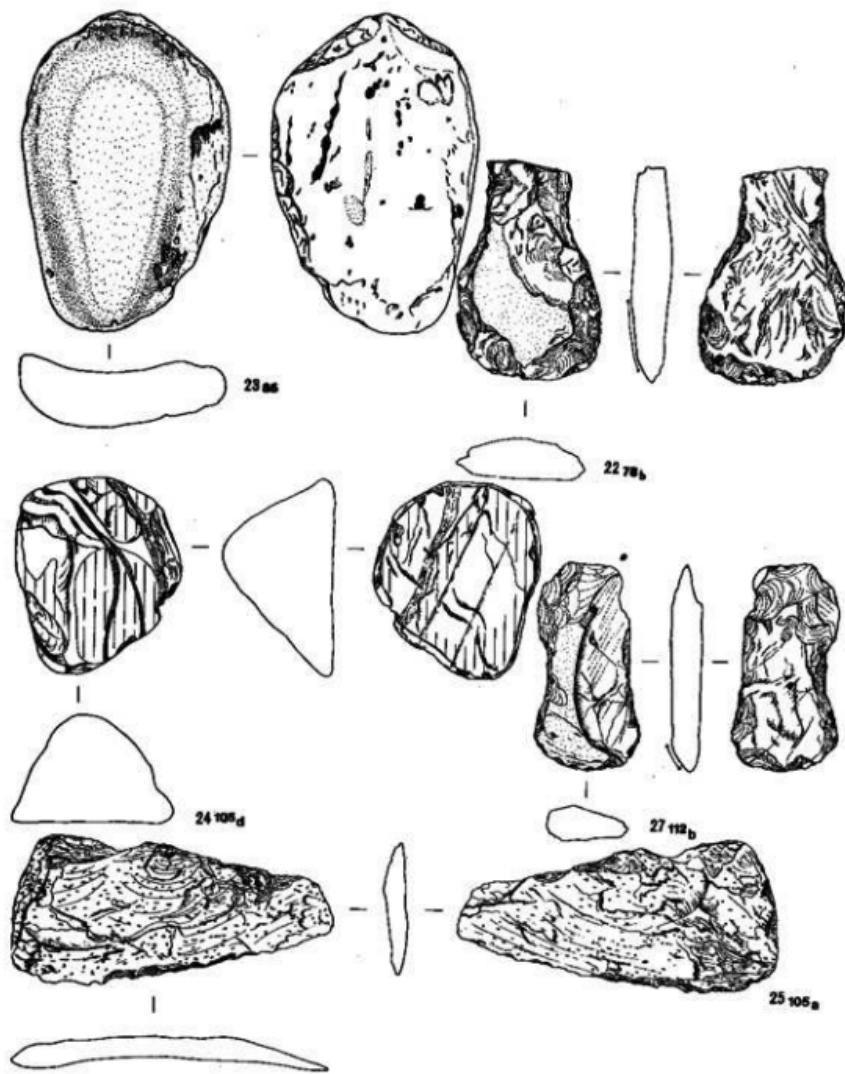
第208図 土塙出土石器 (S - +)



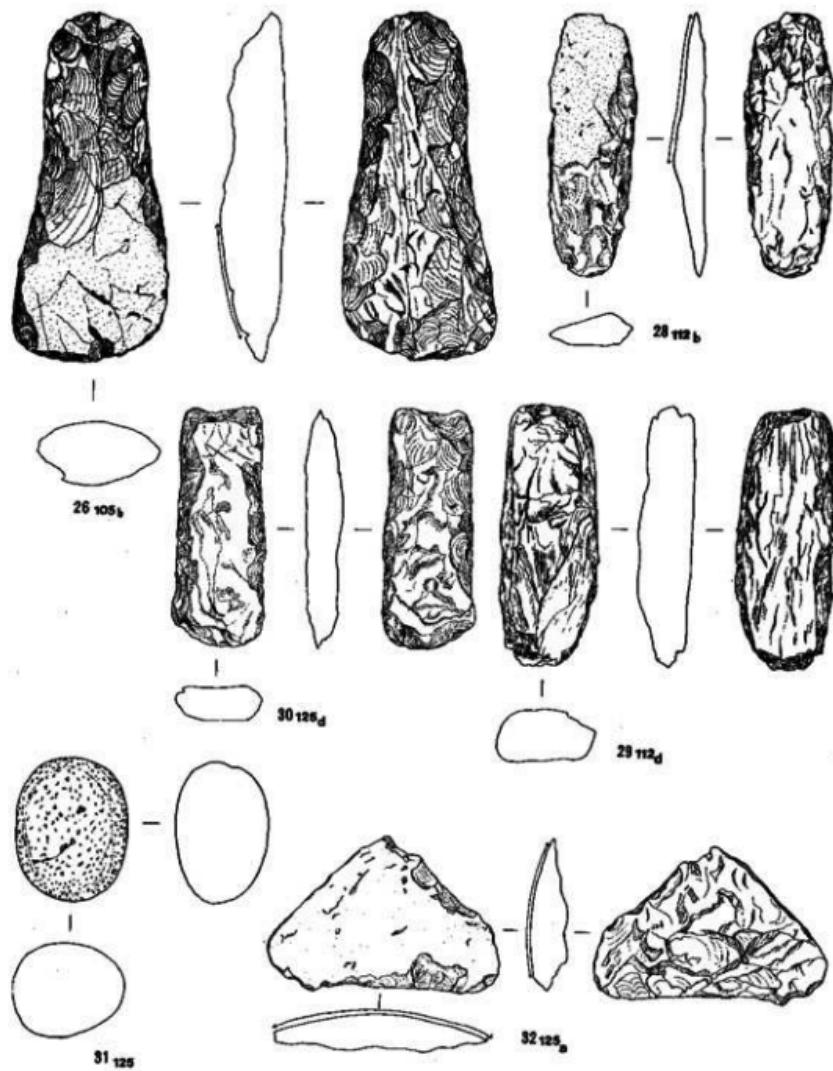
第209図 土坡出土石器 (4・6・9はS- $\frac{1}{2}$, その他はS- $\frac{1}{2}$)



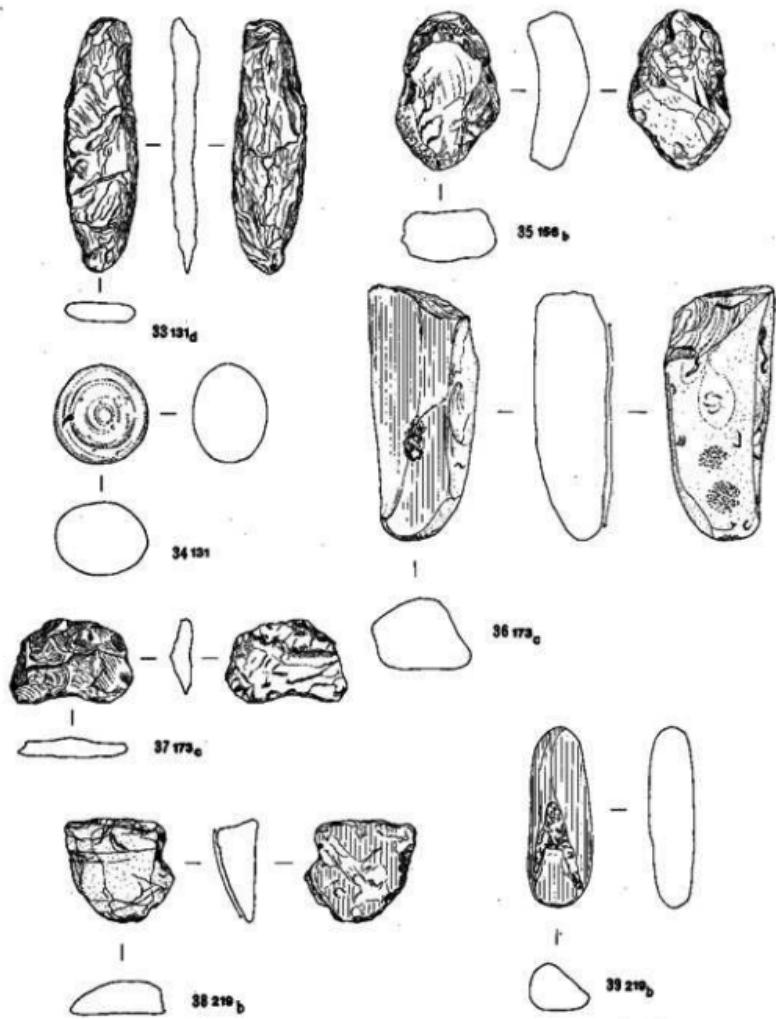
第210図 土塙出土石器 (S - 1)



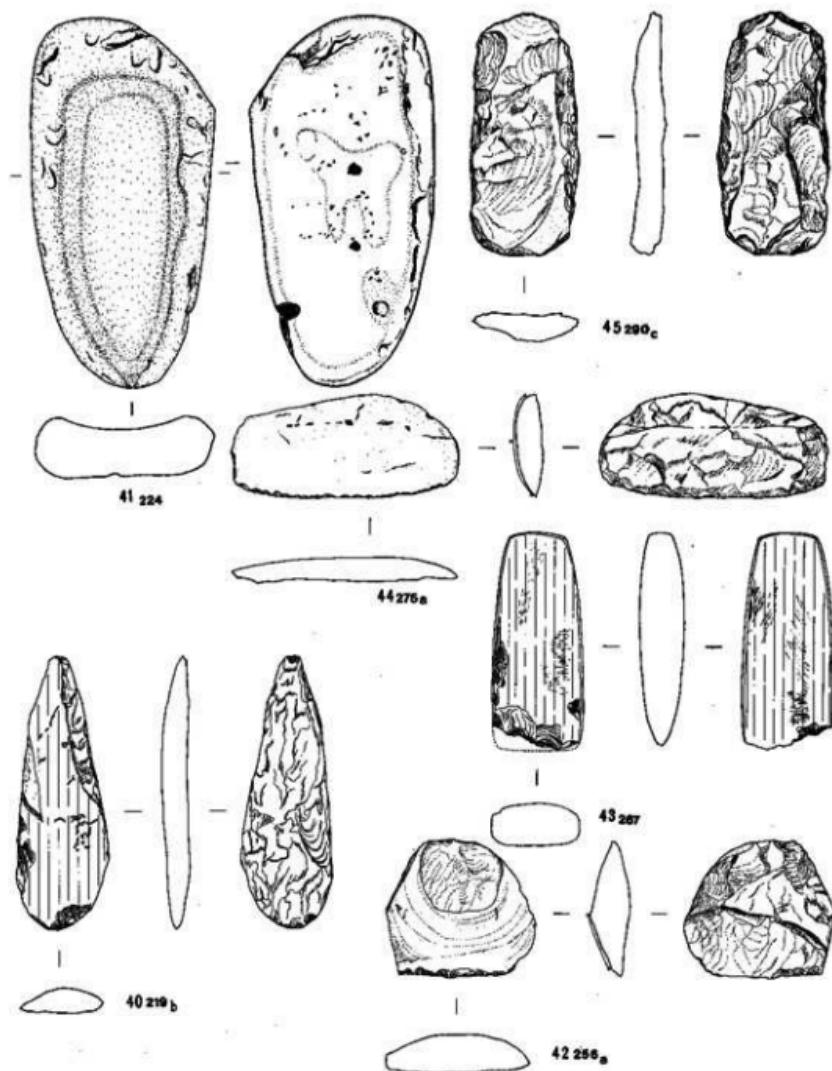
第211図 土塙出土石器 (23のみS-左, その他はS-右)



第212図 土塙出土石器 (S-1)



第213図 土塙出土石器 (S - †)



第214図 土塙出土石器 (41のみS-寸, その他はS-寸)

5 炭化遺体出土の土塙（第215図～218図）

今まで述べてきた土塙のなかで、特殊なものとして、炭化遺体を出土した土塙が4基ある。84, 88, 96, 97がそれである。これらの土塙は多くの土塙群の中に位置するもので、特別かけ離れたといった位置関係はない。4基の土塙は同一時代のものと考えられ、土塙中より縄文中期の土器の細片が出土していることからして、縄文時代中期のものであることは間違いないところであろう。96は精査の結果、栗並びに不明遺体ではなく木炭のみであった。

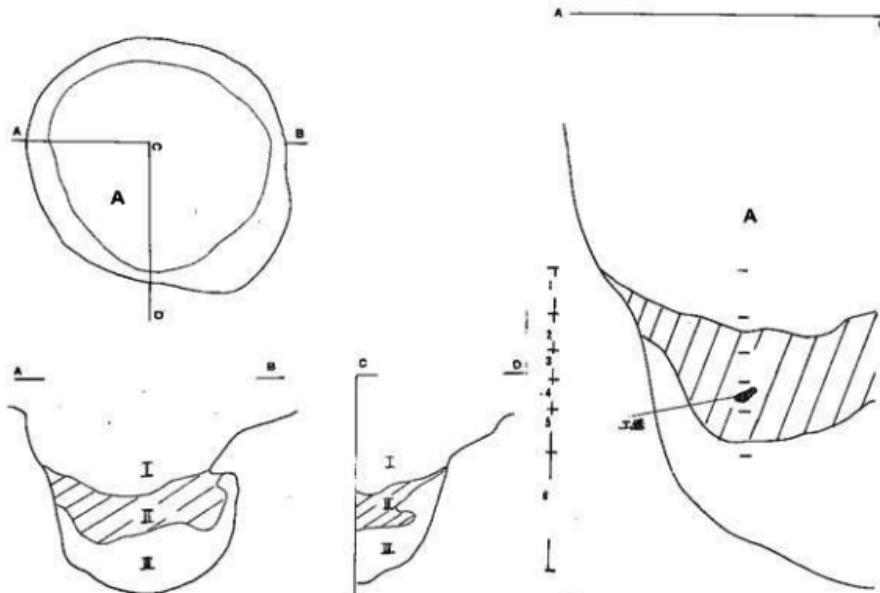
土塙の形状・炭化物の堆積状態は一様でない。

出土した炭化遺体は栗と不明遺体である。不明遺体については木の実説、パン状炭化物説両者あり、今だ明確となっていない。図版24—右上のように楕円形を呈している。同定は今後の作業に待ちたいと思う。

① 土塙84（第215図、図版22）

当土塙は第20住居址の東にあり、土塙86, 126, 83に囲まれた状態である。平面形は95×85で楕円形に近い。底は丸底を呈し最も深い所で65cmを測る。壁は丸味を持ち一部袋状を呈している。

調査方法は土塙を4分割し、その1区（角）—A区のみを分層調査を行った。ボロボロで空



第215図 土塙84実測図 (S - $\frac{1}{20}$, 右断面図S - $\frac{1}{10}$)

気にふれるとすぐ壊れてしまうため、作業は非常に困難をきわめた。

土塙の層序はⅠ層—炭化物わずかに炭化物を含んでいる。Ⅱ層—炭化物層。Ⅲ層—暗褐色土で固くしまっており、炭化物はまったく検出されていない。となっており、第Ⅱ層中に炭化物が集中しており、塊状となっていた。出土した炭化物は表にみるとおり栗と不明遺体・木炭である。表にあらわしたもののは土塙の約4分の1にあたるA区のみのものである。量が多く全体の精査はできなかったが、大体の見当はつくと思われる。

不明遺体一覧表にみるとおり、その重量は非常にバラついていることがわかる。単純に平均値をもって測ることは問題あるが目安として不明遺体総重量を平均値(257mg)でわってみると571個となり、土塙全体では2,300個体ほどのぼう大な個体数となる。

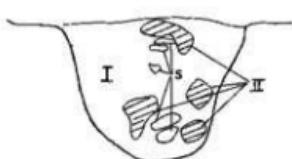
	絶対重量(g)					炭化物重量比 総炭化物 × 100	炭化物中のクリ重量比 クリ 総炭化物 × 100	炭化物中の不明遺体重比 不明遺体 炭化物 × 100	
	栗	不明遺体	木炭	総炭化物	土器片 (内は断片 量)				
1	8.7	8.5	1.1	18.3	422	0	4.2	47.5	46.4
2	29.6	37.0	5.7	72.3	1,356	0	5.1	40.9	51.2
3	60.7	69.4	11.4	141.5	1,060	6.8(1)	11.8	42.9	49.0
4	15.5	28.7	4.1	48.3	792	29.2(1)	5.8	32.1	59.4
5	15.6	3.2	0	3.8	395	0	1.0	15.8	84.2
	115.1	146.8	22.3	284.2	4,025	86.0(2)	7.0	40.5	51.7
6					3,100				

土塙84-A区の推積物比較表（重量1～5層は水洗後乾燥したものである）

① 土塙88（第216図、図版23）

当土塙は土塙84の南西にあり、土塙125と接している。

平面形はほぼ円形で径60cmをはかる。底は丸底でU字状の断面を呈している。土塙内は暗褐色土（Ⅰ層）が充満し、部分的に炭化物（Ⅱ層）が入っている。Ⅰ層中より細片のためはつきりしないが縄文式土器が6片出土している。



炭化物の出土状態が層をなしていないため、炭化物を大きな塊で一括取り上げてある。

表にみるとおり、クリが非常に多い。不明遺体は総量で4.5g、個体数にして17.5個体分である。クリは完形に近い状態のものが多かったがほとんどがくずれてしまっている。

第216図 土塙88断面図 (S-88)

絶 体 重 量 (g)				炭化物中のクリ 重量比 $\frac{\text{クリ}}{\text{総炭化物}} \times 100$	炭化物中の不明遺体の 重量比 $\frac{\text{不明遺体}}{\text{総炭化物}} \times 100$
クリ	不明遺体	木炭	総炭化物		
95.0	4.5	2.3	101.8	93.3	

土塙88出土炭化物比率表（重量は水洗後乾燥したものである）

③ 土塙96

当土塙は第20号住居址の東、土塙88の南西にあり土塙146に接している。上部から多量の炭化物を検出したので、精査を行い、土塙中の炭化物の選別を試みたが、クリ・不明遺体の炭化遺体はまったく検出されなかった。縄文中期の土器片が4片出土している。

④ 土塙97（第217図、図版24）

当土塙は第13号住居址竈の東側にあり、土塙上部には封土がおおっていた。

平面プランは75×50cmの長楕円形を呈し、筒状をなしているが、壁は非常に凹凸が激しい。底はほぼ平らで、深さは92cmを測る。

土塙の層序はI層—炭化物層、II層—ロームブロックIII層—ロームふらん土である。断面図にみるとおり、炭化物層は上部と下部とに大きく分かれその間にはロームブロックが間層として入っている。またロームブロック中に炭化物がブロックとしてはきまっている。ロームブロック中からもわずかであるが炭化物が検出されている。

炭化物中より縄文中期土器片が4点出土している。

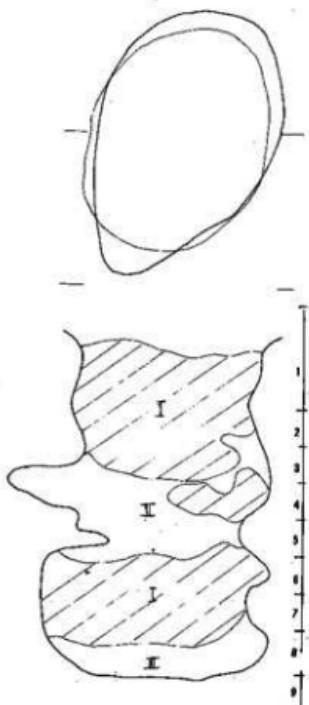
検出された炭化物はクリと木炭のみで、土塙84・88ながら検出された不明遺体はまったく検出されていない。

⑤ 出土炭化遺体と土塙について

土塙96を除いた3基の土塙よりクリ・不明遺体の炭化遺体が検出されているが、堆積状態など一様でない。

また土塙84からはクリと多量の不明遺体が発見されているのに反し、土塙97からは不明遺体の発見はなくクリのみであったことはどういうことであろうか。

はたしてこれらの炭化遺体が貯蔵されていたものであるかははっきりしない。土塙97にみられる間層としての



第217図 土塙97実測図 (S-1)

層位	乾物重量(g)							炭化物中のクリ重量比	
	*クリ	*木炭	*総炭化物重	*土	石	土器片 (内は個数)	$\left(\frac{\text{クリ+木炭}}{\text{土+クリ+木炭}} \times 100 \right) \%$	$\left(\frac{\text{クリ}}{\text{クリ+木炭}} \times 100 \right) \%$	
1	148.7	4.6	153.3	2153.0	42.0(1)	2.0(1)	7.0	97.0	
2	26.3	9.9	36.2	878.1	0	0	4.0	72.7	
3	10.2	0.4	10.6	1410.5	0	0	0.8	96.2	
4	16.1	0.6	16.7	1613.9	10.0(3)	0	1.0	96.2	
5	24.3	6.8	31.1	1235.5	0	2.0(1)	2.5	78.1	
6	47.4	5.6	53.0	1037.5	0	0	4.9	89.4	
7	8.0	0.2	8.1	1288.4	0	6.0(2)	0.6	98.0	
8	3.1	0.1	3.2	861.2	0	0	0.4	97.5	
9	0.5	0.0	0.5	698.4	0	0	0.1	100.0	
合計	284.6	28.2	312.7	11176.5	52.0	10.0	2.8	91.0	
ローム中	18.2	1.5	20.7	—	—	—	—	92.8	

土塙97堆積物比軟表（※絶乾重量に換算した値である）

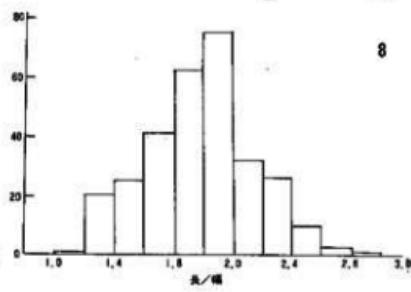
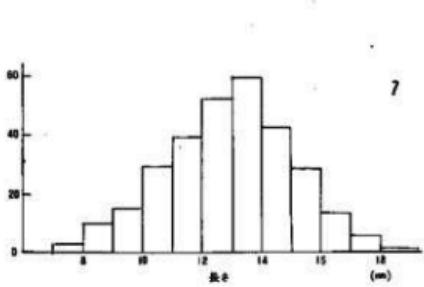
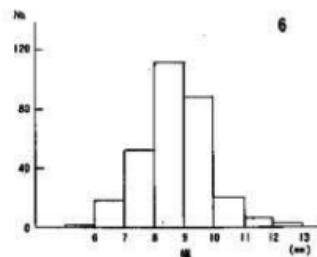
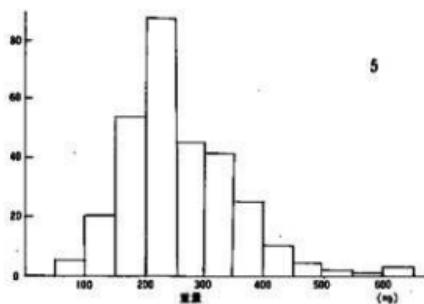
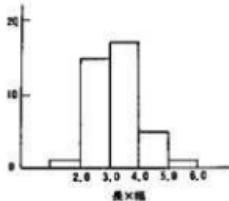
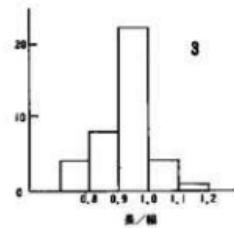
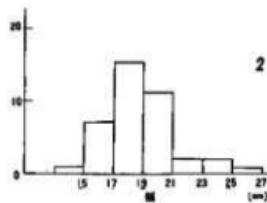
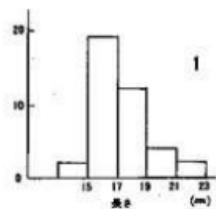
ロームブロックが上部のおおいとも考えられないこともないが、岡山県南方前池遺跡例、山口県岩田遺跡例、佐賀県坂の下遺跡例^{※1}からすると非常に簡単な気がする。しかし出土が住居址でなく、土塙しかもある程度まとまって出土していることからすると偶然でなくある目的をもっていたことは間違いない。

つぎにクリなし不明遺体が、土塙の中においてどのような状態のとき炭化するのであろうか。焼けるという現象が起きないと炭化することは考えられないのではなかろうか。今回検出された土塙において焼土・焼石はなく焼かれた形跡はまったくない。このような状態で炭化遺体が発見されたことに非常に凝問を持っている。仮に焼かなくても炭化現象が起きるすればまた別問題であるが、後述するが、皮をはいでゆでて乾燥状態で貯蔵した場合に起きるかということも一つの考え方である。この両者が否定されるとすれば、炭化したものをある目的によって埋めたとしか考えられないわけである。

クリのみについてみれば、皮がむかれしづ皮のついた状態で土塙から発見された例としては長野県有明山社大門北遺跡例^{※2}が知られている。今後の研究に待ちたい。

つぎに炭化遺体について述べることとする。

クリであるが、すべて先に述べたように皮はむかれしづ皮のついた状態で真黒である。これは有明山社大門北遺跡例をまったく同じ状態である。江坂輝弘氏^{※3}は「日本の山野に自生する柴栗を茹でて渋皮まで剥いて陰干しにして乾燥したものを、籠にでも入れて天井裏に保存したもののが、火災で屋根が焼け落ちた…………火災で焼け炭化したため今日まで残存したものであろう」と述べられている。渋皮はあるにせよ同様な保存加工が行われたものと考えられる。



第218図 クリ・不明遺体の個体変異図（1～4はクリ、5～8は不明遺体）

炭化遺体という性質上、生のものとの比較はできない訳であるが、第217図-1~4をみると、ほぼ一定したものであることがわかる。5~8に比べて変異差の少ないことがわかり不明遺体の同定、性格をみる上での基準になるのではないかと思われる。土塙出土のすべてではないが、クリの完形遺体39個体によるものである。

不明遺体であるが、同定作業は行っているが今だ結論を得ていない。今後早急に作業を進めたいと考えているので、改めて報告したい。

※6

不明遺体については、木ノ実説とパン状炭化物に類似したものという説のあることを併記しておきたい。

第218図-5~8にみるとおり、クリに比べて個体変異差が大きいことが知られる。重量であるが、土塙全部からのものではないが296個の完形遺体の平均値が257mgとなっている。しかしながら軽いものは100mg以下、重いものでは600mgを超えるものと非常にばらついている。長さは10~15mmに集中するがやはりかなりの変化がみられる。幅は7~10mmに集中する傾向がみられ、長さほどのばらつきはみられない。とりわけ重量にかなりのばらつきがみられ、また長さ、幅にも安定性のないことから考えるとパン状炭化物のたぐいとする説が大きいような気もしている。重量に関しては比重の問題もありこれを裏付けるものではないだろうか。

いずれにしろ、多量に発見された不明遺体の同定作業をいそぎたい。 (氣賀沢進)

*1 ① 吉田格「縄文時代の生活社会—2 日常学生活用具」—日本の考古学Ⅱ 縄文時代所収—
昭和40年 河出書房新社

② 渡辺誠「縄文時代の植物植物食—考古学選書13」—昭50年 雄山閣

③ 江坂輝弥「縄文の栽培植物と利用植物」—どるめんNo.13所収—昭和52年 JICC (ジック)
出版局

*2 *1-②に同じ

*3 *1-②・③に同じ

*4 中島豊明「第2節自然遺物」—「有明山社—長野県北安曇郡松川村有明山社大門北遺跡
—緊急発掘調査報告—長野県考古学会研究報告書9」所収—昭和45年 長野県考古学会

*5 *1-③に同じ

*6 炭化物の精査を依頼した小林喜美江氏が平安博物館の渡辺誠氏にサンプルの一部を送付したところ「はっきり断定できないが…………」とのことであった。

原垣外遺跡出土石器一覧表 (単位cm. g. ()は現在値)

出土地	発掘番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
14号住	13-1	床面	打製石斧	逆側形	d	完形	硬砂岩	13.8	6.3	4.5	3.0	250
	13-2	*	*	撥形	*	*	*	9.8	1.5	4.5	1.3	55
	13-3	*	磨製石斧	定角	-	刃部欠	綠泥片岩	(2.7)	2.0	1.3	(10)	
15号住	16-1	覆土	打製石斧	逆側形	b	完形	硬砂岩	12.5	5	2.5	2.3	170
	16-2	*	*	分鋼形	d	*	綠泥片岩	9.8	3	3.5	1.1	62
	16-3	*	*	短背形	*	*	硬砂岩	10.6	3.5	4.5	1.8	125
	16-4	*	*	*	*	*	*	11.8	3.5	5.1	1.6	115
	16-5	*	大形磨製石斧	横形	*	*	*	10	8	2.3	70	
	16-6	*	敲打器	a	*	頭部欠	*	(10.1)	6.7	3.9	(317)	
	16-7	*	*	*	*	完形	*	11.4	6.1	6.3	600	
	17-8	*	横刃石器	c	*	*	*	11.9	4.8	1.3	95	
	17-9	*	*	*	a	*	*	7.2	6.3	1.3	60	
	17-10	床面	磨き石	c	*	半折形	*	(9.1)	8.9	3.1	(450)	
	17-11	*	大形磨製石斧	b	*	完形	*	9.0	4.5	3.1	60	
	17-12	*	横刃石器	c	*	*	*	8.6	4.5	1.1	65	
	17-13	*	磨石	*	*	*	砂岩	9.4	6.3	3.7	280	
	18-14	*	搔器	*	*	*	黑蝶石	2.3	2.7	0.2	3	
	18-15	*	*	*	*	*	*	2.0	2.0	0.4	2	
	18-16	*	*	*	*	*	*	2.6	1.2	0.5	2	
	18-17	*	*	*	*	*	*	3.2	1.4	0.4	2	
16号住	21-1	*	*	*	b	刃部欠	綠泥片岩	(12.1)	5.8	2.3	(235)	
	21-2	*	*	*	d	頭部欠	硬砂岩	(11.3)	5.3	2.3	(180)	
	21-3	*	凹石	片面のみ	*	刃部欠	*	(8.3)	4.1	1.2	55	
	*	*	*	*	*	頭部欠	*	(9.5)	6.7	1.8	(170)	
	*	*	*	*	b	頭部欠	*	(6.5)	4.8	1.0	(40)	
	*	*	*	*	d	頭部欠	*	*	*	*		
17号住	23-1	*	敲打器	a	*	*	硬砂岩	12.3	6.3	5.4	600	
	23-2	*	横刃石器	*	*	*	*	6.9	5.6	1.2	55	
	23-3	*	*	d	*	*	*	9.4	7.3	1.3	125	
	23-4	*	石核	a	*	*	*	10.9	5.4	5.4	440	
	23-5	床面	打製石斧	c	*	完形	*	11.8	4.0	5.1	1.6	110
	23-6	*	磨製石斧	*	*	刃一部欠	綠泥片岩	7.4	2.5	3.7	1.4	75
	23-7	*	横刃石器	a	*	*	*	6.5	7.1	1.2	80	
	*	*	打製石斧	d	*	頭のみ	硬砂岩	(7.2)	4.3	1.5	(80)	
	*	*	*	*	*	刃部欠	*	(7.4)	6.5	2.4	(55)	
	*	*	*	b	*	*	砂岩	(10.7)	3.6	1.1	(60)	
18号住	*	*	石核	c	*	頭部欠	硬砂岩	6.9	5.2	2.9	225	
	*	床面	打製石斧	b	*	*	*	(7.6)	4.1	1.5	(75)	
	*	*	剝片	*	*	*	*	*	*	*		
	26-1	*	打製石斧	b	*	頭一部欠	*	10.0	3.5	4.2	1.5	80
	26-2	*	*	d	*	刃部欠	綠泥片岩	(10.3)	3.9	1.3	(80)	
	26-3	*	敲打器	c	*	頭部欠	凝灰岩	(7.9)	3.1	2.0	(95)	
	26-4	*	横刃石器	a	*	*	硬砂岩	7.9	4.9	1.8	80	
21号住	*	*	打製石斧	d	*	刃部欠	*	(7.1)	3.1	1.4	(50)	
	*	*	*	*	*	*	*	(7.7)	3.1	1.5	(50)	
	*	*	*	*	*	頭部欠	*	(7.9)	4.9	2.1	(80)	
	*	*	*	*	*	*	*	(5.5)	5.0	1.2	(65)	
	*	*	剝片 3点 (a-2, b-1)	*	*	*	*	*	*	*		
	28-1	床面	打製石斧	d	*	頭部欠	*	(7.7)	6.3	2.1	[150]	
	28-2	*	*	*	*	*	*	(10.7)	3.9	1.4	(80)	
22号住	31-1	*	大形磨製石器	d	*	*	刃部欠	(10.7)	4.9	2.0	(140)	
	31-2	*	横刃石器	a	*	*	砂岩	10.7	3.4	3.3	170	
	*	*	剝片 (a-1)	*	*	*	*	10.2	6.9	1.3	120	

出 土 地	韓國番号	出土層位	種 類	形 態	形 式	残存状態	石 質	長さ	幅	厚さ	重量
23号住	34-1	覆土	打製石斧	塊 形	c	*頭部欠	硬砂岩	(10.0)	5.8	1.4	(100)
+	34-2	*	横刃石器	*	a	*	*	9.0	5.8	1.8	110
+	34-3	*	*	*	c	*	綠泥片岩	6.7	4.6	0.7	30
+	34-4	*	*	*	b	*	硬砂岩	12.6	6.8	1.5	170
+	34-5	床面	打製石斧	短骨形	d	完 形	*	18.2	5.5	7.3	2.0
+	34-6	*	*	*	c	刃部欠	(15.9)	4.5	1.9	(260)	
+	34-7	*	*	*	d	完 形	*	12.4	3.0	4.7	1.9
+	34-8	*	*	*	*	*	*	11.5	3.7	4.2	140
+	34-9	(pt. 内)	石 盆	*	*	*	花崗岩	*	*	*	*
+	34-10	覆土	打製石斧	短骨形	c	破 片	*	*	2.2	(110)	
+	*	*	*	*	d	刃部欠	*	*	4.8	1.2	(85)
+	*	*	*	*	b	銅のみ	*	(6.7)	5.7	0.9	(50)
+	*	*	*	*	*	刃のみ	*	(4.0)	4.0	1.1	(30)
+	*	*	*	*	d	刃部欠	*	(9.6)	3.9	1.6	(90)
			剥片 (3 個 3 片)								
24号住	39-1	土 マ ド型	石 盆	*	*	半 折	花崗岩	*	*	*	*
26号住	42-1	覆土	搔 器	*	*	*	黑 雜 石	6.5	3.5	2.1	48
+	42-2	*	*	*	*	*	*	5.1	4.1	1.9	40
+	42-3	*	*	*	*	*	*	2.9	1.7	0.4	2
+	42-4	*	*	*	*	*	*	2.3	2.1	0.5	2
+	42-5	*	*	*	*	*	*	4.2	2.1	0.9	8
+	42-6	*	*	*	*	*	*	3.3	4.3	2.0	30
+	42-7	*	*	*	*	*	*	3.3	2.7	0.6	6
25号住	72-1	覆土	打製石斧	短骨形	b	完 形	硬砂岩	12.8	4.3	6.5	2.0
+	-2	*	*	*	*	*	*	11.8	4.0	4.0	1.7
+	-3	*	*	*	*	頭部欠	*	(13.8)	10.5	2.6	(680)
+	-4	*	*	*	*	完 形	*	10.7	3.5	5.1	1.5
+	-5	*	*	*	*	*	*	10.8	4.3	5.2	2.2
+	73-6	*	*	*	*	*	*	11.8	4.0	5.3	1.7
+	-7	*	*	*	*	*	*	12.3	3.0	3.4	1.9
+	-8	*	*	*	*	*	綠泥岩	12.0	3.5	3.6	70
+	-9	*	*	*	*	頭部欠	硬砂岩	(9.7)	5.2	1.2	(80)
+	-10	*	*	*	*	完 形	*	11.0	3.5	5.0	1.4
+	-11	*	*	*	*	側面欠	*	11.1	3.3	6.8	2.6
+	-12	*	*	*	*	完 形	綠泥岩	12.2	2.5	5.0	1.5
+	-13	*	*	*	*	短骨形	硬砂岩	12.5	4.0	4.7	1.7
+	-14	*	*	*	*	*	*	12.7	3.3	4.8	2.0
+	74-15	*	磨製石斧	定角形	*	頭部欠	松泥岩	(5.7)	6.9	2.0	(200)
+	-16	*	*	*	*	完 形	綠泥岩	8.1	2.5	3.2	1.1
+	-17	*	*	*	*	*	*	4.9	2.0	2.4	0.8
+	-18	*	*	*	*	頭部欠	*	4.7	1.7	2.8	0.7
+	-19	*	*	*	*	*	(5.5)	2.8	0.8	(30)	
+	-20	*	*	*	*	完 形	*	18.3	3.0	5.0	3.5
+	-21	*	大型粗製石器	橫 形	a	*	*	7.0	5.5	0.6	30
+	-22	*	*	*	*	*	硬砂岩	6.0	7.0	1.3	60
+	-23	*	*	*	*	刃部欠面	*	8.0	7.3	1.5	(60)
+	-24	*	石 磨	*	*	完 形	*	5.7	4.3	1.7	60
+	-25	*	*	*	*	片面欠	*	6.0	5.9	(1.2)	(65)
+	75-26	*	敲 打 器	*	a	頭部欠	凝灰岩	(12.7)	4.6	2.9	(270)
+	-27	*	*	*	b	片面欠	綠泥岩	7.5	6.5	(3.5)	(270)
+	-28	*	*	*	c	頭部欠	*	18.6	6.5	3.7	(850)
+	-29	*	特殊敲打器	*	a	完 形	*	5.4	6.3	1.6	100
+	76-30	*	磨 石	*	*	*	花崗岩	16.6	7.2	5.0	1175
+	75-31	*	回 石	*	*	*	*	9.8	5.2	2.8	260
+	75-32	*	*	*	*	*	*	9.3	7.6	3.1	310
+	75-33	*	磨 石	*	*	*	硬砂岩	8.0	4.4	3.8	220
+	-34	*	石 磨	*	*	破 片	花崗岩	(8.5)	8.5	4.0	430
+	-35	*	石 磨	*	*	*	硬砂岩	*	*	*	*

出土地	拂面番号	出土層位	種類	形態	形式	保存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
25号住	77-36	覆土	横刃石器		a		硬砂岩	14.0	8.8	2.5	340
+	-37	*	*		*		*	8.5	6.2	2.1	150
+	-38	*	*		*		*	8.7	4.9	1.3	60
+	-39	*	*		*		*	7.8	6.2	1.3	70
+	-40	*	*		*		*	9.3	6.0	1.2	70
+	78-41	*	石鍬			完 形	黑 雄 石	1.7	1.5	0.3	1
+	-42	*	*			頭一部欠	*	(28)	1.4	0.6	2
+	-43	*	搔 器				*		2.9	1.0	0.5
+	-44	*	*				*		8.6	2.9	1.0
+	-45	*	*				*		1.8	1.9	0.3
+	-46	*	*				*		2.7	1.4	0.4
+	-47	*	*				*		2.1	1.7	0.7
+	-48	*	*				*		2.4	1.8	0.5
+	-49	*	*				*		1.4	2.8	0.3
+	-50	*	*				*		2.1	2.0	1.1
+	-51	*	*				*		3.3	3.1	1.6
+	-52	*	*				*		3.1	2.4	1.3
+	-53	*	*				*		3.4	2.8	1.6
+	-54	*	*				*		4.0	2.0	1.3
+	-55	*	*				*		2.3	1.8	0.6
+	-	*	打製石斧	捲 形	d	頭部欠	硬砂岩	(9.0)	5.2	1.5	(125)
+	-	*	*	短骨形	b	刃部欠	*	(10.1)	5.0	1.3	(90)
+	-	*	*	*	d	*	*	(5.9)	3.0	0.9	(50)
+	-	*	*	*	*	*	*	(10.4)	5.4	2.1	(215)
+	-	*	*	*	*	*	*	(8.4)	5.6	1.5	(240)
+	-	*	*	*	*	*	*	(7.8)	4.2	1.2	(70)
+	-	*	*	*	b	柄のみ	*	(6.3)	4.4	1.2	(60)
+	-	*	*	*	*	頭部欠	*	(11.3)	5.0	1.8	(110)
+	-	*	*	*	*	*	*	(7.4)	5.9	2.0	(120)
+	-	*	*	*	*	*	*	(9.1)	3.8	4.3	1.6
+	-	*	*	*	d	刃部欠	*	(6.9)	*	1.6	(50)
+	-	*	*	*	b	頭部欠	*	(7.5)	4.5	2.4	(110)
+	-	*	*	*	*	柄のみ	*	(8.2)	4.7	2.1	(110)
+	-	*	*	*	d	刃部欠	綠泥岩	(6.7)	4.5	1.1	(70)
+	-	*	*	*	b	*	硬砂岩	(10.0)	3.8	1.3	(70)
+	-	*	*	*	d	頭部欠	綠泥岩	(8.0)	3.4	0.8	(40)
+	-	*	*	*	*	*	硬砂岩	(8.3)	4.2	1.8	(70)
+	-	*	石鍬	縱 形	*	*	*	(5.0)	4.4	1.3	(22)
剥片	a 頭-29 (うち 1 点は緑泥岩他は硬砂岩) b 頭-12 (硬砂岩12) c 頭-22 (硬砂岩22)										
1号住	82-1	覆土	打製石斧	短骨形	b	完 形	凝灰岩	8.2	3.2	3.8	1.1
+	-2	*	*	*	c	頭一部欠	硬砂岩	11.1	3.5	4.0	2.1
+	-3	*	*	*	c	完 形	*	9.9	2.8	3.9	1.8
+	-4	*	*	*	d	*	*	9.8	3.8	4.0	1.3
+	-5	*	*	*	*	*	*	11.0	3.5	1.5	60
+	-6	*	*	*	*	*	*	10.7	2.0	5.0	1.7
+	-7	*	磨製石斧	定 角	*	*	綠泥岩	12.6	3.2	3.8	1.0
+	-8	*	*	*	*	頭部欠	*	(9.9)	3.8	0.8	(55)
+	-9	*	*	乳棒状	*	*	*	(14.9)	4.9	4.7	(570)
+	83-10	*	大形粗製石器	橫 形	c	完 形	硬砂岩	9.0	6.2	1.0	50
+	-11	*	石鍬	縱石鍬	c	*	*	6.7	3.5	1.9	80
+	-12	*	敲 打 器		a	半 折	綠泥岩	(11.9)	2.2	2.2	(140)
+	-13	*	*		b	完 形	*	10.9	4.8	4.5	350
+	-14	*	横刃石器		a	*	硬砂岩	9.8	6.0	0.9	70
+	-15	*	*		*	*	*	9.3	7.4	1.8	130
+	-16	*	*		*	*	*	12.6	7.8	2.1	250
+	-17	*	*		c	*	*	8.7	6.5	1.7	130
+	84-18	床面	打製石斧	短骨形	a	*	綠泥岩	10.0	3.7	3.9	1.6
+	-19	*	*	*	c	*	硬砂岩	10.2	3.5	4.7	2.1
+	-20	*	磨製石斧	定 角	*	*	綠泥岩	8.9	2.9	0.6	30

出土地	辨認番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
1号住	84-21	床面	大形粗製石斧	横形	a	完形	硬砂岩	7.0	7.5	1.3	70	
*	-22	*	敲打器	b	*	*	綠泥岩	10.5	6.4	6.0	680	
*	-23	*	石棒	有頭	c	基部欠	花崗岩	(13.9)	8.8	9.2	(1360)	
*	-24	*	凹石		a	完形	*	14.2	8.7	2.4	510	
*	85-25	*	横刃石器		c	*	硬砂岩	8.6	4.7	1.0	60	
*	-26	*	*		b	*	硬砂岩	9.6	6.3	1.3	90	
*	-27	*	石皿		b	一部欠	花崗岩	9				
*		覆土	打製石斧	短骨形	b	頭部欠	硬砂岩	(10.7)	5.1	1.7	(120)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(11.9)	4.8	2.7	(120)	
*	*	*	*	楔形	b	*	硬砂岩	(14.5)	4.6	2.1	(100)	
*	*	*	*	短骨形	b	刀部欠	硬砂岩	(9.4)	6.9	2.8	(360)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(7.3)	4.4	1.5	(100)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(4.4)	3.5	1.0	(40)	
*	*	*	*		b	頭部欠	硬砂岩	(9.3)	4.0	1.2	(80)	
*	*	*	*		b	頭部のみ	硬砂岩	(4.3)	3.8	1.4	(30)	
*	*	*	*		b	頭部欠	硬砂岩	(9.3)	4.0	1.2	(80)	
*	*	*	*		b	刀部欠	硬砂岩	(10.2)	4.7	2.1	(125)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(9.6)	4.3	1.8	(100)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(7.2)	3.6	1.7	(60)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(6.5)	4.0	1.3	(45)	
*	*	*	*		b	頭部欠	硬砂岩	(11.0)	4.7	1.5	(120)	
*	*	*	*		b	刀部欠	硬砂岩	(6.9)	3.5	1.4	(55)	
*	*	*	*		b	頭部欠	硬砂岩	(12.0)	4.0	1.7	(65)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(12.2)	4.0	2.1	(140)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(9.8)	4.3	1.5	(60)	
*	*	*	*		b	刀部欠	硬砂岩	(6.5)	4.0	1.3	(45)	
*	*	*	*		b	*	硬砂岩	(9.9)	3.7	1.8	(100)	
*	*	*	*		b	*	硬泥岩	(10.0)	3.9	1.6	(130)	
*		覆土	剥片	a種-24(硬砂岩22, 緑泥岩1, 砂岩1)	b種-8(硬砂岩)	c種-6(硬砂岩5, 緑泥岩1)						
*		床面	剥片	a種-22(硬砂岩20, 緑泥岩2)	b種-3(硬砂岩)	c種-2(硬砂岩)						
3号住	87-1	覆土	打製石斧	短骨形	b	完形	硬砂岩	11.9	3.8	4.0	1.2	90
*	-2	*	*	*	b	*	硬砂岩	11.0	3.0	4.1	1.7	90
*	-3	*	*	楔形	b	*	硬砂岩	12.4	3.0	5.5	1.2	100
*	-4	*	*	c	*	*	硬砂岩	12.8	4.0	8.0	2.1	240
*	-5	*	*	短骨形	b	*	硬砂岩	9.3	3.3	4.4	1.1	60
*	-6	*	*	d	*	*	硬砂岩	11.3	2.7	3.7	1.7	120
*	-7	*	磨製石斧	定角	b	*	綠泥岩	9.7	2.5	4.7	2.1	185
*	-8	*	*	乳棒	b	*	綠泥岩	9.8	2.5	1.6	80	
*	88-9	*	磨石		b	一部欠	花崗岩	(9.9)	5.5	3.1	(315)	
*	-10	*	磨き石		b	完形	硬砂岩	12.7	5.7	3.4	380	
*	-11	*	横刃石器		a	*	硬砂岩	6.9	5.0	0.7	30	
*	-12	*	*		a	*	硬砂岩	8.7	5.2	1.6	70	
*	-13	床面	打製石斧	短骨形	b	*	硬砂岩	11.3	4.0	4.5	1.9	160
*	-14	*	*	楔形	b	刀部欠	硬砂岩	(12.2)	5.0	2.1	(270)	
*	89-15	*	*	短骨形	b	完形	綠泥岩	9.8	2.8	4.0	1.4	90
*	-16	*	*	d	刀部一部欠	硬砂岩	12.3	3.3	4.5	1.2	100	
*	-17	*	*	楔形	b	完形	粘板岩	10.6	1.5	3.8	0.9	40
*	-18	*	磨製石斧	始給刃	b	*	綠泥岩	11.5	4.7	3.0	250	
*	-19	*	敲打器		b	*	硬砂岩	12.2	4.3	3.8	370	
*	-20	*	*		b	一部欠	硬砂岩	12.1	5.9	2.0	(225)	
*	-21	*	*		b	完形	蛇紋岩	14.6	3.0	2.0	190	
*	90-22	*	石核		b	*	硬砂岩	17.0	10.1	2.0	395	
*	-23	*	*		b	*	硬砂岩	10.7	8.1	2.5	340	
*	-24	*	*		b	*	硬砂岩	7.6	7.4	2.4	180	
*	91-25	*	石鑿		c	完形	黑耀石	1.8	1.6	0.2	2	
*	-26	*	擂器		c	*	硬砂岩	3.3	2.0	1.0	8	
*	-27	*	*		c	*	硬砂岩	3.5	3.3	0.3	2	
*		覆土	打製石斧	短骨形	b	刀部欠	硬砂岩	(10.2)	4.6	2.3	(220)	
*	*	*	*		b	頭部のみ	硬砂岩	(7.8)	4.9	1.0	(60)	
*	*	*	*		b	頭部欠	綠泥岩	(9.9)	3.6	0.9	(50)	

出土地	標識番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
3号住		覆土	打製石斧	短骨形	d	刃部のみ	硬砂岩	(5.8)	4.5	1.8	(70)	
		*	*	*	*	頭部欠	*	(12.4)	4.8	2.0	(180)	
		床面	*	*	*	頭部のみ	*	(5.4)	4.1	1.3	(50)	
		*	*	*	*	刃部欠	綠泥岩	(7.7)	3.3	0.7	(30)	
		*	*	*	b	*	硬砂岩	(9.3)	4.8	1.7	(115)	
		*	*	*	*	*	*	(9.4)	4.8	1.8	(110)	
		*	*	*	*	*	*	(10.5)	4.4	1.9	(140)	
		*	*	*	d	頭部欠	*	(7.5)	4.3	1.3	(70)	
		覆土	剥片 a類19(硬砂岩17, 砂岩2) b類2(硬砂岩)					c類7(硬砂岩6, 砂岩1)				
		床面	*	*	*	*	*	*				
2号住	94-1	覆土	磨き石器	短骨形	a	完形	花崗岩	6.5	9.4	2.9	260	
		-2	横刃石器	*	*	*	硬砂岩	7.5	6.4	1.2	60	
		-3	床面	打製石斧	短骨形	*	*	12.3	5.9	6.2	1.9	
		-4	*	*	c	刃部欠	*	(7.6)	3.6	2.1	(110)	
		-5	*	敲打器	b	片面欠	綠泥岩	10.8	4.3	2.6	180	
		-6	*	磨製石斧	定角	刃部欠	*	(7.4)	3.0	1.1	(50)	
		*	打製石斧	短骨形	b	*	硬砂岩	(10.8)	3.5	1.8	(110)	
		*	*	*	d	*	*	(5.5)	4.2	1.4	(60)	
		*	*	*	b	*	綠泥岩	(8.8)	5.0	2.2	(150)	
		*	剥片 a類6(硬砂岩4, 緑泥岩2) b類3(硬砂岩) c類2(硬砂岩)									
4号住	98-1	覆土	打製石斧	短骨形	b	完形	硬砂岩	12.7	3.8	5.5	1.9	
		-2	*	*	*	*	綠泥片岩	10.4	3.0	4.1	1.1	
		-3	*	*	*	*	綠泥岩	7.9	2.6	2.3	1.3	
		-4	*	*	d	*	硬砂岩	11.6	3.0	4.6	2.2	
		-5	*	*	*	*	*	10.7	3.6	3.8	1.5	
		-6	*	*	*	*	綠泥片岩	9.4	3.1	2.8	0.7	
		-7	*	*	*	*	綠泥岩	9.2	2.0	2.5	0.6	
		-8	磨製石斧	定角	刃部欠	*	(7.3)	2.4	2.0		(92)	
		-9	大形粗製石器	横形	b	完形	*	6.8	5.1	1.1	30	
		99-10	*	敲打器	*	半折	硬砂岩	5.1	5.8	3.9	(180)	
		-11	*	*	c	完形	綠泥岩	8.6	5.5	3.0	240	
		-12	*	*	*	*	硬砂岩	10.8	3.9	2.7	210	
		-13	*	特殊敲打器	b	*	硬砂岩	6.4	4.6	1.2	50	
		*	打製石斧	短骨形	*	頭部欠	*	(11.4)	8.2	3.7	(430)	
		*	*	*	d	斜刃	*	(11.8)	(2.0)	3.9	1.2	
6号住	103-1	覆土	打製石斧	短骨形	b	完形	硬砂岩	11.8	3.0	3.6	1.9	
		-2	*	*	*	*	*	10.2	3.3	4.5	1.4	
		-3	*	*	d	*	*	11.6	4.0	5.6	1.7	
		-4	*	敲打器	b	片面割	綠泥岩	7.9	5.6	(2.5)	(240)	
		-5	床面	打製石斧	短骨形	*	完形	硬砂岩	14.6	3.3	5.5	1.6
		-6	*	*	*	*	*	14.4	2.0	4.4	1.9	
		-7	*	*	短骨形	*	刃部欠	綠泥片岩	(10.8)	3.2	1.2	(85)
		-8	*	*	c	完形	硬砂岩	10.9	3.7	4.1	1.3	
		104-9	*	磨製石斧	乳棒状	*	頭部のみ	蛇紋岩	(7.4)	3.0	(2.6)	(140)
		-10	*	敲打器	b	完形	綠泥岩	7.0	5.4	4.4	330	
8号住	107-1	床面	打製石斧	短骨形	b	完形	綠泥片岩	13.2	2.5	4.0	2.3	
		-2	*	*	*	*	硬砂岩	14.4	4.2	4.2	1.8	
		*	剥片 a類3(硬砂岩) b類1(硬砂岩) c類3(硬砂岩2, 緑泥岩1)									
		*	a類9(硬砂岩7, 緑泥岩2) b類1(硬砂岩) c類3(硬砂岩2, 緑泥岩1)									

出 土 地	拂因番号	出土層位	種 類	形 譲	形 式	残存状態	石 質	長さ	幅	厚さ	重量	
8号住	107-3	埋壁中	打製石斧	短骨形	d	完 形	綠泥 岩	12.3	2.8 3.1 2.8	1.2	60	
+	-4	床面	+	+	b	硬 砂 岩	11.8	3.0 4.0	1.9	130		
+	-5	+	+	+	+	*	11.9	3.7 6.0	1.7	160		
+	-6	+	+	+	+	蛇紋 岩	11.7	4.0 5.0	1.1	100		
+	-7	+	+	+	+	頭部欠	硬 砂 岩 (11.2)	4.4 7.9	2.3	(240)		
+	108-8	+	磨製石斧	擬 形	+	刃部・部欠	綠泥 岩	19.4	3.0 6.8	3.1	(510)	
+	-9	+	敲 打 器	蛤 刀	a	頭部欠	硬 砂 岩 (10.6)	5.1	2.9	(280)		
+	-10	+	+	+	+	*	(5.6)	3.3	2.2	(50)		
+	109-11	+	+	c	完 形	綠泥 岩	25.7	9.2	6.0	2560		
+	-12	+	磨 き 石	a	+	硬 砂 岩	13.3	3.7	4.4	380		
+	108-13	+	横刃石器	+	+	*	13.8	7.3	2.1	240		
+	-14	+	+	+	+	*	10.0	7.8	1.7	175		
+	+	+	打製石斧	短骨形	b	刃部欠	綠泥片岩	(13.5)	3.7	1.3	(120)	
+	+	+	+	+	+	硬 砂 岩 (7.4)	3.4	1.3	(50)			
+	+	+	+	+	+	綠泥 岩 (7.3)	4.0	1.3	(80)			
+	+	+	+	+	+	頭部欠	砂 岩 (11.9)	4.4	1.8	(103)		
+	+	+	剥片	a類11(硬砂岩8, 緑泥岩3)	b類3(硬砂岩3)	c類2(硬砂岩2)						
9号住	113-1	覆土	打製石斧	短骨形	d	完 形	綠泥 岩	11.1	2.5 4.0	1.6	90	
+	-2	+	大形粗鑿石器	橫 形	+	*	硬 砂 岩	8.8	6.6	1.4	90	
+	-3	+	横刃石器	a	+	*	6.5	5.2	1.1	50		
+	-4	+	+	b	+	11.0	6.9	1.8	160			
+	-5	床面	打製石斧	短骨形	d	*	刃部のみ	(4.4)	6.2	1.1	(40)	
+	覆土	+	+	+	+	頭部欠	(6.9)	5.2	1.6	(85)		
+	+	+	+	+	+	刃部欠	(9.5)	4.7	2.6	(115)		
+	覆土	剥片	a類1(硬砂岩4, 凝灰岩1, 緑泥片岩1)	b類1(硬砂岩1)	c類5(硬砂岩5)							
10号住	116-1	覆土	打製石斧	短骨形	c	刃部欠	硬 砂 岩	11.5	3.9 4.1	1.9	(120)	
+	-2	+	+	+	+	*	(9.7)	3.5	1.5	(70)		
+	-3	+	+	+	d	頭部欠	綠泥 岩 (7.4)	3.1	0.8	(30)		
+	-4	+	+	+	+	完 形	凝灰 岩	18.3	3.7 4.0	1.8	205	
+	-5	+	+	+	+	*	硬 砂 岩	12.6	3.4	3.5	1.4	115
+	-6	+	磨製石斧	定角形	+	*	綠泥 岩	10.4	1.8 2.2 1.5	0.9	40	
+	-7	+	+	乳棒狀	+	刷のみ	綠泥片岩	(6.4)	6.1	3.0	(150)	
+	-8	+	+	+	+	頭部欠	凝灰 岩	16.6	5.9	4.8	(745)	
+	119-9	+	大形粗鑿石器	橫 形	d	完 形	硬 砂 岩	9.0	7.1	1.1	50	
+	-10	+	+	+	b	*	綠泥 岩	7.5	7.5	1.4	90	
+	-11	+	敲 打 器	a	+	*	硬 砂 岩	16.8	5.5	2.6	370	
+	-12	+	横刃石器	+	+	*	綠泥 岩	8.5	8.0	1.2	90	
+	-13	+	+	+	+	*	硬 砂 岩	6.5	6.0	1.1	60	
+	-14	+	+	+	+	*	頭部のみ	(8.7)	6.3	1.7	(140)	
+	+	+	打製石斧	短骨形	b	本側一部欠	*	10.3	[2.2] 4.0	1.1	(60)	
+	+	+	+	+	+	刃部欠	凝灰 岩 (8.5)	6.2	1.7	(185)		
+	+	+	+	+	c	*	硬 砂 岩 (5.2)	3.9	2.1	(50)		
+	+	+	+	+	d	*	砂 岩 (9.9)	3.8	2.2	(97)		
+	+	+	+	+	+	頭部欠	硬 砂 岩 (8.8)	5.1	2.2	(120)		
+	+	+	剥片	a類12(硬砂岩9, 緑泥片岩2, 砂岩1)	b類1(硬砂岩1)	c類5(硬砂岩5)						
11号住	121-1	覆土	打製石斧	短骨形	b	完 形	綠泥 岩	9.0	2.5 3.7	1.0	55	
+	-2	+	+	拟 形	d	頭部欠	硬 砂 岩	11.0	8.3	2.7	(220)	
+	-3	+	+	短骨形	+	頭部欠	砂 山	10.8	2.6 3.7	1.2	(60)	
+	-4	+	敲 打 器	+	a	完 形	綠泥 岩	15.4	8.2	5.3	875	
+	-5	+	石 鋸	タテ形	+	*	砂 岩	5.4	4.4	1.4	60	
+	-6	+	磨 き 石	a	+	*	7.5	2.6	1.8	63		
+	-7	+	特殊敲打器	+	+	*	4.6	6.0	1.1	60		
+	-8	+	横刃石器	+	+	*	硬 砂 岩	8.2	5.6	1.4	90	
+	122-9	+	枝入横刃石器	拟 形	+	*	綠泥片岩	10.5	11.2	1.1	180	
+	-10	床面	打製石斧	短骨形	d	頭部欠	綠泥片岩	8.4	4.1	1.3	(60)	
+	-11	+	+	短骨形	d	完 形	安 山 岩	12.9	2.7 3.8	1.3	83	
+	-12	+	+	+	+	*	安 山 岩	10.8	2.8	3.1	78	

出土地	発掘番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
11号住	122-13	床面	磨製石斧	特殊形	a	完形	綠泥岩	10.8	2.1	4.3	1.6	
	-14	◆	◆	定角	*	頭部欠	(6.7)	1.4	2.7	1.2	(30)	
	-15	◆	◆	*	*	完形	*	3.5	0.9	1.3	0.5	
	-16	◆	大型粗製石器	横形	c	*	硬砂岩	11.1	7.2	1.2	100	
	123-17	◆	敲打器	横形	a	頭部欠	(10.1)	7.2	4.5	4.5	(520)	
	-18	◆	石皿	一部欠	砂岩	20.1	12.0	3.1				
	-19	◆	多孔石	完形	花崗岩	23.1	19.0	3.4				
	覆土	◆	打製石斧	短圓形	b	頭部欠	硬砂岩	(14.7)	7.5	2.7	(490)	
	◆	◆	◆	◆	◆	刃部欠	(12.0)	4.3	2.0	2.0	(160)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	(8.2)	5.1	1.5	1.5	(80)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	(8.8)	4.8	1.3	1.3	(65)	
	◆	◆	◆	◆	◆	頭部欠	(8.0)	5.2	2.0	2.0	(105)	
	◆	◆	◆	◆	◆	刃部欠	(8.4)	4.1	1.7	1.7	(80)	
	◆	◆	◆	◆	◆	頭部欠	(7.4)	4.0	1.4	1.4	(40)	
	◆	◆	◆	◆	c	*	(9.2)	6.1	1.7	1.7	(105)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	(9.1)	6.3	1.3	1.3	(140)	
	◆	◆	◆	◆	d	刃部欠	(15.1)	6.8	2.6	2.6	(400)	
	◆	◆	◆	◆	◆	頭部欠	11.0	8.5	2.6	2.6	(285)	
	◆	◆	◆	◆	◆	刃部欠	*	5.1	3.2	1.3	(25)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	(10.9)	3.0	1.1	1.1	(80)	
	◆	◆	◆	◆	c	頭の半欠	綠泥岩	(7.2)	4.9	(1.9)	(65)	
	床面	◆	敲打器	片断	a類21(硬砂岩16, 緑泥岩4, 砂岩1) b類7(硬砂岩5, 緑泥岩2) c類3(硬砂岩2, 緑泥岩1)							
	◆	◆	◆	◆	◆	*	a類13(硬砂岩11, 緑泥岩2) b類1(砂岩) c類1(緑泥岩)					
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
12号住	126-1	床面	打製石斧	特殊大形	b	完形	綠泥片岩	36.7	6.5	9.2	3.7	1970
	-2	◆	◆	捲形	*	*	硬砂岩	10.9	2.2	5.9	1.6	100
	-3	◆	◆	短圓形	*	*	*	10.6	2.8	3.8	1.4	60
	-4	◆	◆	*	*	*	*	12.3	2.5	4.4	1.6	115
	-5	◆	◆	*	c	*	*	8.5	3.0	3.7	1.5	55
	-6	◆	◆	*	d	*	*	11.7	3.0	3.6	1.7	90
	127-7	◆	敲打器	a	半折	砂岩	(16.9)	6.0	3.6	(550)		
	-8	◆	◆	*	*	一部欠	綠泥岩	(9.1)	3.9	3.1	(200)	
	-9	◆	砥石	完形	砂岩	21.0	16.2	3.8				
	-10	◆	◆	有頭	蓋部欠	花崗岩	(29.0)	16.0	14.2			
	◆	◆	◆	◆	◆	頭のみ	硬砂岩	(7.6)	5.7	1.7	(98)	
13号住	134-1	覆土	打製石斧	短圓形	b	*	綠泥岩	(10.8)	3.9	1.3	(80)	
	-2	◆	◆	*	*	*	綠泥岩	(12.4)	6.6	3.3	(4)	
	-3	◆	◆	*	*	*						
	-4	◆	◆	*	*	*						
	-5	◆	圓石	*	*	*						
	-6	◆	◆	*	*	*						
	-7	◆	橫刃石器	a	*	*						
	135-8	床面	打製石器	短圓形	b	*						
	-9	◆	◆	*	*	*						
	-10	◆	敲打器	a	頭部欠	砂岩	13.3	3.3	4.1	1.5	120	
	-11	◆	打製石斧	b	完形	硬砂岩	13.8	3.5	4.2	1.6	180	
	-12	◆	大型粗製石器	b	刃部欠	*	*	(6.5)	1.5	(90)		
14号住	◆	◆	打製石斧	短圓形	b	頭部のみ	*					
	◆	◆	◆	*	d	*						
	◆	◆	磨製石斧	乳棒状	*	*	綠泥岩	(5.6)	2.5	3.0	(110)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	硬砂岩	(8.2)	4.4	1.6	(80)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	綠泥岩	(10.8)	4.8	1.9	(200)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	硬砂岩	(6.7)	7.0	2.5	(145)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	硬砂岩	(4.9)	4.3	0.9	(35)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	綠泥片岩	(8.0)	5.8	1.3	(100)	
	◆	◆	◆	◆	◆	*	測斜折	硬砂岩	13.6	(2.0)	1.8	(100)
	◆	◆	◆	◆	◆	*						
	◆	◆	◆	◆	◆	*						

片面すってある
裏面延石状片面使用
一部すってある

片面すってある

出土地	拂団番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量		
19号住		床面	剥片 a類3 (硬砂岩1, 緑泥岩2)										
20号住	140-1	覆土	打製石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	10.5	3.2	4.5	1.1	60	
*	-2	*	磨製石斧	定角形		頭一部欠	緑泥岩	7.1		3.0	0.8	(30)	
*	-3	*	横刃石器		a		硬砂岩	9.0		3.8	1.8	70	
*	-4	*	*		a		*	10.1		7.7	2.4	210	
*	-5	床面	打製石斧	短冊形	a	完形	緑泥片岩	11.3	3.3	3.8	1.5	100	
*	-6	*	*	*	a	*	硬砂岩	13.1	4.0	4.5	2.4	150	
*	-7	*	*	*	a	*	凝灰岩	14.0	2.5	4.0	1.5	130	
*	-8	*	*	*	a	*	緑泥片岩	11.7	3.0	2.8	1.8	110	
*	-9	*	*	*	b	刃部欠	硬砂岩	8.5	2.5		1.8	(50)	
*	-10	*	*	撲形	*	完形	硬砂岩	10.3	2.2	4.8	1.4	75	
*	-11	*	*	短冊形	*	*	*	10.1	2.5	4.2	1.3	60	
*	-12	*	*	*	*	*	*	12.1	3.0	4.2	1.7	110	
*	-13	*	*	分離形	d	*	*	11.0	3.8	3.2	1.3	80	
*	-14	*	磨製石斧	定角形		刃部剥落	緑泥岩	7.5	2.5	3.2	1.1	50	
*	-15	*	大型粗製石器	複形	d	完形	硬砂岩	4.2	10.9	1.3	70		
*	-16	*	磨石			*	花崗岩	11.7	9.8	5.2	0.8	800	
141-17	*	磨き石			a	*	花崗岩	10.7	5.2		3.0	260	
*	-18	*	横刃石器		*	*	*	6.2	5.5		1.3	80	
*	-19	覆土	石頭多孔石			*	花崗岩						
*	*	打製石斧	短冊形	b	頭部のみ		硬砂岩	8.0	4.1	1.5	(70)		
*	*	*	*	d	刃部欠		緑泥岩	13.6	2.5	1.3	(125)		
*	*	床面	*	*	b	*	硬砂岩	9.5	5.0	2.3	(170)		
*	*	*	*	*	d	頭部欠	*	10.6		3.5	1.2	(70)	
*	*	*	*	*	*	*	*	8.9		4.1	1.0	(60)	
*	*	*	*	*	*	*	緑泥片岩	9.2		3.7	1.1	(50)	
*	*	*	*	*	c	*	硬砂岩	4.7		4.8	0.8	(30)	
*	*	*	*	*	*	*	頭部欠	*	10.1		4.6	2.3	(140)
*	*	*	*	*	d	刃部のみ	*	5.2		3.6	1.5	(40)	
*	*	*	*	*	b	*	*	5.5		3.8	0.9	(40)	
*	*	*	*	*	d	*	*	7.6		6.9	1.1	(110)	
*	*	磨製石斧	乳棒状			破片	凝灰岩	7.2		(2.6)	(2.3)	(40)	
*	*	大型粗製石器	複形	d	刃部欠		粘板岩			(8.9)	1.7	(45)	
*	*	*	機形	b	*	*	硬砂岩			(6.3)	0.8	(25)	
覆土		剥片 a類5 (硬砂岩)	b類2 (硬砂岩)										
床面		*	a類2a (硬砂岩2L, 砂岩1, 緑泥岩1)	b類6 (硬砂岩5, 緑泥岩1)	c類5 (硬砂岩4, 緑泥岩1)								
27号住	147-1	覆土	打製石斧	分離形	b	頭一部欠	硬砂岩	13.8	(4.5)	7.5	2.5	(260)	
*	-2	*	敲打器	*	*	完形	緑泥岩	12.3		6.8	1.6	650	
*	-3	電袖石	石皿		*	半欠	花崗岩						
30号住	154-1	覆土	打製石斧	短冊形	a	完形	硬砂岩	10.2	1.8	2.6	1.4	40	
*	-2	*	*	b	*	*	*	13.7	2.5	4.1	1.9	260	
*	-3	*	*	b	*	*	*	10.6	1.5	3.5	1.3	50	
*	-4	*	*	b	*	*	硬砂岩	12.3	3.8	5.0	2.2	170	
*	-5	*	*	b	*	*	*	9.3	3.0	4.5	1.6	90	
*	-6	*	*	b	*	*	砂岩	10.1	3.3	4.5	1.5	80	
*	-7	*	*	b	*	*	緑泥片岩	15.2	3.0	4.8	2.7	310	
*	-8	*	敲打器	a	*	*	硬砂岩	8.8	2.1	2.2	2.2	75	
*	-9	*	磨製石斧	定角形		頭部のみ	松脂岩	(6.0)	(2.7)	1.3	(30)		
*	155-10	*	大型粗製石器	横	b	完形	硬砂岩	8.1		4.7	1.0	40	
*	-11	*	特殊敲打器	a	*	*	砂岩	8.4		9.0	1.7	210	
*	-12	*	敲打器	a	*	一部破損	*	14.8		4.5	1.8	(230)	
*	-13	*	横刃石器	*	*	*	硬砂岩	9.1		7.9	2.0	210	
*	-14	床面	大型粗製石器	機形	d	完形	緑泥片岩	6.0		3.7	0.7	20	
*	-15	*	*	*	a	刃部欠	砂岩	(3.0)		4.4	0.8	(15)	
*	-16	*	特殊敲打器	b	*	完形	硬砂岩	5.0		4.2	0.9	30	
*	-17	*	*	b	*	*	*	5.0		4.1	1.0	35	
*	-18	*	磨製石斧	乳棒状	a	刃部欠	硬砂岩	(12.9)		4.7	3.6	(400)	
*	-19	*	敲打器	*	*	完形	花崗岩	12.5		6.6	4.5	720	
156-20	*	石皿		*	*	*							

調査小川がれる

出土地	発掘番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量		
30号住		覆土	打製石斧	短骨形	d	刃部欠	硬砂岩	(15.4)	5.5	6.5	(545)		
*	*	*	*	*	*	*	綠泥片岩	(7.1)	2.2	1.2	(20)		
*	*	*	*	*	b	*	硬砂岩	(6.6)	3.7	1.7	(70)		
*	*	*	*	c	*	肩のみ	*	(10.1)	4.8	1.2	(90)		
*	*	*	*	d	*	刃部欠	*	(6.4)	3.6	2.0	(90)		
*	*	*	*	b	*	*	綠泥片岩	(6.8)	3.3	0.9	(40)		
*	*	床面	*	*	c	*	*	(10.8)	4.3	1.5	(125)		
*	*	*	*	d	*	頭部欠	硬砂岩	(13.5)	5.3	1.8	(160)		
覆土	剝片 a類8 (硬砂岩6, 緑泥岩2)		b類2 (硬砂岩)		c類2 (硬砂岩)								
床面	a類5 (硬砂岩)		b類1 (硬砂岩)										
31号住	159-1	床面	打製石斧	短骨形	a	完形	綠泥岩	10.9	3.0	3.5	1.3	80	
*	-2	*	*	*	b	*	硬砂岩	13.5	3.5	4.8	1.9	120	
*	-3	*	*	*	c	*	*	10.7	3.7	4.3	1.5	90	
*	-4	*	*	*	d	*	綠泥岩	10.9	3.0	3.5	1.3	120	
*	-5	*	*	*	c	*	綠泥片岩	9.7	3.5	4.0	1.2	60	
*	-6	*	*	*	d	*	硬砂岩	11.7	3.3	5.7	1.8	120	
*	-7	*	磨製石斧	撲定角	a	*	綠泥岩	6.4	1.3	1.8	0.8	20	
*	-8	*	特殊敲打器	*	*	*	硬砂岩	6.0	3.2	2.2	1.2	30	
*	-9	*	横刃形石器	*	*	*	*	11.0	5.1	1.1	53		
*	*	打製石斧	短骨形	b	刃部欠	*	(6.6)	4.8	1.5	(60)			
*	*	*	*	d	*	*	(10.0)	4.7	1.5	(80)			
*	*	*	*	*	*	肩のみ	凝灰岩	(8.9)	4.8	1.1	(60)		
*	*	*	*	*	*	刃部欠	綠泥岩	(7.5)	3.6	0.9	(30)		
*	*	*	*	*	*	肩のみ	綠泥片岩	(5.6)	4.8	1.4	(50)		
覆土	剝片 a類23 (硬砂岩21, 緑泥岩2)		b類4 (硬砂岩)		c類4 (硬砂岩3, 緑泥片岩1)								
32号住	162-1	覆土	打製石斧	浅形	d	完形	硬砂岩	15.6	4.3	7.9	2.8	370	
*	-2	*	*	*	b	*	*	15.6	4.1	8.0	2.2	340	
*	-3	*	*	短骨形	b	*	綠泥岩	11.7	3.0	4.2	1.1	100	
*	-4	*	*	*	c	*	*	9.4	2.4	3.8	1.0	50	
*	-5	*	大型粗製石器	横形	*	*	硬砂岩	7.3	4.5	1.1	60		
*	-6	*	磨製石斧	乳棒状	*	肩のみ	凝灰岩	(5.2)	3.7	2.7	(70)		
*	-7	*	*	*	*	*	硬砂岩	6.7	3.8	1.6	70		
*	-8	*	石鍬	廠形	*	完形	硬砂岩	*	8.7	5.6	0.7	50	
*	163-9	床面	打製石斧	短骨形	b	*	*	13.7	3.4	4.3	1.6	110	
*	-10	*	*	*	b	*	*	安山岩	10.8	3.0	4.0	1.3	70
*	-11	*	*	*	c	*	*	綠泥岩	8.5	3.0	3.7	1.4	60
*	-12	*	*	*	d	*	*	硬砂岩	11.3	3.0	4.3	1.2	70
*	-13	*	磨製石斧	定角	*	刃部のみ	綠泥岩	(3.9)	1.8	-1.0	(10)		
*	-14	*	*	鉤刃	*	完形	*	14.3	4.7	5.2	3.7	450	
*	-15	*	敲打器	*	c	*	*	(9.8)	2.2	1.3	(55)		
*	-16	*	横刃石器	*	a	頭部欠	硬砂岩	9.3	5.1	1.1	70		
*	-17	*	石墨	*	*	完形	砂岩	(8.8)	4.9	1.3	(70)		
覆土	打製石斧		短骨形		b類4 (硬砂岩)								
床面	剝片 a類12 (硬砂岩10, 緑泥岩2)		b類7 (硬砂岩6, 緑泥岩1)		c類3 (硬砂岩)								
覆土	a類9 (硬砂岩)		b類3 (硬砂岩)		c類1 (硬砂岩)								
33号住	165-1	床面	打製石斧	短骨形	a	完形	綠泥岩	9.4	2.0	2.5	0.8	35	
*	-2	*	*	*	b	*	硬砂岩	14.9	3.7	4.4	1.8	180	
*	-3	*	*	*	c	*	*	12.0	3.3	3.7	1.3	70	
*	-4	*	*	*	d	*	*	11.4	4.0	4.7	1.7	130	
*	-5	*	*	*	*	*	綠泥片岩	8.8	2.6	0.7	20	黑色繪影	
*	-6	*	*	*	*	*	硬砂岩	12.4	2.6	5.2	2.0	120	
*	-7	*	*	*	*	*	*	15.3	5.2	5.2	2.4	220	

出土地	拂因番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
33号住	165-8	床面	磨製石斧	定角		完形	綠泥岩	7.6	1.7	0.8	15
	-9	*	*	*	*	刃部欠	*	8.8	1.8	0.5	(35)
	-10	*	*	*	*	完形	*	6.3	2.1	1.1	15
	-11	*	*	*	*	頭部欠	*	(4.2)	1.8	0.5	8
	-12	*	*	*	*	完形	*	5.2	1.2	1.7	15
	-13	*	*	*	*	*	*	4.3	2.0	0.4	10
	-14	*	*	*	*	刃部欠	*	(3.4)	1.5	0.9	(15)
	166-15	*	*	敲打器	a	頭部欠	硬砂岩	18.3	3.8	5.8	3.5 (580)
	-16	*	橫刃石器	c	*	硬砂岩	(8.9)	6.8	4.7	4.7 (500)	
	-17	*	打製石斧	b	刀部欠	綠泥片岩	(7.7)	3.3	1.3	60 (65)	
	*	*	*	d	*	硬砂岩	(7.2)	4.0	1.3	(65)	
	*	*	刮片 a類3 (硬砂岩)	a類4 (硬砂岩)	c類2 (硬砂岩 1, 砂岩 1)						
34号住	169-1	床面	打製石斧	短骨形	b	完形	硬砂岩	11.8	4.4	6.2	2.8 (260)
	-2	*	*	*	*	*	*	12.3	3.8	4.7	2.2 (140)
	-3	*	*	*	*	*	*	11.1	3.0	5.0	1.6 (118)
	-4	*	*	*	c	*	*	12.4	3.0	5.1	2.2 (150)
	-5	*	*	*	*	*	*	8.8	2.9	3.9	1.5 (75)
	-6	*	*	*	d	*	*	10.1	2.8	4.0	1.2 (60)
	-7	*	大形粗製石器	橫形	b	刃部欠	*	(6.0)	4.5	1.4	90 (90)
	170-8	敲打器	a	*		綠泥岩	16.8	4.2	3.0	320 (320)	
	-9	床面	橫刃石器	*		硬砂岩	9.7	6.4	1.4	80 (80)	
	*	*	打製石斧	b	頭部のみ	*	(5.2)	4.4	1.9	40 (40)	
	*	*	*	*	刃部欠	*	(7.2)	4.4	2.3	120 (120)	
	*	*	*	*	頭部欠	*	(11.6)	3.9	2.2	110 (110)	
	*	*	刮片 a類1 (硬砂岩)	b類2 (硬砂岩)	c類4 (硬砂岩)	*	(9.0)	7.0	2.1	150 (150)	
土壇1	208-1	凹石		完形		砂岩	7.1	7.0	4.2	90	
	-2	敲打器		*		硬砂岩	9.0	4.0	0.9	180 (180)	
土壇6	*	*		c	半折断され	凝灰岩	(8.4)	5.2	(1.7)	(140) (140)	
土壇7	*	打製石斧	挽形	*	刃部のみ	硬砂岩	(4.7)	6.3	1.3	(60) (60)	
* 12	*	*	*	b	刃部のみ?	綠泥岩	(6.6)	4.0	1.1	(42) (42)	
* 27	208-3	挿入横刃石器	*	*	完形	硬砂岩	(5.5)	6.5	2.2	(120) (120)	
* 32			a	*	*	*	11.1	3.9	3.5	1.3 (90)	
* 31	209-4	石皿		完形		花崗岩	6.0	4.2	0.7	30 (30)	
* 35	-5	敲打器	a	*		硬砂岩	11.8	5.3	2.5	290 (290)	
* 38	-6	砥石	*	*		砂岩	30.0	16.0	11.0	11.0 (11.0)	
* 39	-7	敲打器	d	*		綠泥岩	10.2	1.8	1.5	40 (40)	
* 40	-8	大形粗製石器	c	*		砂岩	8.0	4.4	0.8	32 (32)	
* 42	-9	石頭		*		チャート	3.2	3.0	1.2	10 (10)	
* 44	208-10	搔器	b	刃部欠		硬砂岩	(11.4)	5.0	1.5	(170) (170)	
* 44		打製石斧	挽形		*	砂岩	11.0	11.0	1.8	392 (392)	
* 47	208-11	橫刃石器	a	*	完形	綠泥岩	7.0	3.7	1.2	(70) (70)	
* 52	-12	磨製石斧	b	頭部欠		硬砂岩	(11.0)	5.0	0.9	(82) (82)	
* 72	208-13	橫刃石器	a	*		砂岩	8.8	5.7	1.2	82 (82)	
* 39	211-21	*		c	*	砂岩	5.7	7.5	1.6	70 (70)	
* 77	210-14	大形粗製石器	d	完形	*	安山岩	(9.0)	4.4	0.9	(70) (70)	
* 15	-15	打製石斧	b	*	*	砂岩	14.3	3.3	5.8	2.9 (298)	
* 16	-16	*	短骨形	a	頭部欠	安山岩	(9.0)	,	4.4	0.9 (70) (70)	
* 18	-18	磨石		完形	*	砂岩	10.2	7.7	4.6	520 (520)	
* 17	-17	敲打器	b	半割れ		砂岩	6.2	4.4	(4.2)	200 (200)	
* 19	-19	橫刃石器	a	*		硬砂岩	11.3	5.0	0.7	55 (55)	
* 20	-20	磨製石斧		半割れ		綠泥岩	10.8	3.0	1.5	(85) (85)	
* 78	208-21	打製石斧	b	頭部欠		硬砂岩	(10.9)	7.2	2.0	(210) (210)	
* 211-22	*	短骨形	d	完形	*	花崗岩	12.2	3.5	4.6	2.2 (175) (175)	
* 85	-23	石皿		*		綠泥岩	33.0	21.0	5.0	530 (530)	
* 105	-24	磨き石	d	*		花崗岩	10.0	9.3	5.0	530 (530)	

出 土 地	探査番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
土壌105	212-26		打製石斧	我形	b	完形	硬砂岩	17.7	4.3	8.0	3.2
*	211-25			*	d	*	完山岩	15.9	3.0	7.6	1.2
土壌112	-27			短冊形	b	*	硬砂岩	10.4	4.0	5.5	1.7
*	212-28			*	*	*	*	13.4	3.6	4.3	1.6
*	-29			*	d	*	綠泥岩岩	13.3	4.0	4.5	2.7
土壌125				*	b	頭部欠	硬砂岩	(9.0)	4.5	1.1	(80)
*				*	*	*	*	(7.3)	4.0	1.1	(50)
*			磨製石斧	乳頭状石斧		刃部欠	綠泥岩	(12.6)	4.3	1.8	(200)
*	212-30		打製石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	12.0	4.0	4.5	1.7
*	-31		磨石			*	花崗岩	7.2	5.6	4.7	290
*			打製石斧	短冊形		頭部欠	硬砂岩	(7.3)	4.0	1.4	(50)
*	-32		横刃石器		a		*	11.0	7.8	1.7	165
土壌131	213-33		打製石斧	短冊形	d	完形	砂岩	12.9	2.5	3.2	1.0
*	-34		磨石			*	*	5.0	4.6	3.7	115
土壌156	-35		敲打器		b	破片	綠泥岩	8.0	5.1	(2.5)	(180)
土壌173	-36		磨石	c		完形	硬砂岩	12.6	5.4	3.6	380
*	-37		横刃石器		*	*	*	4.9	4.0	1.0	28
土壌219	-38		特殊敲打器		b	*	綠泥岩	5.2	5.0	2.0	75
*	-39		磨石	*	*	*	硬砂岩	9.2	3.2	2.3	95
*	214-40		打製石斧	短冊形	*	頭部割れ	綠泥片岩	13.9	3.9	1.3	(110)
*				*	d	柄のみ	*	(12.1)	3.9	1.2	(125)
土壌224	214-41		石墨				花崗岩				
土壌240			打製石斧	短冊形	b	頭部欠	頁岩	(9.8)	3.8	1.1	(60)
土壌256	214-42		横刃石器	a			硬砂岩	6.0	7.5	2.0	(125)
土壌257			打製石斧	短冊形	d	柄のみ	綠泥片岩	(7.7)	(4.2)	0.9	(90)
*				*	b	刃部欠	硬砂岩	(12.7)	3.8	2.2	(220)
*				*	*	頭部欠	綠泥片岩	(9.5)	3.7	1.1	(60)
土壌267	214-43		磨製石斧	定角		刃部欠	*	(11.1)	3.5	4.7	2.1
土壌275			打製石斧	短冊形	d	*	綠泥岩	(10.6)	4.4	1.3	(90)
*	214-44		横刃石器	a		*	硬砂岩	10.3	5.2	1.3	100
*			打製石斧	短冊形	b	刃部欠	*	(8.6)	3.8	1.3	(70)
*				*	d	*	砂岩	(11.2)	3.3	1.2	(105)
土壌290	214-45			*	c	完形	硬砂岩	12.3	4.8	5.0	1.3
*				*	d	柄のみ	*	(8.2)	5.0	0.9	(50)
土壌303	201-46			*	*	b	刃部欠	*	13.7	3.8	4.8
*	-47			*	*	完形	*	12.1	3.5	4.1	1.3
											110

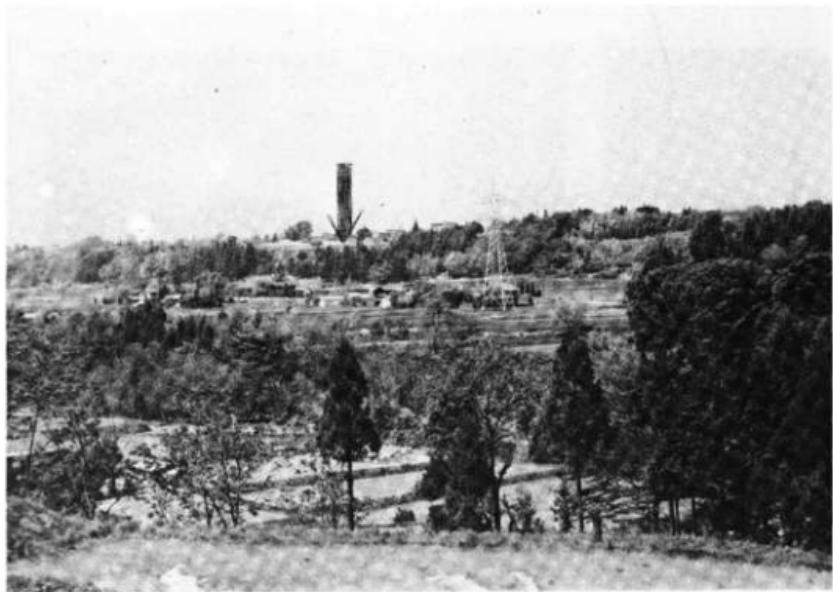
第IV章 おわりに

発掘前予想した以上に大きな成果を挙げて調査を終えることができ、また報告書が刊行されるに至り大変嬉しい思うと同時に思うことの、考えることの半分も書けずに終わったことを残念に思います。限られた日数故、資料報告という形で報告書をまとめてみましたが、今回提起された問題は非常に大きな、また多くの問題があります。

今後の課題として真剣に取り組まねばと考えております。

発掘調査から整理作業の間多くの皆さまからご教示、ご指導いただきましたことに対し心から感謝申し上げおわりといたします。

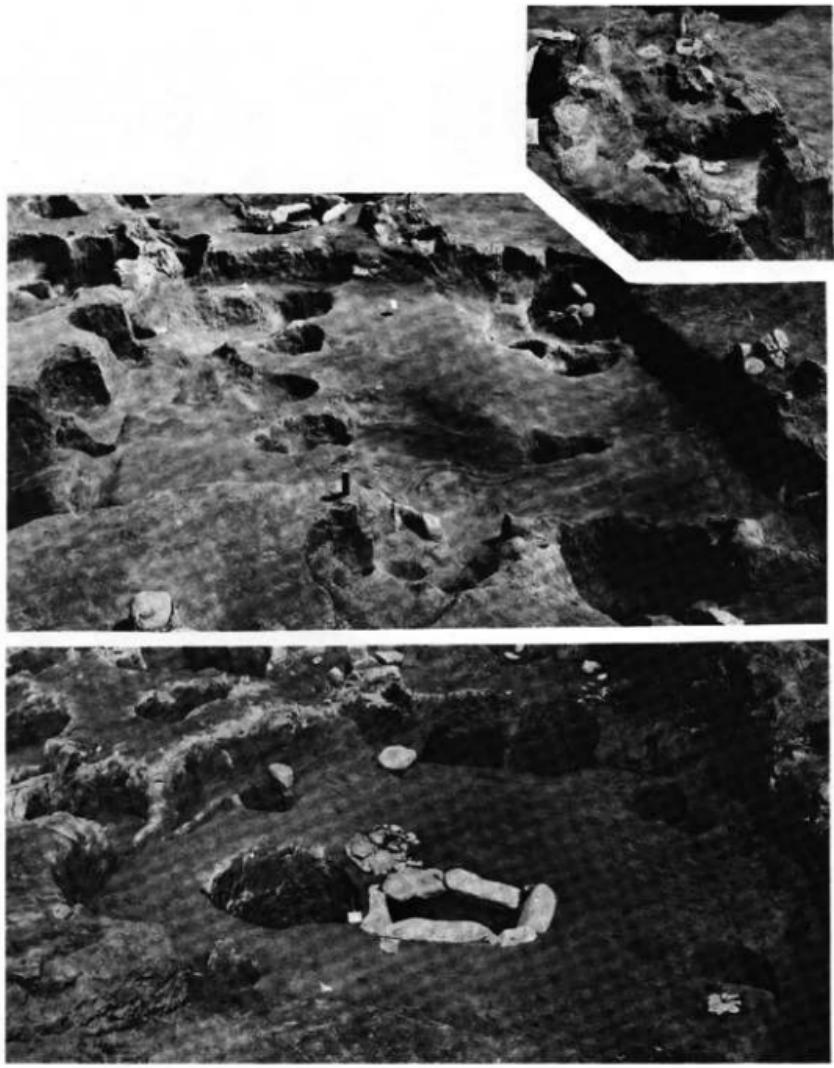
図 版



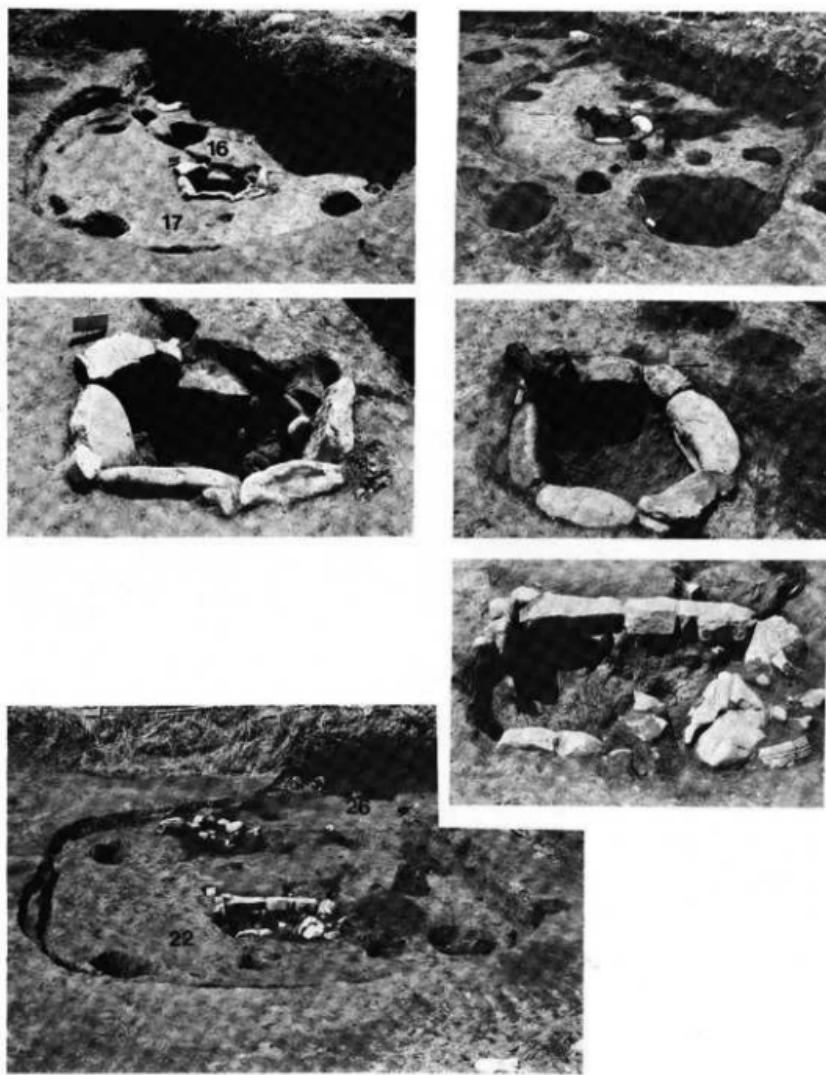
図版1 原垣外遺跡遠景（上は南東より、下は東より）

図版2 原垣外遭断崖構全景（上は南より、下は西より）





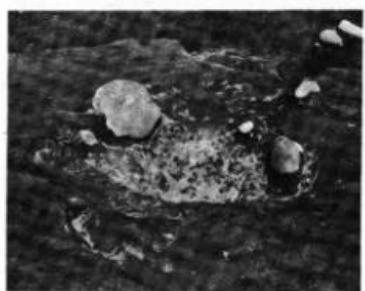
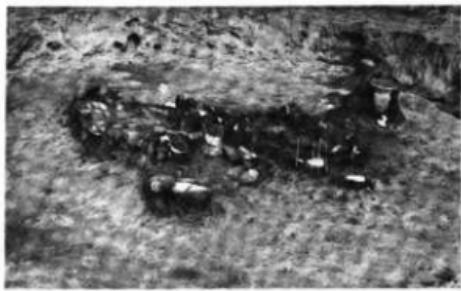
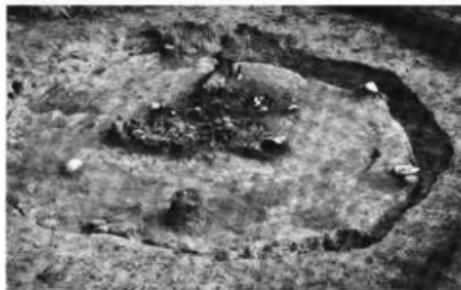
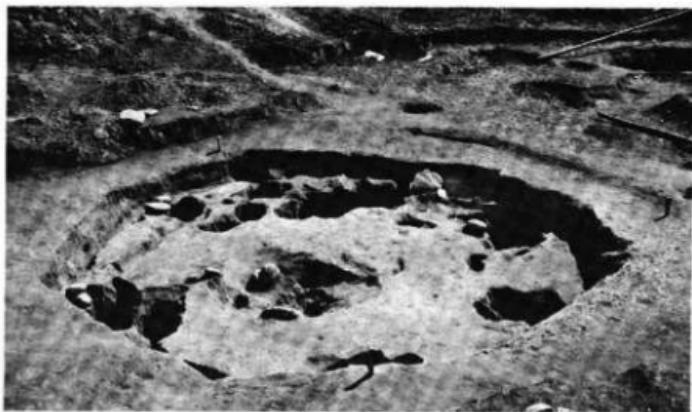
図版3 第14・15号住居址（上は第14号住居址（西より）、右下同窓 下は第15号住居址（南より））



図版4 第16・17・18、第22・26号住居址（上左は第17号、上右は18号、下は第22号住）



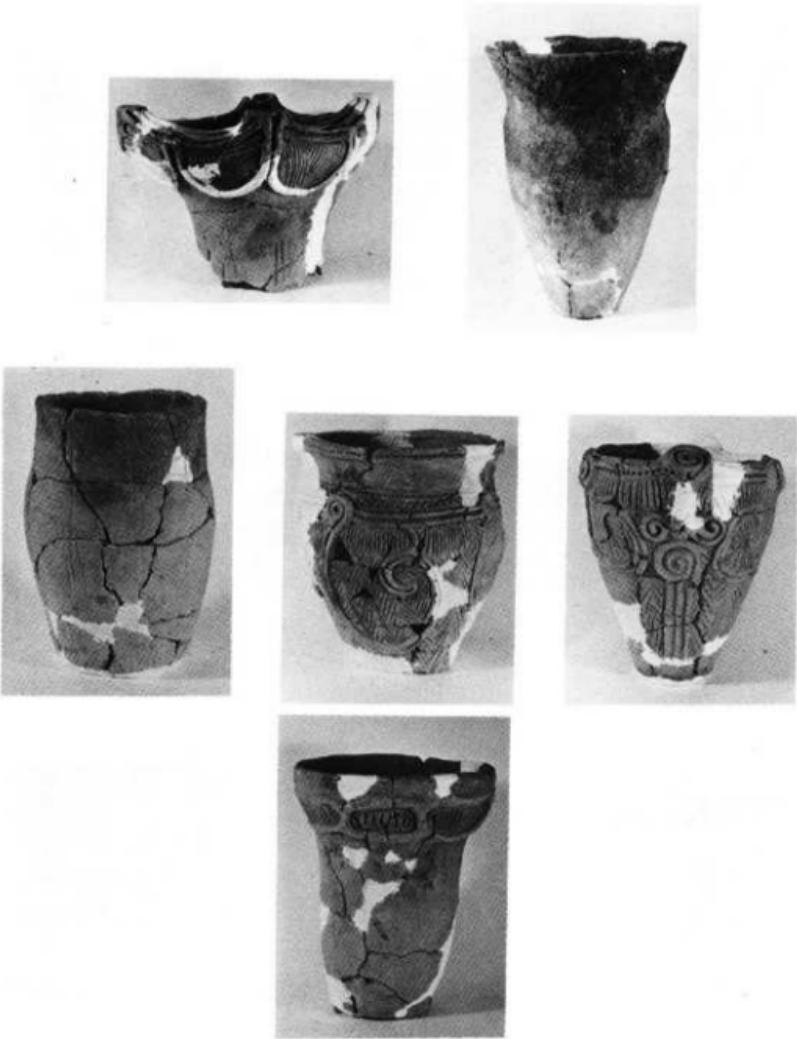
図版 5 第22・23号住居址（上は第17号住（北より）中は同埋甕、下は第23号住）



图版 6 第25号住居址



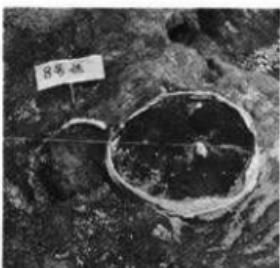
图版 7 第25号住居出土土器



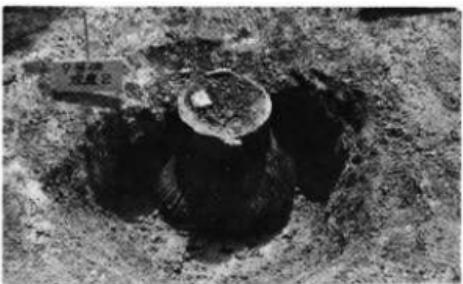
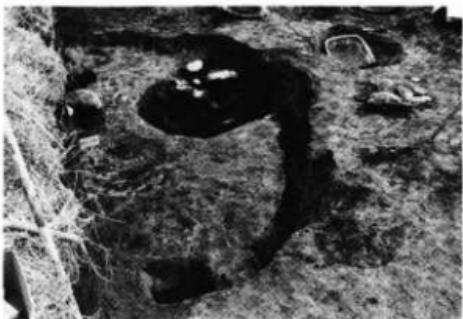
图版 8 第25·26号住居址出土土器（上、中段25号，下段26号）



図版9 第1・3・4・6号住居址（西より）



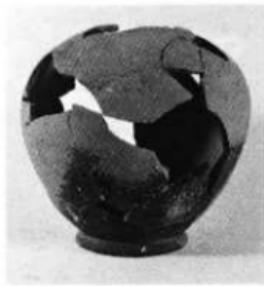
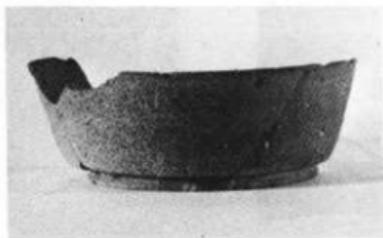
図版10 第1号・2号・8号住居址（上左は1号住が、上右は2号住、中・下段は8号住）



图版11 第9号住居址埋甕



图版12 第11号・12号住居址（上左11号炉、上右12号炉、下段12号住）



図版13 第19号住居址と出土土器



图版14 第20号·27号住居址（上段20号、中·下段27号住居址）